

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【教育】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (中間)	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (年度末)
<p><中期目標 1 > 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の人材の育成が学位プログラムとして担保されるよう、体系的で国際通用性を有する教育課程や個々の科目の目標等を平成 30 年度までに整備し、周知・運用する。その一環として、一体的に策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、整合性などを継続的に見直し、必要に応じて適切な改正を行う。さらに、教育の国際通用性を検証するため、全学的な教学マネジメントのもと、教育成果の検証を含めた内部質保証、国際アドバイザーによる外部評価等を実施する。大学院課程では、第 3 期中期目標期間中に、教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組と質の高い学位プログラム構築を行う。 <全学教育改革推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画について、(1)および(3)については取組がなされている。しかしながら、(1)については、教育課程における体系性と国際通用性の確保の観点から、取組の成果が提示できるか危惧される。(進捗不十分) ・(2)について、「妥当性、適切性および周知状況を検証する」ことになっているが、現状の取組ではその成果が具体的に提示できないことが危惧される。(進捗不十分) ・当該中期計画の中心となる 1-①-2 および 1-①-3 について、現状の進捗では具体的な成果が出るか危惧される。なかなか良好な進捗が難しい中期計画とは思われるが、「全学として組織的に実施している」ことが明白に提示できるよう配慮いただきたい。(進捗不十分) ・学部の 3 ポリシーの検証と見直しは行われたが、それ以外の計画は大きく進捗しているとは言えない。特に、全学としての「国際通用性を有する教育課程」が何を意味するかについての議論が進んでいない。(進捗不十分) ・遅れている国際通用性の要件設定を早急に進めていただき、各部局において国際通用性のある評価基準やナンバリングの導入、カリキュラムマップ等の作成を実施し、教育課程が体系的で国際通用性のあるものとなるよう検討を進めていただきたい。(進捗不十分) 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の細分化された具体の計画の進捗は必ずしも良好ではないが、少なくとも文科省提出年度計画について、(1)～(3)については予定の取組がなされている。なお、(2)については、周知状況が明らかにされていない。 ・(2)では「妥当性、適切性等を検証する」としているが、検証したことを明確に示すことができる資料が作成できるよう準備願いたい。 ・当該計画では、「体系的で国際通用性を有する教育課程や個々の科目の目標等を平成 30 年度までに整備し、周知・運用する」としているが、実際にこれが達成できるのか、確認願いたい。また、「整備できた」ことを示す具体的な資料も作成できるよう準備いただきたい。 ・当該計画のアウトカムはここで求める力等を持った人材がどれくらい育成されたかであり、その成果を具体的に示すことができる定量的指標の設定・収集を早急に検討いただきたい。 ・当該計画では「教育の国際通用性を検証するため」としており、アウトカムは「国際通用性がある」ことであり、それに対する具体的なエビデンスが出せるよう検討願いたい。 ・学部の 3 ポリシーの検証と見直し及びナンバリングの導入は行われたが、依然としてそれ以外の計画が大きく進捗しているとは言えない。特に、平成 30 年度までに「教育課程の国際通用性・体系性」を確保するためには、他大学の状況も参考にしながら、「国際通用性」に関する議論をさらに進める必要がある。 ・カリキュラム・授業評価委員会は活動を開始したが、平成 29 年度中に 1 回しか開催されておらず、今後その実際の役割についてさらに検討する必要がある。 ・年度計画 (2) について、各部局で独自の検

				<p>証は行われたようだが、全学的な検証が行えるよう、教育課程（科目毎の目標、科目配置、科目間の関連性などの妥当性、適切性）の検証項目、検証方法を定め、成果として全学的な検証結果が提示できるようにしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相応の進捗は認められるが、全学的に統一された取組の有無、その検証の結果等が十分に確認出来ない。
	<p>1-①-1 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに求められる要件を整理したうえで、策定済みの各ポリシーの内容及び一体性を検討、必要な改定を実施する。その後も、継続的に見直す。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部のカリキュラムアンケートで新しく作成した3つのポリシーについて、認知度を検証することになってはいるが、<u>AP、CP、DP との整合性等の点検についても継続的に実施していただき、その検証結果を資料として提示できるようにしていただきたい。</u>（進捗不十分） 各ポリシーに照らして改善等された内容やその成果（<u>授業改善、学習成果の向上、AP の実質化・明確化、進路状況</u>）等の具体の取組、成果を資料として提示することができる。と良い。（進捗不十分） 昨年度、全学の3ポリシーが策定され、各部局ではそれに合わせ3ポリシーの検討がなされている。さらに、大学院の3ポリシー策定に向けて準備がなされている。 3ポリシーのHPでの公開など、周知に繋げる取組がなされている。また、その周知状況の検証が具体的に計画されている。 以上のように、年度計画に沿って取組が実施されている。 <u>3ポリシーの周知状況を記載願いたい。</u> <u>医学部だけではなく、全学としての成果も記載願いたい。</u> 学部の3ポリシーに関しては、平成28年度中にポリシー作成作業部会において整合性の確認や見直し作業が行われたが、大学院については、なお議論が進んでいないと言えない。「大学院構想の方向性が固まっていない」なかで、「年度内に素案を作成」できる見通しはあるのか。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果として「各学部で3ポリシーの内容・一体性について継続的な検証が行われている」ことを評価委員会で確認したとされているが、その<u>具体的な検証結果を提示できるようにしていただきたい。</u>また、三つのポリシーは策定されているが、当該計画は国際通用性のある教育課程の整備であり、その人材育成の目標・目的に沿った三つのポリシーとなっているか、検証が必要である。（進捗不十分） 3ポリシーを周知することとしてHPで公表しているが、具体的な周知状況が明らかでなく（<u>達成状況が明らかでない</u>）、<u>周知状況はいかがか？周知状況が低いならばそれを向上させる具体的な方策の策定が望まれる。</u>（進捗不十分） 検討が進められてはいるが、大学院課程のポリシーを暫定評価時まで策定できるよう、具体的な検討を進めていただきたい。（進捗不十分） 3つのポリシーの周知状況が不十分である学部や周知状況についての数値データが示されていない学部が見受けられる。また、内容・一体性の検証が具体的にどの程度行われているかが確認できない学部がある。<u>今後、これらの点について、具体的に記載願いたい。</u>（保留） カリキュラム・授業評価委員会の検証結果を見る限りでは、AP、CP、DP の点検方法について定まっていないうように感じる。部局や部署をまたがった継続的な検証を進める必要があることから、困難ではあると思うが、全学的、各部局・部署で必要な具体的な点検項目や点検

				<p>方法を、まとめていただき、成果としていただけると良い。また、各種アンケートで点検が行われていると思われるが、アンケート以外の関連データからも検証が行われ、成果とできると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ポリシーの周知状況の検証結果は、全学でまとめて資料として提示できるようにしていただきたい。 ・三つのポリシーについて、各学部でどのような検証結果となったかが、不明確である。
	<p>1-①-2 カリキュラムマネジメント（2-①-2）の一環として、教育課程が学位プログラムとしての体系性・国際通用性を有しているか検証し、必要な改善を（各部署の改組等にもあわせて）行い、周知・運用する。その後も継続的に見直す。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞</p>	<p>1-①-2-1 (1-①-2-1-1～7)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際通用性の要件、カリキュラムの体系性の検証方策など、全学として定められたうえで、各部署が実施することになっているが、全学としてどの程度まで具体的に案等が策定されたのか不明瞭である。このため、年度計画であげられた「ナンバリングの導入」がなされるのか、危惧される。(進捗不十分) ・どこまで達成出来たら「教育課程の国際通用性・体系性が確保できた」と言えるのか、具体的な要件は想定できているのか。また、カリキュラム・授業評価委員会とは思われるが、全学的な検証体制は整備されているのか明らかでない。(進捗不十分) ・日本語プログラムの整備は進捗率0%であるが、本年度後半での取組みの実施が必要である。(進捗不十分) <p>以上のことから、進捗状況からは目標の達成がなされるのか明らかでなく、進捗が不十分」とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学としての成果を記載願いたい。 ・「<u>〃の検討を進めている</u>」と記載されているが、<u>どの程度まで進んでいるのか、現状が分かるように記載願いたい。</u> ・「国際通用性」の要件策定等の議論はポリシー作成作業部会において開始されているようであるが、カリキュラム・授業評価委員会との関係はどうなっているのか。そもそも、カリキュラム・授業評価委員会は現時点までに一度も開催されていないのではないか。この問題に関する議論をどこでどのように進めていくのか依然として必ずしも明確になって 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学教育推進センター運営委員会が「国際通用性」の「素案」を示したとあるが、「国際通用性」とは何を意味するのか明確に確定しないままに、各学部が主観的に国際通用性を高める取り組みであると考えているものを寄せ集めてみても、それは本学においてしか通用しないのではないかと。今後、「国際通用性」の内容を明確に定義し、各学部における取り組みがそれに対応しているかどうかを確認していただきたい。 ・ナンバリング、カリキュラムマップ作成については、進捗したものと感じるが、教育課程の体系性・国際通用性を有しているかの検証を行うに至っていないようなので、教育課程の検証項目、検証方法を定めていただき、全学的な検証を進めていただきたい。また、今回、作成された国際通用性の要件について、現在の教育課程との妥当性の検証を行っていただき、資料が提示できると良い。 ・(評価指標) 専門教育での多様な英語教育（授業等）の整備が実際にどこまで行えるか、現状ではかなり厳しい感じがするが検討する必要がある。 ・ナンバリングの成果について、今後、学生サイドの意見を確認いただきたい。 ・カリキュラムマップの作成状況の確認が出来ない。

			<p>いない。(進捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部レベルでは、3ポリシーの検証が終了していることから、ナンバリング、カリキュラムマップ/ツリーの議論をもっと進めることができるのではないか。(進捗不十分) 国際通用性の要件設定を早急に進めていただき、国際通用性のある評価基準やナンバリングの導入、カリキュラムマップ等の作成を実施し、教育課程が体系的で国際通用性のあるものとなるよう検討を進めていただきたい。(進捗不十分) 今年度の年度計画にある三つのポリシーに基づく、科目毎の目標、科目配置、科目間の関連などの妥当性・適切性の検証結果が資料として提示できよう準備を進めていただきたい。(進捗不十分) 	
	<p>1-①-3 教育の国際通用性を検証するため、2-①の全学的な教学マネジメントの下、教育成果の検証を含めた内部質保証、海外大学ベンチマーキング（毎年）、国際アドバイザーによる外部評価（3年毎）等を実施する。</p> <p><副学長（教育・学生）> <副学長（国際）></p>	<p>1-①-3-1 1-①-3-2 (1-①-3-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-①-3-1 について、教育の国際通用性を確保する内部質保証の取組がどの程度進んでいるのか、明らかでない(進捗率0%とされている)。また、どのようにして検証するのか、その実施体制も明らかでない。(進捗不十分) 本年度は教育の国際通用性に焦点を当てているが、教育成果の検証については具体的な取組が予定されているのか。(進捗不十分) 1-①-3-2 について、ベンチマーキングに関しては、国際地域学部が本年9月に実施しており、さらに平成30年度でも実施が予定されている。 国際アドバイザーによる定期的教育評価が実施されている。 <p>以上のように、1-①-3-2 については概ね良好に進捗しているが、1-1-3-1 については不十分であり、全体として「進捗が不十分」とした。(進捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学としての成果を記載願いたい。 ベンチマーキングによる成果も記載願いたい。 海外大学ベンチマーキング、国際アドバイザーによる外部評価は行われているが、その結果が本学における「国際通用性」や「内部質保証」に関する議論にどのように反映されているのか、必ずしも明確になっていない。(進捗不十分) 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況の記載では、「<u>具体の取組</u>」だけでなく「<u>成果</u>」を記載願いたい。 海外のベンチマーキングが実施されているが、<u>改善に繋がる具体的な成果を示せるようにしていただきたい。</u> 国際アドバイザーによる評価を実施したことを受けて(大きな教育評価のイベントでもあり、その評価結果がどのように改善に資することができたのか、その成果とともに具体的に示せるようにしていただきたい。特に、「<u>国際通用性の確保・向上</u>」にどのように寄与したかを示せるようにしていただきたい。 認証評価では大学支援機構の策定したガイドラインに沿って「教育活動の内部質保証システム」を構築することが求められている。平成30年度中に具体的なシステムの構築が当該計画において急務である。これに関連し、「質保証をした」ことのエビデンスが必要である。 海外大学ベンチマーキング、国際アドバイザーによる外部評価は行われているが、その結果が本学における「国際通用性」や「内部質保証」の改善にどのように寄与しているのか、依然として必ずしも明確になっておらず、<u>今後、外部</u>

				<ul style="list-style-type: none"> ・各部署等で実施する教育の国際通用性の検証結果、教育成果の検証結果を資料として提示できるようにしていただきたい。また、全学的に共通する内容・項目については、全学で同じ指標により検証されることが望ましい。 	<p><u>評価が自己目的化しないためにも、外部評価の結果が改善にどのようにつながったか記載する必要がある。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の内部質保証の制度、組織作りを進め、国際通用性を見るための検証項目、その目標値等を決めていかないと評価指標が何も無いままに進めていくことになるので、全学的な指標での検証が進められるよう実施体制を整備していくことが必要であると思われる。 ・海外大学のベンチマーキングにより、具体的にどのような成果が得られたのか、記載内容でもわかるようにしていただくと良い。また、ベンチマーキング等を実施したことにより、何か改善等されたものがあれば提示できると良い。 ・取組が進められている点は良いが、それが内部質保証にどのように反映されているか、確認出来ない。
		<p>1-①-4 教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組を行い、それにより質の高い学位プログラムを実現する。</p> <p><教育学研究科> <工学研究科></p>	<p>1-①-4-1 (1-①-4-1-1~2)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改組等に向けて、着実に取組が進められていると思われる。 ・改組のための委員会や WG は設置されつつあるが、今後、どのようなスケジュールで議論を進めるのかを明確にすることが望ましい。 ・「質の高い学位プログラム」の内容を説明できるようにする必要があるのではないかと。 	<p>(検証結果) 進捗状況は概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改組等に向けて、着実に取組が進められていると思われる。第3期中に実施していただきたい。その際、改組によって「質の高い学位プログラム」が実現できたことを示せるようにしていただきたい。 ・中間検証の際にも指摘されていたが、今後「質の高い」ということの意味を説明する必要があることを念頭において計画を進めることが望まれる。 ・具体的にどのように改組の計画がされるのかわからないので、何が機能強化されるのか、より質の高い学位プログラムの内容は何か等、可能な範囲で検討が進められている改組の内容、決定された方針を具体的に記載していただくようにしていただくと良い。まだ公表できないものであれば、概要やスケジュール等だけでも示せると良い。 ・計画通りに進捗していると考えます。

	<p>1-①-5 グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の育成状況を確認するため、養成人材像およびディプロマ・ポリシーで謳われた能力等（地元企業等の求める職業能力を含む）の涵養状況を検証する。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞</p>	<p>1-①-5-1 (1-①-5-1-1～6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「能力等の涵養状況」の指標と検証方法の策定は、各部局でそれぞれ独自に行うのか、それとも全学として策定するのかについて、意思統一はなされているのか。この点に関して、カリキュラム・授業評価委員会がどのような役割を果たすのか、確認はされているのか。(進捗不十分) ・各部局では能力等の涵養状況等の検証のための調査がそれぞれなされている。しかしながら、具体の予定される取組みでは、「定められた検証方法によって」とされているが、その点はいかがか。 ・検証結果は教育改善に資するとされているが、関係する具体的な取組は予定されているのか。 ・涵養状況の検証は、定められた検証方法によって全学的になされるものであり、また年次推移が分かるようなものとなっているか確認願いたい。 <p>以上のように、当該計画の基盤となるアンケート調査等が各部局でなされており、計画はおおむね順調と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>検証状況の結果の抜粋（向上度合いがわかるような）を記載願いたい。</u> ・能力の涵養状況と人材の輩出（育成）状況の検証方法について、全学または各学部でまだ明確に定められていないのではないかとと思われる。具体的な到達目標を達成したかどうかを検証するには多様な項目（教員による評価、卒業論文などの長期にわたる活動全体の評価、国家試験などの外部指標による評価など）の分析を行う必要があるのではないかと考えるが、全学で何をどのように分析していくか、ある程度統一的な方針の下で、今後の検証を進めていただきたい。 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「定められた検証方法によって、能力等の涵養状況や人材の輩出状況を検証」することとしているが、具体的な検証方法は策定されているのか、各学部ではそれぞれ検証しているようだが、全学としてどのように検証しているのか明らかでない。少なくとも全学的に共通な能力等（当該計画・目標で謳っているもの）については、その涵養状況を組織的に検証する必要がある。もちろん、経年的なデータは必須となるので、それに対応できるような検証内容・スケジュールを設定しなければならない。計画 1-②-3 とも関連する。 ・具体的な検証結果が示されていないので、<u>検証状況の結果の抜粋（向上度がわかるような）を記載願いたい。</u> ・「グローバル化社会において求められる高度専門職業人」の能力等の涵養状況の「定められた検証方法」は学部それぞれで定めるのか、全学共通のものとするのかについて、再度確認する必要がある。 ・各学部において、平成 31 年度まで継続的に検証できる体制が整っているのかを確認する必要がある。 ・毎年、継続的に検証を行う必要があるため、検証項目、指標は統一的で妥当性があるものとしていただき、検証を行う内容が明確になると良い。 ・進捗状況に「定められた検証方法」と記載しているが、内容が不明なので、何をどう検証したのかが、わからないので、調査項目や資料名などを具体的に記載していただき、検証した内容と改善した成果がわかるように記載していただきたい。 ・「定められた検証方法」に則り、全学的な統一基準で検証が行われているのかが不明。
--	--	---	---	--

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

<p>1-② 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるため、教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。また、教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出の年度計画には「～に照らし十分な学習効果をもたらしているかの検証及び改善を行い」としているが、該当する取組が必ずしも十分なされていないのではないか。（進捗不十分） ・同様に、プロジェクト型授業等の実施状況を調査しとしているが、該当する取組がなされていない。（進捗不十分） ・アクティブ・ラーニングの学習効果が高いことや、知識・技能・能力等の修得状況の検証方法が、現時点では必ずしも明確になっていない。 ・高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるための教育方法の導入状況とその効果および改善の状況を各学部・研究科で提示できるようにしていただきたい。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出の年度計画（1）には「～に照らし十分な学習効果をもたらしているかの検証及び改善を行い」としているが、該当する取組が必ずしも十分なされていない。また「より高い学習効果が期待できる授業方法等の普及」に係る取組はなされているのか、明らかでない。（進捗不十分） ・当該計画のアウトカムは「高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などがより確実に修得された」であり、教育方法の妥当性・効果の観点から、「これら教育方法等によって能力等がより修得できた」ことを具体的に示せるようにしていただきたい。（進捗不十分） ・アクティブ・ラーニングの学習効果が高いことの検証方法に加えて、「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力」を学生が身につけたことをどのように検証するのか、依然として必ずしも説得的に示されていない。（保留） ・年度計画（1）について、アクティブ・ラーニング以外の取組の記載がないので、高い学習効果が期待できる優れた教育方法等の取組として取り上げられるようにしていただきたい。 ・高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるための教育方法の導入状況とその効果および改善の状況を各学部・研究科で提示できるようにしていただきたい。 	
<p>1-②-1 教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。</p> <p>特に、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1～6)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPIであるアクティブラーニングの導入状況が昨年度よりも増加し4割となっており、順調に取組みがなされている。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPIであるアクティブ・ラーニングの導入状況が昨年度よりも増加しているようだが、全学としてどのような数値となったのか示してい

			<ul style="list-style-type: none"> ・導入による学習成果の検証が予定されているが、検証方法の策定等がなされているが、本年後半に実施していただきたい。 ・教育効果の高い授業方法としてアクティブラーニングのみが取り上げられているが、これ以外の方法について具体的に検討しなくともよいのか。 ・今年度以降も引き続き、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目の割合は増加する見込みはあるのか。FD活動以外に増加させるための具体的な方策はあるのか。 ・アクティブ・ラーニングの学習効果が高いことの検証方法を今年度内に策定するという目標を達成する必要がある。 ・各学部におけるアクティブ・ラーニング科目の現時点での比率を確認する必要があるか。 	<p>ただきたい: <u>取り纏め部署では、K P I の数値を明確に示し、どの程度の進捗状況にあるのか、また目標は達成できそうなのか等、を明確に記載できなければならない。</u>（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では、学習効果の検証、導入状況の調査をおこなうとしているが（随時行うとしている）、これに係る取組みや成果はどうか。これらは経年的にフォローすべきであり、そのあたりは具体的な措置が取られているのか。もし行われていないならば、早急に対応しなければならない。（進捗不十分） ・AL 以外の効果的な教育方法は具体的に導入されているのか。（進捗不十分） ・学生による自己評価をアクティブ・ラーニングの学習効果が高いことの検証方法としてよいかを全学的に確認する必要がある。また、その場合、どのような結果が出れば「学習効果が高い」とするのかについて、全学的な合意があるか否かについても確認する必要がある。 ・教育効果の高い授業方法として、アクティブ・ラーニング以外の学習成果について、具体的な取組、成果についても、検討し、記載できるようにしていただきたい。例えば、授業評価、カリキュラム評価アンケート結果などから、英語運用能力、コミュニケーション能力、プレゼン能力など、大学で身につけた能力などで、評価の高かった授業方法などはなかったか。
	<p>1-②-2 教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。</p> <p><教育学部></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-②-2-1 について、「～について議論している」として具体的な検討がなされているが、年度計画で示した本年度中に新教育課程の策定ができるのか今のところ不明確である。また、能力の育成状況の検証方法に関する検討が進んでいるのか明らかでない。（進捗不十分） ・1-②-2-2 について、「～を設立するための準備に入った」とされているが、全体計画としてどの程度進捗しているのか、明らかでない。（進捗不十分） <p>以上のことから、進捗状況が明白でなく、そこで「進捗状況が不十分」とした。</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画のアウトカムは「学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力の育成」です。<u>これを検証できるよう、準備願います。</u> ・1-②-2-1 の計画では「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力の育成状況の検証方法を検討する」となっているが、検証方法についての議論がどのように進捗しているのか不明である。<u>次回から、その点について記載していただきたい。</u>（保留） ・アクティブ・ラーニングを展開できる能力の育

			<ul style="list-style-type: none"> 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるための教育方法の導入状況とその効果および改善の状況を各学部・研究科で具体的に提示できるようにしていただきたい。 	<p>成状況を示すことができるよう検証方法の検討をお願いしたい。</p>
	<p>1-②-3 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などの修得状況を検証する。 <全学教育改革推進機構></p>	<p>1-②-3-1 (1-②-3-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部局では随時修得状況の検証が行われている。 各部局の検証結果を集約し、分析の上、改善に資することが本年度中に可能なか明らかでない。 能力等の修得状況の検証は、あくまでも全学として組織的に実施していることを提示できるようにすることを配慮いただきたい。 <u>全学としての分析結果等の概要を記載願いたい。</u> 工学部について、学部新生対象の PROG テストによる検証結果しかないか。既に実施されている内容で、高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などについて、在学生・卒業生の修得状況を検証した取組みや改組後改善された点とその成果等を掲載できると良い。 一部の学部において、能力等の修得状況の検証方法を学生の自己評価としているようであるが、それ以外の検証方法を考える必要はないのか。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部局では随時修得状況の検証が行われている。そこで、<u>全学としての分析結果等の概要を記載願いたい。</u>少なくとも全学として高度専門職業人として備えるべき能力等について、経年的に修得が向上していることを示せるように配慮願いたい。 一部の学部において、能力等の修得状況の検証方法を学生の自己評価としているようであるが、<u>それ以外の検証方法を設定していただきたい。</u> 修得状況に低い能力等について、その修得をより促すような取組は具体的に なされているのか。 <u>当該目標では「ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する」としており、少なくともミッションの再定義で掲げた各分野の人材の育成状況はそれぞれの部局で十分把握していなければならない。</u> 今後、各学部における検証が「教育方法の改善」にどのように活かされたかについて、さらに記述できるようにすることが望まれる。 各部局で高度職業人として必要な知識・技能および課題探求能力等の修得状況を何で説明できるか、検証項目を可能な範囲で明確に決めて、経年で検証できるようにし、検証した結果から、教育方法の改善に活かされたものがあれば、掲載できるようにしていただきたい。 大学院に関して、具体的な取組等があげられていないが、何か、修得状況の検証は行われていないのか。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

<p>1-③ 学生の主体的な学びの確立に向け、修学環境を維持・向上させるとともに、学習管理システムやシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。また、学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成 29 年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画の K P I である学生の授業外学修時間の向上に係る取組み、修学環境の改善等は順調に進んでいるが、G P A 導入を含め成績評価に係る取組みは以下のように必ずしも十分でないように思われる。(進捗不十分) 特に、米国型 G P A の導入およびアセスメントポリシーに策定（平成 30 年度より実施）は本年度中に完了していただきたい。(進捗不十分) GPA、アセスメント・ポリシー等に関する計画が順調に進展しているとは言えない。(進捗不十分) 全学的に遅れている国際通用性のある GPA 制度導入の検討および多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）の整備に向け、早急に検討を進めていただきたい。(進捗不十分) 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の授業外学修時間の向上に係る取組み、修学環境の改善等は概ね進んでいる。 以下にも記載したが、「<u>学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成 29 年度までに導入）に代わる取組み・成果が必須である。</u>具体的な対応が望まれる。 当該計画に記載された「<u>修学環境を維持・向上させるとともに、学習管理システムやシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動</u>」について、<u>関係者からの満足度、利用状況等の経年的データの収集・分析が必須</u>である。 当該計画でうたっている「<u>国際通用性のある厳格な成績評価を行う</u>」について、そのような評価が行われていることを示す具体的なエビデンスを検討願いたい。また、その評価の妥当性はどのように担保しているのか検討願いたい。 13 段階 GPA の導入、アセスメント・ポリシーに基づく成績評価方法の検証、厳格な成績評価に関する FD 活動等の計画の進捗が全般的に遅れているか、停滞している状況にある。 年度計画 (2) について、米国型 GPA の導入、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）整備の取組がほとんど進展しなかったため、取組を進めていただきたい。 <p>(平成 30 年度の計画変更が必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全般的に取組は進捗しているが、平成 29 年度導入が目標となっている GPA については、至急の対応が必要である。 	
<p>1-③-1 図書館、ICT 環境、自主的学習環境、学生の交流拠点などのハード面の修学環境について、利用状況や満足度を検証しつつ、維持・向上させる。</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>1-③-1-1 (1-③-1-1-1~7)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの部署で、修学環境の改善が具体的に進んでいる。 昨年度実施された学生生活実態調査の結果に基づき、改善が図られている 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの部署で、修学環境の改善が具体的に進んでいる。そこで、その成果の一つとして関係者（利用者）の満足度があるが、<u>満足度の向上を示せるようにデータの収集等を進めてほ</u>

			<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの修学環境の利用状況も把握願いたい。 ・整備する「学生の交流拠点」とは具体的にどのようなものか。 ・定期的な修学環境の利用状況調査を行うとともに、年度毎に実施した修学環境等の整備状況と改善後の成果や学生の満足度を提示できるようにできると良い。 	<p>しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの修学環境の利用状況も把握願いたい。 ・満足度調査が全学的に行われているだけでなく、その結果が改善に活かされているかどうかを確認することが望ましい。 ・29年度の全学における修学環境の整備状況（教室、自主学習室、情報機器、システム更新状況等）を一覧として作成し、毎年度、提示できるようにしていただきたい。また、学生等からの要望により整備されたものについても、わかるように整理していただきたい。 ・障害者への対応で整備したものについても重要度が高いように思われるので、実績としてはどうか。 ・改善された修学環境に対する成果や学生の満足度等が今後、資料として提示できると良い。 ・様々な取組が行われているが、満足度調査が行われ、その結果がどうであったかが不明。
	<p>1-③-2 学修管理システム（LMS）やシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-③-2-1 (1-③-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の授業外学修時間を現状の1.5倍以上に向上させることに向け、様々な取組みが実施されている。 ・最新の学生の授業時間外学習時間を記載願いたい。 ・シラバスへの記載状況を記載願いたい。 ・LMSの利用向上率を記載願いたい。 ・学生の授業外学修時間が現時点でどの程度伸びているかを意識・満足度調査、カリキュラム・アンケート、各学部の学生アンケート等で確認する必要がある。 ・学生生活実態調査等から授業外学習時間を導き出すものと思うが、授業外学習時間の定義が曖昧なままであると、少ない時間数しか回答されない可能性があるように感じるため、学生に授業外学習時間の定義が何を指しているのかを明確に伝えた上で回答を得るようにし、できるだけ明確な調査結果となるように工夫できると良い。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画のKPIに相当する「学生の授業外学修時間」の状況が記載されておらず、進捗を検証できない: <u>必須なKPIについては、必ず、現状、目標値の達成状況、今後の見通しを必ず記載しなければならない。</u> (保留) ・自主的学習活動を一層促す取組、実施状況、その成果を一覧できるよう資料を準備願いたい。(保留) ・「教員のLMSへの関心が高まり、稼働率の向上に繋がった」「双方向に展開するLMSの柔軟な活用が広がり」とあるが、<u>稼働率等に関する具体的なデータがあれば、記載することが望ましい。</u> <u>授業外学修時間についても、現状でどの程度増加したかのデータあれば、示すことが望ましい。</u> ・今後の検証に向けて、単位の実質化に向けたこれらの各取組の結果、学習の達成度が向上したことがわかる資料として提示できると良いが

				<p>可能か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの事後・事前学習 100%実施は評価されるが、それらの結果として授業外学修時間がどのような結果になったが把握できず、その資料を準備いただきたい。
	<p>1-③-3 学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度（平成 29 年度までに導入）とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>1-③-3-1 (1-③-3-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度までに米国型 GPA を導入することとしているが、国際地域学部の導入結果の検証はなされているのか明らかでない。(進捗不十分) ・「米国型 GPA の導入について検討するための体制整備を進めている」とされているが、学部によって温度差が見られる等、平成 30 年度実施が可能なか危惧される。(進捗不十分) ・本年度は「策定されたアセスメントポリシーに則り、成績評価方法等の妥当性を検証する」としている。現在作成に向けた検討が進められているとは思われるが、具体の予定された取組が達成できるのか危惧される。 以上のことから、進捗は必ずしも良好とはいえず、「進捗は不十分」とした ・全体の進捗率が 30%とされているが、進捗率が率い場合には達成に向けた予定等を記載願いたい。 ・「米国型 GPA 制度について、国際地域学部における導入成果を検証し、導入について検討するための体制整備を進めている」とあるが、実際には検証も体制整備もほとんど進んでいないのではないか。「平成 30 年度から全学的に学士課程において実施する」という目標が実現できる見通しがあるのか、再度確認する必要がある。(進捗不十分) ・全学教育改革推進機構は「各学部におけるアセスメント・ポリシーに則った成績評価方法などの検証状況を確認する」としているが、議論はこれからとされている。また、学部側ではアセスメント・ポリシーに関する記述がなかったり、「全学アセスメント・ポリシーに則り、成績評価方法等の妥当性を検証する」としている学部があり、認識が一致していないのではないか。この計画の議論の進め方は、全学的に確認されているのか。(進捗不十分) 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）」は策定されたのではないか？ ・「国際通用性のある厳格な成績評価」が実施されているのか、具体的な検証を進める必要がある。具体的な取組は考えられているのか。 ・当該計画では「学士課程では米国型 Grade Point Average (GPA) 制度を平成 29 年度までに導入」を目標としており、現実的には達成できていない。そこで、これを十分補完できる取組み・成果が必須であり、具体的に対応が検討されているのか、明らかでない。 ・米国型 GPA 制度について、国際地域学部における導入成果の検証が本格的に行われているとは言えず、平成 30 年度から全学的に学士課程において実施するための体制整備も進んでいるとは思われないことから、この目標を実現できるのか危惧される。 ・アセスメント・ポリシーは策定されたが、それに則って年度内に「成績評価方法等の妥当性を検証する」までには至らなかったことから、今後検証を進める必要がある。 ・「国際通用性のある厳格な成績評価」に関する FD 活動も全学的に行われているかどうか不明であり、この点について次回から記載していただきたい。 ・米国型 GPA を各部局が導入する必要性について理解が得られていない状況で、全体に進展が難しい状況となっていることはわかるが、現時点での方向性がどうなっているのか、わからないので、示していただけると良い。(全部局で根本的に 13 段階評価とする方向性でいるのか、

			<ul style="list-style-type: none"> ・全学的に遅れている国際通用性のある GPA 制度導入の検討および多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン（アセスメント・ポリシー）の整備に向け、早急に検討を進めていただきたい。（進捗不十分） 	<p>それ以外に国際通用性のある成績評価があるか模索中で検討を進めているのか。など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の方向性（評価方法等）が決まっていなくて、このままアセスメント・ポリシーも検討に入れないと思われる。また、成績評価基準の決定内容次第では、1-①-2 の教育課程の国際通用性項目など、他の項目にも影響が及ぶものと懸念される。 ・米国型 GPA 制度の導入目標年度は、達成できなかったもので、平成 30 年度以降に繰り下げて再調整することになるのか。 ・学士課程における米国型 GPA 制度は平成 29 年度までに導入することが目標とされているが、達成できていない。
	<p>1-④ 教員養成に係る学部、教職大学院と附属学園の三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施、他大学と連携した教職大学院の共同大学院化や国内外のネットワークの拡大など、教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。</p> <p><教育学研究科></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の年度計画に掲載されている市町教育委員会および福井県教育委員会に出向し説明会、および成果報告会を実施することになっているが、実施されたのか、または予定されているのかが不明であるため、実績として記載できると良い。 ・年度計画に沿って連合大学院の設置など、良好な進捗が見られる。 ・文科省提出年度計画に挙げられている「現職教員の教職大学院入学を支援する体制を構築する」に係る取組みは実施されているのか。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画（2）に記載された「現職教員の教職大学院入学を支援する体制を構築する」に係る取組は実施されているのか。 ・当該計画のアウトカムは「教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す」ことであり、その具現化を期待したい。 ・計画は概ね順調に進捗しているが、「学校拠点方式と地域拠点方式の運営とその見直し」、「学校拠点方式と地域拠点方式の運営とその見直し」について、今後より具体的に記述願いたい。 ・年度計画（1）について、市町村教育委員会、福井県教育委員会に出向し説明会、及び成果報告会を実施することになっているが、説明会、成果報告会が実施されたことが、記載内容ではっきりわからないので、年度計画どおり実施できていることがわかるように詳細に記載していただくと良い。説明会、成果報告会は、それぞれいつ、どこで、何回行われたのか。 ・全ての取組が順調に進捗していると考えますが、成果が不明であるので、今後は記述願いたい。

		1-④-1 教員養成に係る三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施 ＜教職大学院＞	1-④-1-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・ 具体の予定された取組に「地域拠点方式の運営とその見直しを行う」をあげているが、相当する取組はなされたのか明らかでない。 ・ 具体の予定された取組に「義務教育学校の運営方法について研究する」をあげているが、相当する取組はなされたのか明らかでない。 ・ 入学者数などから、取組は概ね良好に進捗しているものと思われるが、 <u>今回は上記の取組状況・成果を記載願いたい。</u> ・ <u>公表する機会の実施回数を記載願いたい。</u>	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・ 入学者数などから、取組は概ね良好に進捗しているものと思われる。 ・ 学校改革マネジメントコースの入学者数については記載されているが、「 <u>学校拠点方式と地域拠点方式の運営とその見直し</u> 」がどのように進捗しているのかについても記載していただきたい。 ・ 管理職コースを拡大及び附属学園の教員研修学校化促進による機能強化による成果（研修等の実績等）、改善点等を資料提示できるように進めていただきたい。
		1-④-2 他大学と連携した教職大学院の共同大学院化 ＜教職大学院＞	1-④-2-1	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・ 設置の認可が許可されたうえ、実際に設置されており、今後の成果が期待される。 ・ 引き続き、他大学との調整および具体的な組織化状況（学生の受入態勢等）について、資料が提示できるように進めていただきたい。	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・ 実際に設置されており、今後の成果が期待される。 ・ 連合教職大学院が設置され、今後、組織化状況、運営体制の整備体制、共同大学院による実績、成果等を毎年度、資料提示できるように進めていただきたい。
		1-④-3 国内外のネットワークの拡大 ＜教職大学院＞	1-④-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・ 順調に関連する取組が進められており、数値指標の増加を期待したい。 ・ <u>それぞれの年度末の数値を記載願いたい。</u>	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・ 順調に関連する取組が進められており、数値指標が増加している。 ・ 引き続き、連合教職大学院設置後の成果として数値指標の増加が期待される。
		1-④-4 教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 ＜教職大学院＞	1-④-4-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント)	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・ 予定の協定がなされており、今後の成果が期待される。 ・ <u>次年度以降、福井県教育委員会との協議の進捗状況を記載願いたい。</u> ・ 教職員支援機構、福井県教育研究所等との協働

				<p>による教員養成・教師教育のモデル作成に向けた取組実績が毎年度、資料として提示できるようにしていただきたい。</p>
	<p>1-⑤ 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築し、本学で蓄積中の先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善や、附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備、いじめ対策等生徒指導推進事業の推進、インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示を行う。</p> <p><教育学研究科></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細分化された中期計画については、それぞれの取組が実施されており、概ね良好な進捗と思われる。しかしながら、文科省提出年度計画では、「講義及び学生指導を行う」、「研修を実施する」があげられており、関連する取組が実際になされているのか明らかでない。（進捗不十分） ・各項目の本年度の具体的な数値での実績や改善状況が資料提示できるように進めていただきたい。 	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細分化された中期計画の多くが中間時より進捗していない。 ・文科省提出年度計画（1）について、「講義及び学生指導を行う」とされているが、その具体的な実績が明らかでない。 ・文科省提出年度計画（2）について、「研修を協働で実施する」とされているが、実施されたのか明らかでない。 ・当該計画では、具体的に、「<u>子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制の構築</u>」、「<u>発達障害についての教員養成カリキュラムの改善</u>」、「<u>附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備</u>」、「<u>いじめ対策等生徒指導推進事業の推進</u>」、「<u>インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示</u>」がなされなければならない、其々について具体的な成果が出るよう配慮願いたい（それぞれについて、具体の取組、状況、成果を提示する必要がある）。 ・医教連携の教育研究体制の構築へ向けての議論や活動が進展していることが記載からは読み取れない。 ・年度計画（1）について、実際に行われた授業や講演会）の回数、学生指導の実績、参加者数等の詳細を記載するか、資料として提供できるようにしていただきたい。 ・年度計画（2）について、附属学園の養護教員の発達障害等についての研修を実施するとなっていたが、実施できなかったのか。今年度は、研修システム構築の協議が行われただけなのか。 ・進捗率 50%の自己評価も多く、全体的に中間時よりの進捗が確認出来ない。

	<p>1-⑤-1 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 保留</p>
			<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>話題提供にセンター所員が参加しているが、具体的な人数、回数を記載願いたい。</u> ・<u>話題提供したことによる具体的な成果を記載願いたい。</u> ・当該中期計画では「医教連携の教育研究体制を構築」としているが、目で見えるような体制の構築に向けた取組みは進んでいるのか。 ・医教連携での授業の実績及び学校訪問参加の状況について資料提示ができるように進めていただきたい。 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>話題提供にセンター所員が参加しているが、具体的な人数、回数を記載願いたい。</u>（進捗不十分） ・<u>話題提供したことによる具体的な成果を記載願いたい。</u>（進捗不十分） ・当該中期計画では「医教連携の教育研究体制を構築」としているが、目で見えるような体制の構築に向けた取組みは進んでいるのか。以上の進捗状況（中間）で指摘された事項に対する対応がなされていない。特に、これら取組の成果があがっているか、明らかでない。（進捗不十分） ・中間検証時と同一の記載であるにも拘わらず、進捗率が 50%から 80%へと上昇している理由が記載されていないので、進捗状況を判断できない。（保留） ・医教連携による授業または研修の実績（授業（研修）名、参加者数、話題内容、事例検討等）について、毎年度、資料提示できるようにしていただきたい。 ・年に複数回実施されているのか、単発で終わっているのかの状況が確認できない。（保留）
	<p>1-⑤-2 先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善 <教職大学院></p>	<p>1-⑤-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>
			<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組では「カリキュラム改定を実施する」としているが、本年度中に実施できるのか明らかでない。 ・カリキュラムの改善状況と医教連携での授業実施状況（医学部教員の担当状況）について資料が提示できるように進めていただきたい。 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間時からの進捗が認められない。 ・具体の予定された取組では「カリキュラム改定を実施する」としているが、それが実現されたのか明らかでない。 ・計画では「カリキュラム改訂を実施する」となっているが、実施に至っておらず、進捗率も中間検証時から上昇していない。 ・カリキュラムの改善状況と医教連携での授業実施状況（医学部教員の担当状況）について資料が提示できるように進めていただきたい。また、検討されている組織体制（委員会等）がはっきりしないので明確に示されると良い。 ・カリキュラム改訂を実施するとされているが、

				実施されておらず、進捗率の自己評価も 50%に留まっている。
1-⑤-3 附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備 ＜教職大学院＞	1-⑤-3-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が不十分である	
		(コメント) ・研修の実施状況や教育相談の実施状況について資料が提示できるように進めていただきたい。 ・中期計画に沿って、特別支援教育コーディネーターを採用し、支援活動を実施している。しかしながら、具体の予定された取組として記載された「特別支援コーディネーター研修」とは具体的にどのような研修なのか存じ上げていないので（コーディネーターによる研修、コーディネーターに対する研究？）、進捗状況をできない。 ・ <u>特別支援コーディネーター研修について、具体的な内容等についても言及し、そのうえで取組状況・成果を記載願いたい。</u>	(コメント) ・中間時からの進捗が認められない。（進捗不十分） ・ <u>特別支援コーディネーター研修について、具体的な内容等についても言及し、そのうえで取組状況・成果を記載願いたい。</u> （進捗不十分） ・計画では「特別支援教育コーディネーター研修を行う」となっているが、ログフレームの記述からは研修が実施されたかどうか明らかではなく、進捗率も中間検証時から上昇していない。 <u>今回の検証の際に研修が実施されたことは確認したが、実施されているのであれば、内容等について具体的に記載願いたい。</u> （保留） ・研修の実施状況や教育相談の実施状況について資料が提示できるように進めていただきたい。 ・特別支援コーディネーター研修の内容が不明だが、未実施のように見受けられる。自己評価も 50%に留まっている。	
1-⑤-4 いじめ対策等生徒指導推進事業の推進 ＜子どものこころの発達研究センター＞	1-⑤-4-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	
		(コメント) ・年度計画に沿った取り組みが順調になされている。 ・ <u>2) について、話題・情報提供の具体的な回数等、定量的な記載もお願いしたい。さらに、その具体的な成果も記載願いたい。</u>	(コメント) ・年度計画に沿った取り組みが順調になされている。 ・年度計画 2) では「児童への対応」を行うとしている。具体的な対応回数はどうか。 ・ <u>ライフパートナー事業についての具体的なデータや成果を記載することが望ましい。</u> ・ライフパートナー事業との連携での実績について、資料提示（授業名、参加者数、相談実績等）できるようにしていただきたい。	
1-⑤-5 インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示 ＜教職大学院＞	1-⑤-5-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が不十分である	
		(コメント) ・ <u>研修システムはいつまでに構築される予定なのか、また本年度中にどこまで詰めるのかなど、記載願いたい。</u> ・ <u>今年度末までに医教連携した養護教諭の研修は実施</u>	(コメント) ・中間時からの進捗が認められない。 ・研修システムの構築に関する議論がどのように進展しているのか不明であり、進捗率も中間検証時から上昇していない。	

				できるのか不明なので、記載があると良い。	<ul style="list-style-type: none"> どのような組織体制で協議されているのか、いつから研修を始める予定なのか、既に研修の実績があるのか等、不明な点が多いため、研修の具体的な記載があると良い。年度計画に記載している「附属学園の養護教諭の発達障害等についての研修」は、実施できなかったのか。 自己評価も 50%であり、進捗が確認出来ない。
1-⑥	国際地域学部を中心に、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成するため、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。さらに、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 ＜全学教育改革推進機構＞ ＜国際地域学部＞			<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-⑥-1 および 1-⑥-2 について、予定された取組が必ずしもなされていない。 文科省提出年度計画では「日本語教育機能を語学センターに統合する等、組織整備を進める」をあげているが、相当する取組が記載されていない。(進捗不十分) 国際地域学部での実績・成果等の検証を進めていただき、特に探求型能動的学習の取組については、他部局へも拡大する必要があるため今後、検討を進めていただきたい。 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 細分化された年度計画の成果が明らかでない。 文科省提出年度計画では「日本語教育機能を語学センターに統合する等、組織整備を進める」をあげているが、相当する取組が記載されていない。 当該計画のアウトカムである「地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材の育成」に係る評価指標を設定し、それに関するデータの収集が急務である。 「海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程」の編成に向けた点検や検証が十分に行われているのか不明である。 探求型能動的学修については、各学部では様々な取り組みが行われているものの、国際地域学部における取り組みが他学部におけるその改善にどのような寄与をしているのか不明である。 年度計画（1）について、「日本語教育機能を語学センターに統合する等、組織整備を進める」となっているが記載がないので、取組・成果を記載していただきたい。(保留) ※詳細項目に該当箇所がないため、記載漏れとなっているのではないかと。
1-⑥-1	国際地域学部を中心に、これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。 ＜国際地域学部＞	1-⑥-1-1 (1-⑥-1-1-1～4)		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画 1) について、学術交流協定の拡大が進むなど、順調に進捗している。しかしながら、 2) について、課題探究プロジェクトは 2 年次で開始されたのか、明らかでない。 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学術交流協定の拡大が進んでいるが、その他の取組の成果が示されていない。 「課題探究プロジェクト」の向上を示す実施状況、関係者からの評価、学外の組織との連携状

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 3) について、一部の学部で点検・評価がなされているが、全学的な点検・評価が必要である。<u>評価結果の抜粋も記載願いたい。</u> ・ 4) 具体的な検討がどのように進められているのか明白でなく、また「一部実施」が実現できるか危惧される。 以上のことから、「進捗不十分」とした。(進捗不十分) ・ <u>「検討を進めている」</u>について、ある程度の検討内容に記載願いたい。 ・ 国際地域学部における学術交流協定校拡大のほとんどが英語圏以外の諸国となっているが、学部の理念と一致しているのか。 ・ 「初年次からの徹底した英語教育を点検・評価する」となっているが、実際にはどのように行われているのかを確認する必要がある。 ・ 地域課題プロジェクトについての企業や自治体からの評価と点検もどのように行われているか確認する必要がある。 	<p><u>況、学生に能力涵養状況など、経時的にフォローしなければならない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「英語教育の点検・評価」をすることとなっているが、具体的な結果が示されていない。さらに、<u>そのアウトカムである語学力の向上度を検証する必要がある。</u> ・ 「これまでの「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地（知）の拠点整備事業」での実績を活かし」について、具体的な対応が明示できるよう準備願いたい。 ・ 国際地域学部における「課題探求プロジェクト」についての企業や自治体からの評価と検討の結果が記載されていない。<u>次回から、この点を記載していただきたい。</u> <u>また、「地域課題プロジェクト基礎 A」だけでなく、それ以降の地域課題プロジェクト科目についても学生や派遣先企業・団体等に対してアンケートを行う必要がある。</u> ・ 「初年次からの徹底した英語教育の点検・評価」が十分に進んでいるとは言えない。 ・ 中間検証時と同一の記載であるにも拘わらず、進捗率が 30%から 100%に上昇したとしている学部や、進捗率を 0%としている学部が見受けられる。 ・ 2) の課題探求授業の取組実績（授業名、参加者数、研修先、課題内容等）、企業や自治体からの意見等を資料提示できるようにしていただきたい。 ・ 3) の英語教育の点検・評価について、医学部以外の部局での点検・評価の実績はないのか。点検項目やその評価指標、評価等を資料として提示できるようにしていただきたい。 ・ 海外留学の実績と本学教育による成果（英語教育以外も含めた）との関連性（良かった点、改善した方が良い点等）を資料として、提示できるようにしていただきたい。 ・ 英語教育の点検・評価の結果が得られていない。 ・ 「課題探求プロジェクト」についての評価とその結果に対する検討がどのような状況なのか、不明である。
--	--	--	--	---	--

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>1-⑥-2 その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 <全学教育改革推進機構> <国際地域学部></p>	<p>1-⑥-2-1 (1-⑥-2-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際地域学部では年度計画に沿った取組が進められているが、この細分化した中期計画では「他部局へ随時適用する」がポイントであるが、それらについての進捗が不十分である。(進捗不十分) ・各部局では「全学の取組方針に準じ」としているが、全学の方針は具体的に策定されているのか。(進捗不十分) ・「国際地域学部の取組を参考に」としているが、どのような点を参考としたかも提示できるようにしていただきたい。(進捗不十分) ・1-⑥-2-1 について、「学外の組織と連携した」に関する実績を記載願いたい。 ・国際地域学部の実績と成果は記載されているが、「他部局へ随時適用する」ためには「成果の検証」が必要である。 ・地域の企業や自治体等の協力を得て行う探求型能動的学修は、国際地域学部以外の部局で、これまでの取組から拡大して実施されたもの。若しくは検討されているものはないか。 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部局では「全学の取組方針に準じ」としているが、全学の方針は具体的に策定されているのか。この計画では、国際地域学部での検証を基に、他学部へ適用するとなっているが、その検証はどのようになっているのか、さらに他学部での取組みはそれが基になっているか確認する必要がある。 ・交換留学制度の拡大に関する取組み・成果はいかがか、記載願いたい。 ・国際地域学部での取り組みの状況は記載されているが、「他部局へ随時適用」していくためにどのようなことを行っているのか明らかではない。<u>次回から、その点を記載していただきたい。</u>(保留) ・国際地域学部以外での交換留学制度の拡大に関して、医学部で一部進展が見られるものの、全体としては検討が十分に進んでいるとは言えない。(保留) ・課題探求プロジェクト等（探求型能動的学修）及び英語教育の検証結果は、資料として提示できるようにしていただきたい。国際地域学部以外の部局での取組や実績についてもうまく取り込んでもらえると良い。 ・探求型能動的学習について、国際地域学部の取組状況が全学に反映されているのか、全学の取組方針が周知されているのか不明。 ・各部局での交換留学の状況が不明。
	<p>1-⑦ 教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援するため、学びやすい教育システム等を整備し、第2期中期目標期間末と比較して、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加させる。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の KPI である「社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加」が必ずしも明らかでない。(進捗不十分) ・文科省提出年度計画では、「実施状況の分析」、「受講者の満足度の検証」をすることとなっているが、それが達成できた十分なエビデンスが示せるか危惧される。(進捗不十分)

	<p>1-⑦-1 「地域の理科教育の核となるコアサイエンスティーチャー(CST)養成プログラム」、「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成」、「産業現場に即応する実践道場」、「履修証明プログラム」などにおいて、社会人が学びやすい教育システムの整備を行い、教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援する。また、関係者の意見聴取や満足度の検証を行うとともに、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを第2期中期目標期間末よりも増加させる。</p> <p><各部局></p>	<p>1-⑦-1-1 (1-⑦-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれのプログラムにおいて、社会人の学び直し教育が進められているが、受講者数は前年に比べ増加しているのか、明らかでない。<u>前年度との比較を記載願いたい。</u>(進捗不十分) 具体の予定された取組では「実施状況の調査・分析」、「満足度やニーズの検証」、「社会ニーズの調査」がなされることとなっているが、一部実施されているものもあるが、全体として該当する取組がなされていない。特に、組織的な対応がなされているのか、明らかでなく、全学としてそれぞれのプログラム担当にどのような点で調査分析するのか指示すべきではないか。(進捗不十分) 平成 30 年度を前倒しとした「社会ニーズの調査」は全学的に実施してほしい。(進捗不十分) <u>分析結果等の概要を記載願いたい。</u> <u>取り纏め部署では、1-⑦-1-1-1~5 に記載された各部局での取組等を集約し、全学としての状況を記載願いたい。</u> 「科目数や受講者数などを第2期中期目標期間末よりも増加させる」という目標の達成見込みを確認する必要がある。 	<p>・受講者の満足度やニーズに関する検証が十分に行われているか不明。</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>取り纏め部署では、1-⑦-1-1-1~5 に記載された各部局での取組等を集約し、全学としての状況を記載願いたい。このため、当該計画全体として進捗が不十分と検証せざるを得ない。さらにこれに関連し、当該計画のアウトカムである「科目数や受講者数などを第2期中期目標期間末よりも増加させる」が達成できるのか明らかでない;今後の予想等を記載願いたい。</u>(進捗不十分) 具体の予定された取組では「実施状況の調査・分析」、「満足度やニーズの検証」、「社会ニーズの調査」がなされることとなっているが、一部実施されているものもあるが、全体として該当する取組がなされていない。特に、組織的な対応がなされているのか、明らかでなく、<u>全学としてそれぞれのプログラム担当にどのような点で調査分析するのか指示すべきである。</u>特に、当該計画では「学びやすい教育システム等を整備」することとなっているが、そのアウトカムの一部は関係者からの評価であり、「<u>関係者の意見聴取や満足度の検証</u>」について<u>組織的なデータ収集を進めていただきたい。</u>(進捗不十分) 社会人教育を進めるには、ここに記載された既存のプログラムだけではなく新規なものも必要ではないか。また、全学では様々なリカレント教育が進められているが、それらの成果を併せなければならず、それらがすべて把握できているのか危惧される。(進捗不十分) 「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成」以外の取り組みにおける<u>受講者の満足度やニーズの調査結果を記載していただきたい。</u> 今後、「社会人学び直しに対応したプログラム」の実施状況を資料にまとめていく必要があるため、【具体の取組】の記載について、【●医学
--	---	----------------------------------	---	---

					<p>部及び附属病院」ではなく、「●認定看護師教育課程」として、プログラム名等を記載するようにして、整理した方が良いのではないかと。また、「●工学研究科と産学官連携本部」の記載についても、何か相当するプログラム名等で記載できないか。</p> <p>・受講者の満足度やニーズに関する検証が十分に行われているか不明。</p>
<p><中期目標 2> グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。</p>	<p>2-① 質の高い教育を実現するため、平成 28 年度に再編する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用し、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。さらに、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備・運用するとともに、国際アドバイザー等による本学の教育全般の「国際的な水準」の検証を行い、教育の国際通用性や学位の質を保証する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p>	<p>2-①-1 全学的な教学マネジメントのもと、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-1-1 (2-①-1-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に係る中期計画の中でも、進捗・成果が難しいものであることは十分理解されるが、具体的な進捗や成果があまり見えてこない。特に、この計画の根幹である「教育の質保証システム」の構築を実現してほしい。(進捗不十分) ・文科省提出年度計画(1)について、国際水準の現状の検証に関する取組がなされていない。(進捗不十分) ・同様に(3)について、該当する取組がなされているのか明らかでない。特に、「有効に活用した」ことを示せるようにしていただきたい。(進捗不十分) ・この項目全体において、カリキュラム・授業評価委員会が中心的な役割を果たすことになっているが、実際に機能しているのか疑わしく、検討体制を抜本的に見直すべきではないか。(進捗不十分) ・今後、さらに教育の質保証システムの整備に向け、各会議において検討を進めていただき、カリキュラム・授業評価委員会を中心としたカリキュラム・マネジメントの実績や整備された教育の質保証システムの運用実績が提示できるように進めていただきたい。(進捗不十分) 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に係る中期計画の中でも、進捗・成果が難しいものであることは十分理解されるが、文科省提出年度計画(1)~(3)についてすべて具体的な成果が出ていない。当該計画を早急に進める必要がある。 ・国際アドバイザーによる教育評価と LMS の意見交換の報告書、カリキュラム・授業評価委員会の1回の開催以外にどのような具体的な進捗があったのか不明である。 ・年度計画(2)について、「内部質保証と外部質保証を組み合わせた教育の質保証システムを整備する。」となっているが、検討が進んでおらず、進捗が不十分である。 ・年度計画(3)について、「教育組織・教育組織分離体制を有効に活用したカリキュラムを構築・運用」について、記載もなく、検討が進んでおらず、進捗が不十分である。 ・進捗率 50%とあるように、検討はされているが、質保証システム整備の進捗が確認出来ない。
				<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗率 10%が示すように、本年度中に「教育の質保証システム」が整備されるのか、危惧される。(進捗不十分) ・8要素を検証し、不十分な部分を整備するとしているが、具体的な検証が進んでいるのか明らかでない 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の内部質保証システムの構築は認証評価の重点評価項目となっており、その整備・活用が必須である。平成 29 年度は様々な検討がなされているが、平成 30 年度中にガイドラインに沿った質保証システムの構築を行わなければ

			<p>い。(進捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該システムの整備は容易でないことは十分理解できるが、是非整備を進めていただきたい。(進捗不十分) ・現時点で進捗がすべて 0%となっている原因の一つは、「教育の質保証システム」が具体的に何を意味するのかについて十分な議論と認識が欠如しており、全学的なコンセンサスが形成されていないことにあるのではないかと。(進捗不十分) ・今後、教育の質保証システムの整備に向け、各会議において検討を進めていただきたい。(進捗不十分) 	<p>ならない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教学 IR の具体的な取組を進めていただきたい。 ・ほとんどの計画が「次年度も検討する」状況にあり、成果は「特になし」であるにも拘わらず、中間検証時と比較して進捗率が 10%から 50%あるいは 0%から 100%へと上昇している理由がまったく記載されていない。 ・教育の質保証システムの整備に向け、整備しなければならない項目が広範囲にわたることもあり、困難ではあるが、これまでの実績や検討してきた内容を取りまとめ、可能なところから各会議において検討を進めていただきたい。 ・進捗状況が不十分である。
	<p>2-①-2 1. で整備した教育の質保証システムを運用して教育改善に活かす (PDCA)。その一環として、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。その結果質の高い教育が実現されるよう、平成 28 年度に発足する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞</p>	<p>2-①-2-1 (2-①-2-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育の質向上に係る取組を進めており」とされているが、<u>具体的な取組内容の概要を記載願いたい。</u>(進捗不十分) ・昨年度策定されたカリキュラムマネジメントの方策に沿って、取組状況を検証するとしているが、本年後半に実施できるのか危惧される。(進捗不十分) ・各学部の取り組みには一定の進捗が見られるが、その中でカリキュラム・授業評価委員会がどのような役割を果たしているのか不明である。(進捗不十分) 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該年度計画では「教育の質向上に係る平成 29 年度の諸計画を一体的に実施」とされているが、これに係る具体的な取組とその成果が記載されておらず、実施されているのか明らかでない。 ・カリキュラム・授業評価委員会では「質を高める取組の状況を確認した」とあるが、その結果が明示できるような資料を作成いただきたい。 ・当該計画では「<u>教員組織・教育組織分離体制を有効に活用する</u>」としているが、<u>その実績が出せるよう配慮いただきたい。</u> ・「教育の質向上に係る平成 29 年度の諸計画」とは具体的に何を意味しているのか記載されておらず、国際アドバイザーによる教育評価と LMS の意見交換の報告書以外にどのようなことがなされたのか不明である。<u>次回から具体的に記載していただきたい。</u>(保留) ・カリキュラム・授業評価委員会を 1 回開催したことによって計画の進捗率が 0%から 100%へと上昇した理由が判然としない。(保留) ・カリキュラム・授業評価委員会等(その他委員会を含む)において組織的に進められた点検、改善等をカリキュラム・マネジメントの実績として、資料として提供していただきたい。

	<p>2-①-3 1. の一環として、国際アドバイザー等により、本学の教育全般について「国際的な水準」の検証を行う。 <カリキュラム・授業評価委員会></p>	<p>2-①-3-1 (2-①-3-1-1~3)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際アドバイザーによる教育評価がなされた。<u>それに係る改善事例があれば記載願いたい。</u> ・「国際的な水準」をどのようにして維持・向上させるのか、具体的な方策等は策定されているのか明らかでない。 ・「国際的な水準の維持・向上」の成果をどのように提示するのか、検討いただきたい。 ・今後、検証の結果、国際的な水準であることがわかる資料や各教育評価に基づく改善状況のわかる資料が提示できるように進めていただきたい。 ・国際アドバイザーによる評価は実施されたが、「国際的な水準」に照らして本学の教育全般がどのような状況にあるのかについての検証が行われ、十分なフィードバックがなされているかどうか不明である。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際アドバイザーによる評価によって本学教育の国際的な水準の維持・向上を図ったとされているが、<u>具体的な対応はいかにか記載いただきたい。</u> ・<u>国際的な水準であることがわかる資料や各教育評価に基づく改善状況のわかる資料が提示できるように準備いただきたい。</u> ・工学部では国際水準の教育の検証として JABEE を活用しているが、今期中にすべての学科が JABEE 認定を受けることができるのか。 ・「国際的アドバイザーからの指摘事項や提言等により、本学教育の『国際的な水準』の維持・向上を図った」とあるが、報告書の作成以外に<u>具体的にどのような対応したのかを記載願いたい。</u>（保留） ・国際アドバイザーからの指導事項や提言等の検証内容、及び、国際的な水準にあると判断された点、改善した点について、資料として提示できるようにしていただきたい。また、今後、全学的な（大学院を含む）検証についても進めていただきたい。
	<p>2-② 学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的実施等によって組織的に検証を行う。 <キャリアセンター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画に挙げられている「実施体制の整備」は本年度中に達成できるのか明らかでない。 ・本学の既卒者に対する意見聴取することとされているが、実施されているのか明らかでない。 ・<u>能力等の涵養状況が向上しているのかを示す資料を記載願いたい。</u> ・<u>インターンシップ等実施状況及びキャリア支援プログラム実施状況とその効果がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。</u> ・<u>インターンシップが単位として認定されるものについては、単位修得状況がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。</u> 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画に挙げられている「実施体制の整備」が達成できたことを示せる体制図が提示できるようにしていただきたい。 ・学生の社会的・職業的自立に必要な能力等の具体的な涵養状況（もちろん向上していること）を示せるデータを提示できるようにしていただきたい。さらにその経時的変化も示す必要があります。 ・当該計画のアウトカムである「学外関係者からの「本学卒業（修了）生に対する高い評価」を維持」は達成できているのか、常にその状況をモニターしていただきたい。 ・当該目標では「地域一体型教育の先導的推進に

				<p>係る取組み」をあげているが、相当するものはこのキャリア教育とプロジェクト型授業だけなのか、それが先導的と言えるのか、明らかでない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間検証時に指摘された各種資料の収集を今後とも進めていただきたい。 ・年度計画（1）には、「キャリア教育の実施体制を整備する。」と記載されているが、本項目にこれに相当する記載がない。 <p>※内容的に問題なければ、3-①-3-1 の進捗状況【具体の取組】1) の記載内容を「キャリア教育の実施体制」の整備状況として引用してはどうか。</p>
	<p>2-②-1 学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進する。</p> <p><キャリアセンター></p>	<p>2-②-1-1 (2-②-1-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの部局で、其々の特性に合ったインターンシップがなされているが、今後、その成果をどのように提示できるか検討いただきたい。 ・キャリアセンターを中心に様々な検討がなされているようであるが、<u>具体的な検討内容も記載願いたい。</u> ・具体の予定された取組 1) の「合理化」に関する対応はなされたのか明らかでない。 ・<u>2-②-1-1-1~6 に記載されるように、其々の部局での取組を取り纏め、全学としての状況を記載願いたい。</u> ・THE の評価指標では「インターンシップ・プログラム利用者数に、特定の資格取得（教育実習、看護実習、臨床実習など）を含むインターンシップは含まれる」となっている。そこで、教育学部、医学部で行っているこれら実習もインターンシップに含めてください。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの部局で、其々の特性に合ったインターンシップがなされている。そこで、<u>キャリアセンターでは全学としてのキャリア教育の状況、質的・量的向上度を明示できるデータ（インターンシップ件数、受講者数、単位取得状況、他機関との連携数、受講生の満足度など）の収集を進めていただきたい。</u> ・当該計画のアウトカムはキャリア教育による学生の能力涵養状況、就職状況などで検証できるのではないかと。その検証（何をアウトカムとするかを含め）を具体的に進めていただきたい。 ・<u>インターンシップの形態や組織が多様化していることから、今後全学としての全体的状況を分かりやすく把握できるような仕組みを検討していただきたい。</u> ・インターンシップ参加による成果がどのように学生の進路選択等に影響しているかなど、追跡調査により、その効果の検証ができると良い。 ・経営者協会のインターンシップなど、企業との連携強化の状況が十分に確認出来ない。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>2-②-2 学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的实施等により、本学卒業（修了）生が社会的・職業的自立に必要な資質・能力等を備えているか、組織的に検証を行う。</p> <p><キャリアセンター></p>	<p>2-②-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に沿った取り組みがなされている。 ・調査結果の概要、その反映状況を記載願いたい。 ・キャリアセンターで実施している学生の就職先へのアンケートには教員が含まれていないため、教育学部でその点に対処するためのアンケートが継続的に実施されているかどうかを確認する必要がある。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見聴取がなされているが、データとしての一貫性と経時性を保ってほしい。1) のような大規模な調査は隔年でも仕方ないかと思うが、毎年行うものも必要ではないか。特に、第2期からの向上を示せるようなデータが望ましい。 ・関係者からの意見聴取結果の概要を記載いただきたい（特に、向上しているか否か）。 ・意見聴取結果のフィードバックを一覧できるように準備いただきたい。 ・既卒者への意見聴取がなされているのか明らかでない。 ・本学卒業生の就職先アンケートを今後とも継続的に実施していただきたい。 ・卒業生からの意見聴取、就職先からの本学卒業生に対する評価や意見聴取等を計画的に行っていただき、資料が提供できるようにしていただきたい。
	<p>2-③ 大学のグローバル化を促進させる教育実施体制整備の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等によって、国際的に通用する教務システムを整備する。特に国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。</p> <p><全学教育改革推進機構></p> <p><国際地域学部></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の細分化した中期計画に記載したように、進捗状況が明らかでなく、目標の達成を推し量ることができない。（進捗不十分） ・文科省提出年度計画にもあげられているように、国際地域学部の成果を全学的に検証することが前提となっている、これは十分になされていないのではなか。（進捗不十分） ・「国際的に通用する教務システムの要件」に関する全学的な議論が依然として進んでいない。（進捗不十分） ・全体的に検討が遅れている国際的に通用する教務システムの整備の検討を進めていただき、各部局で整備・運用後の成果が出せるようお願いしたい。 	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画では「国際地域学部の成果を全学的に検証する」としているが、そのエビデンスは高等教育推進センター年報への記載で十分なのか。また、検証結果を見やすい資料とすることも配慮願いたい。 ・当該計画のアウトカムは「国際的に通用する教務システムが整備された」であるが、その結果どのような成果が得られたかも示せるようにしていただきたい。 ・この計画の進捗状況に関して、高等教育推進センターと一部部局の間で認識が異なっている状態を早急に是正する必要がある。 ・年度計画（1）について、「国際地域学部の成果を全学的に検証する」と記載されているが、全学的な検証が行われておらず、可能などころから検証を進めていただきたい。

	<p>2-③-1 カリキュラム・マネジメント（2-①-2）の一環として、シラバスや履修単位数制限（CAP 制）の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等を行い、(1-③-3 などの取組とあわせ) 国際的に通用する教務システムを整備する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会> <国際地域学部></p>	<p>2-③-1-1 (2-③-1-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画で予定された取組は殆どが年度末に確認、導入予定とされているが、其々の実現可能性が明らかでない。(進捗不十分) ・各部局で実施されている取組の状況を年度末に確認することとしているが、不備があった場合は年度内には改善できないことになるのではないかと。(進捗不十分) ・以上のことから、進捗状況が把握できないので「不十分」とした。 ・ナンバリングに関する全学レベルでの議論の進捗状況が不明である。 ・国際的に通用する教務システムが整備されていることがわかる資料と整備されたことによる成果を提示できるように検討を進めていただきたい。成果として、外国人留学生受け入れ推移、外国語授業科目数、外国語検定試験の結果、国際的進路の推移などで変容が測れると良い。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画では「国際的に通用する教務システムを整備された」ことがアウトカムとなるが、それを明確に示せるような資料の準備をお願いしたい。その前提として「国際的に通用する教務システム」の要件が設定される必要がある。 ・<u>教務システムの整備によって、大学の国際化が進んだことを示す指標の設定と関係するデータ収集を進めていただきたい。</u> ・ナンバリングは実施されたが、「国際的に通用する教務システム」の他の要件（例えば、CAP 制、英語版シラバス、全学での統一的 GPA、履修中止、卒業要件に GPA を加えること、外国語検定試験の利用等）の是非について、さらに議論の進捗状況や実施結果を検証していただく必要がある。(保留) ・整備された国際的に通用する教務システムを点検し、また遅れている項目（カリキュラムマップ作成、米国型 GPA 制度導入等）についても、引き続き、整備を進めていただきたい。
	<p>2-③-2 国際地域学部はこれらの取組を先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。</p> <p><カリキュラム・授業評価委員会> <国際地域学部></p>	<p>2-③-2-1 (2-③-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の機関である「国際地域学部での運用状況やその成果」が十分検証されているのか、明らかでない。(進捗不十分) ・その検証に基づき、他部局でどのように適用がなされたのかも明らかでない ・以上のことから、進捗状況が把握できないので「不十分」とした。 ・国際地域学部における成果の検証が未だ開始されていないため、他部局への随時適用にはほど遠い状況にある。(進捗不十分) ・今後、国際的に通用する教務システムの整備・運用による成果を各部局でも活用できるよう検証を進めていただき、学内で共有できるよう進めていただきたい。 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該年度計画では、「可能な学部・研究科から適用・整備する」とされている。具体的な適用・整備がなされたのか明らかでない。これに関連して、<u>国際地域学部での検証結果、それに基づき他学部への適用を関連付けて示せるような資料が望ましい。</u> ・「年報発刊により、国際地域学部における取組みを全学に広げることができた」とされているが、進捗率が 0%となっている学部があることから、国際地域学部での取り組みが他の部局に導入され、広がったとは言えないのではないかと。 ・全学的な検証が行えるよう点検項目を定めるなど、国際的に通用する教務システムが整備されていることがわかる資料と整備されたことに

					<p>よる成果を提示できるように検討を進めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際地域学部での検証結果を検証し、可能な学部等から整備・適用とあるが、殆ど行われていないように見受けられる。
<p><中期目標 3> 学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い修学支援、生活支援、留学支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。</p>	<p>3-① 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的实施等によって組織的に検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持する。</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係者の満足度を常に検証いただきたい。 学生等からの高い満足度を得るために、学生生活実態調査の実施後から改善までをもう少し早期に実現できるようにし、学生等からの意見により改善された内容を学生等へ公開することで、さらに学生からの満足度が向上できるようにできると良い。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画では「きめ細かい学生支援体制を整備・運用し」を目的としているが、この支援体制が明示できるようにしていただきたい。 当該計画のアウトカムは「<u>ステークホルダーの高い満足度</u>」であるが、それを示すデータが<u>経時的に収集されなければならない</u>。特に、<u>向上していない場合の対応を配慮願いたい</u>。 文科省提出年度計画（2）では「キャリア教育体制の整備を行いキャリア支援を充実させる」としているが、それに対するとりくみは<u>共通教育科目の開講だけなのか</u>。さらに、その科目に対する学生の評価、受講状況などを検証しなければならない。 	
		<p>3-①-1 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用する</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>3-①-1-1 (3-①-1-1-1~8)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
<p>3-①-2 学生支援体制について学生等への意見聴取を継続的に行い、組織的に検証を行う。</p> <p><高等教育推進センター（学生支援部門）></p>	<p>3-①-2-1 (3-①-2-1-1~5)</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度実施された調査結果に基づき、検討・改善が 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度実施された調査結果に基づき、検討・改

			<p>図られている。なお、各部局では具体的な対応が、濃淡はあるが、進められている。しかしながら、<u>今回の調査結果による実施体制の確立への寄与を記載願いたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点での進捗率が低い部局が見受けられることから、年度末に向けて取り組みを加速することが期待される。 ・学生等からの意見聴取から高等教育推進センターからの提言事項の報告や各部局への課題等への対応依頼がもう少し早く行えると組織的な検証や改善がスムーズに反映されて良いのですが。また、学生からのアンケート聴取から改善・還元されたことを学生等に公表できないままになってしまうのではないか。 	<p>善が図られている。これら改善に対する学生の満足度も調査が必要である（改善されたことを示すため）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組等を学生ポータルに公表しているが、昨年度の調査に基づく改善例も含まれているのか。 ・全体として取り組みが計画に沿って進められているが、<u>進捗率 0%の学部があり、その理由を確認する必要がある。</u> ・学生生活実態調査以外にも取組みされている実績（各種アンケート、学生との懇談会等）があるはずなので、そちらについても調査し、掲載していただきたい。意見聴取した内容や検証・改善された内容について、資料として提示できるようにしていただきたい。
	<p>3-①-3 積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね 96%前後の高い就職率を維持するとともに、就職先での高い評価を得る。 ＜キャリアセンター＞</p>	3-①-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職状況は良好で、支援の成果と思われる。一方、「<u>就職先の高い評価を得る</u>」ことに対する<u>組織的なデータ収集・分析を進めてほしい。</u> ・検証の結果により、就職先から高い評価を得ることになった取組みや本学の就職率が高い理由を資料として提示できると良い。
	<p>3-② 在学生の留学や外国人留学生の受入れを積極的に進めるために、留学の情報提供、修学・生活・就職にわたる総合的できめ細かい支援を行う。そのために、留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革などを行うとともに、留学生用住居を拡大する。 ＜国際センター運営委員会＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応する K P I をその都度記載願いたい。 ・教育学部・教育学研究科における進捗状況が記載されていないが、3-②については同学部・研究科は実施対象外と理解してよいか。 ・受入・派遣とも学生支援体制の整備・運用状況がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。 ・受入・派遣とも入試・留学生活・就職等の改善状況及びその効果がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組みを行っただけではなく、対応する K P I を含め、具体的な成果を記載いただきたい。 ・<u>受入・派遣とも学生支援体制の整備・運用状況がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。</u> ・<u>受入・派遣とも入試・留学生活・就職等の改善状況及びその効果がわかる資料が提示できるようにしていただきたい。</u> ・当該計画では「留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革などを行う」としているが、それぞれの取組・成果はどうか。特に、後者については、今期中に改革を行う必要があり、早急

			<p>な対応をしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ステークホルダーの高い満足度」が当該目標のアウトカムであり、これを随時モニターする必要がある。 ・<u>教育学部・教育学研究科における進捗状況が記載されていないが、3-②については同学部・研究科は実施対象外であるかどうかを確認する必要がある。</u> ・<u>語学センターの進捗状況が 0%となっている理由を確認する必要がある。</u>
<p>3-②-1 外国人留学生の受入を積極的に進めるため以下の取組を実施する。</p> <p>(1)短期留学生、正規留学生とリクルートする対象を明確にした上で、それぞれのグループに対しにどのような学術プログラムが提供されているか、その特徴と強み、なぜ福井大学で学ぶべきなのかなど、情報提供を行う。</p> <p>(2)修学、生活、就職に及ぶ総合的且つきめ細かい支援体制を整備、運用する。同時に、国際通用性のある入試制度の導入や、留学生用住居の拡充、就職など、それぞれの支援体制の整備、充実を図る。</p> <p><国際センター運営委員会></p>	<p>3-②-1-1 (3-②-1-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>受入留学生数、その増加状況を記載願いたい。</u> ・具体の予定された取組が順調に実施されており、成果もあがっている。 ・年度計画 1) に記載された「支援体制を整備し、基本計画を策定する」に対応する取組・成果が明らかでない。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画 1) の基本計画が策定されていないのではないか。また、支援体制を整備するとしているが、今回の取組でどの程度支援体制が整備できたのか明らかでない。<u>最終的に、支援体制が整備できたとする具体的なエビデンスを考</u> <u>えていただきたい。</u> (進捗不十分) ・年度計画 2) について、満足度は向上しているのか、経時的なデータを示してほしい。向上していない場合、向上させる方策の作成も必要である。なお、意見聴取の基づき、様々な改善が図られている。(進捗不十分) ・<u>年度計画 3) について、取組が実施されていない。</u> (進捗不十分) ・<u>情報提供の成果を具体的なデータで示せるようにしていただきたい。</u> ・「基本計画の策定」に関する取り組み内容を確認する必要がある。 ・外国人留学生を受け入れ増加に向けた取組み状況とその評価（留学生の満足度等）を資料として提示できるようにしていただきたい。また、外国人留学生の進路状況についても資料として提示できると良い。
<p>3-②-2 在学生の海外留学を積極的に進めるために、学術交流協定校の学術プログラム、留学費用、課外活動、施設、その他のサービス等の情報提供や、留学前準備、留学中の履修・生活・危機管理など支援体制を充実させる。</p>	<p>3-②-2-1 (3-②-2-1-1~6)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際センター、国際課を中心として、関係する様々 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流校数の増加など、国際センター、国際課を

		<p><国際センター運営委員会></p>		<p>な取組みが進んでいる。具体的な取組例が記載されており、その進捗が容易に判断できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画には「基本計画を策定する」ことがあげられているが、相当する取組はなされているのか明らかでない。 ・<u>在学生の留学数、その増加状況を記載願いたい。</u> ・全体の【<u>具体の取組</u>】には、<u>国際地域学部の派遣学生への支援体制の整備状況、運用状況等について、</u>現在準備を進めているところだと思うが、記載がないため、<u>今後、具体の取組や実績として掲載できるようにしていただきたい。</u> 	<p>中心として、関係する様々な取組みが進んでいる。しかしながら、年度計画 2) の基本計画が策定されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供の改善に対する学生の評価はどうか。 ・「基本計画の策定」に関する取り組み内容を確認する必要がある。 ・海外派遣学生の増加に向けた取組状況とその評価（海外派遣学生の満足度等）を資料として提示できるようにしていただきたい。また、海外派遣学生の進路状況についても資料として提示できると良い。 ・全学的な基本計画が策定されていないように見受けられる。（進捗不十分）
<p><中期目標 4> 多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れを進める。</p>	<p>4-①</p>	<p>一体的な 3 ポリシーのもと、達成度テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。さらに、新たな高大連携のあり方およびそこでの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行うとともに、それを通して高大接続入試、特に個別選抜の改善に資する。国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部での導入を検討する。</p> <p><入学試験委員会></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組内容等が詳細に記載されており、進捗の検証が容易である。 ・確認であるが、文科省提出年度計画で記載した「プロジェクトは 3 回以上開催」されたのか、<u>現時点での回数を記載願いたい。</u>開催されていない場合、<u>本年度中に開催数をクリアしていただきたい。</u> ・国立大学共同次世代型入試開発会議は開催されたのか明らかでない。 ・概算要求事項の実施内容のさらなる充実と高大連携入試への活用の実績をあげるとともに、現在検討中の新たな入試に 3 ポリシーを念頭においた高大接続型入試が導入できるよう引き続き検討を進め、実績があげられるように進めていただきたい。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画のアウトカムは「<u>多様な学生の受け入れ</u>」であり、<u>多様な学生が実際に入学したとすることを示すデータの設定・収集を進めてほしい。</u> ・当該計画では「多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定」としており、具体的に策定する必要がある。 ・年度計画（1）について、「他大学と合同の地方国立大学共同次世代型入試開発会議において、志願者の多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の開発を進め入学者選抜への活用方法を検討するとともに、入学試験委員会を中心として大学入学希望者学力評価テスト（仮称）等の活用方法についても検討する。」と記載されているが、これに相当する記載がないので、成果（開催実績等）についての記載していただきたい。 <p>※詳細項目に該当箇所がないため、記載漏れとなっているのではないかと。</p>

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>4-①-1 達成度テスト（仮称）や大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。 <入学試験委員会></p>	<p>4-①-1-1 (4-①-1-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組が順調に進捗している。 一部FDがなされているとのことであるが、本年度中にさらにFD活動を行うのか明らかでない。 進捗率 0%の部局が見受けられるが、問題なしと考えてよいか。 外部試験や国際バカロレア等を活用した選抜方法の導入については検討が進められているか。 <u>各年度で導入された多面的・総合的に評価判定できる選抜方法の策定・導入状況を資料として提示できるようにしていただきたい。</u> 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な取組みが実施され成果があがっている。年度計画 2) での FD セミナーが一部実施されているが、教員からの反響はいかがか。 「達成度テスト（仮称）や大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、国際バカロレア資格等の活用を含め」については、具体的な検討が進んでいるのか。 <u>教員対象の FD セミナーの実施状況について確認する必要がある。</u> 新たな入試に向けて評価・判定等の質を保証するための、教員対象の FD セミナーは実施されなかったか。 外部検定試験や国際バカロレア資格等の活用は、検討されなかったか。 各年度で導入された多面的・総合的に評価判定できる選抜方法の策定・導入状況を資料として提示できるようにしていただきたい。
	<p>4-①-2 新たな高大連携のあり方を検討・実施し、高大連携教育によって生徒が得た学習成果や多様な能力をルーブリック等により多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組が順調に進捗している。 <u>プロジェクト数や参加者数など、定量的な指標とその増加状況を記載願いたい。</u> 各年度で取り組んだ高大連携によるプロジェクトによる評価の信頼性・妥当性についての検証結果資料、プロジェクトの実績が高大連携入試や高校または大学での授業等の改善につながった実績が資料として提示できると良い。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組が順調に進捗している。 今後、<u>高大連携の取り組みや評価手法が高校と大学の教育の改善にどのようにつながったかのデータを得る方法について検討いただきたい。</u> 多面的・総合的に評価する手法の本学入試への活用状況、高大連携（高等学校及び他大学）での研究開発状況（点検・検証を含む）について、資料を提示できるようにしていただきたい。 <p>※進捗状況（年度末）成果欄の全国大学入学者選抜研究連絡協議会の開催日を訂正願います。 (H29.3.26 富山) → (H29.5.26 富山) の誤り</p>

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>4-①-3 2. で開発した評価手法を取り入れた高大接続入試（特に、個別選抜）を実施する。特に、国際地域学部では、高大接続 AO 入試を平成 29 年度から実施するとともに、他学部でもその特性に合わせて導入を検討する。 <u><入学試験委員会></u></p>	<p>4-①-3-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p>
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、<u>国際地域学部以外の部局での高大接続入試についても検討を進めていただき、高大接続型入試の実績としてあげられるようにしていただきたい。</u> 国際地域学部で高大接続 AO 入試が実施されている。さらに改善が図られている。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際地域学部で高大接続 AO 入試が実施されている。 国際地域学部以外の部局での高大接続入試の検討をさらに進めていただきたい。 引き続き、<u>国際地域学部以外の部局での高大接続入試についても検討を進めていただき、高大接続型入試の実績としてあげられるようにしていただきたい。</u>
	<p>4-② 志願者・入学者の状況やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入学定員の見直しを行う。さらに課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 <u><入学試験委員会></u></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組内容等が詳細に記載されており、進捗の検証が容易である。 文科省提出年度計画に「選抜方法や入学定員の適切さの検証」をあげているが、その検証結果が提示できるように取りまとめいただきたい。 様々な検証結果が求められることになるが、全学的な検証は誰が行うのかを含め、可能なものについては、全学で統一的な指標で検証結果をまとめられるように必要項目を設定していただき、各部局において検証を進めていただけるようにしていただきたい。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 細分化された計画ごとに取組が進んでおり、<u>今後当該計画のアウトカムをどのように具体的に検証するか検討いただきたい。</u> 全体としての進捗状況は順調であるが、一部に検討や取組みが遅れている部局が見受けられるので、その点での改善が必要であると思われる。（保留） 年度計画（1）に対する取組・成果としての記載が不足していると思われる。4-②-1-1、4-②-2-1 の記載内容について、中間以降で、平成 33 年度入試（入試改革）等に向けて、全学、各学部でアドミッション・ポリシーや選抜方法、入学定員等についての検証等が行われているのであれば、記載していただきたい。 年度計画（2）について、「多様な学生を確保するため、アドミッションセンターと学部が連携する高大連携・課題探求プロジェクト委員会で、課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携教育を推進する」と記載されているが、これに相当する成果（開催実績等）についての記載がないので、記載していただきたい。 ※詳細項目に該当箇所がないため、記載漏れとなっているのではないかと。

	<p>4-②-1 志願者や入学者の状況、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行う。</p> <p>＜入学試験委員会＞</p>	<p>4-②-1-1 (4-②-1-1-1～5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画では、「アドミッションポリシーの適合性」を検証しているが、相当する取組がなされているのか明らかでない。 ・進捗率 0%の部局が見受けられるが、問題なしと考えてよいか。 ・各学部の特徴があり難しいとは思いますが、追跡調査、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性などの検証結果については、できるだけ共通的な項目を設定し、各学部での検証が全学的にまとまったものとなるよう統一した指標で検証結果をまとめていただき、<u>全学的な検証結果と各学部独自の検証結果が出せるようにし、資料として提示できるようにしていただきたい。</u> 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の特徴があり難しいとは思いますが、追跡調査、選抜方法や教育課程とアドミッション・ポリシーとの整合性などの検証結果については、できるだけ共通的な項目を設定し、各学部での検証が全学的にまとまったものとなるよう統一した指標で検証結果をまとめていただき、<u>組織的な検証結果を資料として提示できるようにしていただきたい。</u> ・「選抜方法や教育課程の継続的改善」について、具体的にどのようなことを行い、どのような成果が出たかを纏めていただきたい ・<u>各部局におけるアドミッション・ポリシーと入試方法、教育課程との整合性に関する取り組みが必ずしも進捗しておらず、進捗率 0%の学部もあることから、今後この点に関する検討を全学的に推進していただきたい。</u> ・一部の学部で検証が行われているだけで、全学的にアドミッション・ポリシーの適合性、入試方法の適切性の検証が行われていないように思われるので、点検項目、検証方法を定めて、随時点検を行えるようにしていただきたい。また、その成果を<u>全学的な検証結果と各学部独自の検証結果が出せるようにし、資料として提示できるようにしていただきたい。</u> ・中間以降、平成 33 年度入試（入試改革）に向けて、各学部でアドミッション・ポリシーや選抜方法等についての検証等が必ず行われているのではないかと。その成果を調査していただき、入学者選抜方法等の改善の実績として記載してもらおうと良いのではないかと。進捗状況（年度末）欄では、何も記載されていないように思われるが全学や各学部等で、検証や議論等を行った実績を掲載していただきたい。 ・大学院については何も取組が行われていないのか。 ・各学部の取組に差が出ている。
--	---	----------------------------------	--	--

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>4-②-2 必要に応じて入学定員の見直しを行う。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-2-1 (4-②-2-1-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・一部部局で、具体的な定員の適正化が図られている。 ・進捗率 0%の部局が見受けられるが、問題なしと考えてよいか。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・定員の適正化を点検するとしており、各部局では点検が行われている。その結果（適正であること、あるいは適正化を行うこと）を具体的に示せるような資料を作成願いたい ・<u>進捗率 0%の部局においては、今後検討を進めていただきたい。</u>（保留） ・上記と同様に中間以降、平成 33 年度入試（入試改革）に向けて、入学定員の見直しについて、検証や議論等が行われていないのか。進捗状況（年度末）欄では、教育学部と教育学研究科しか記載されていないが、全学や各部局で、入学定員の検証や議論等を行った実績があるのであれば、成果とできるのではないかと。</p>
	<p>4-②-3 課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させる。 <入学試験委員会></p>	<p>4-②-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・年度計画に挙げられている「SGH等への支援」は具体的に示されているのか明らかでない。 ・引き続き、高大連携事業が高大接続入試への活用につながるよう、高大連携事業の参加者数及び事業で評価した生徒数、生徒による参加者評価結果、評価者による当事者評価結果、高校教員・大学教員の評価者参加状況など、年度毎または全体に向上していることが資料として提示できると良い。 ・高大接続入試や高大連携教育の拡大につながるよう全学的な取組とできるよう、さらに各学部の教員にも授業担当者や評価者等として参加協力していただけるようにできると良い。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・年度計画に沿った取組がなされている。今後の具体的な成果が望まれる。なお、年度計画1) について、SGH への支援はなされているのか明らかでない。 ・<u>記載されている取り組みの実績はスーパーグローバルハイスクール指定校以外の高校に対する支援であり、計画と対応していない。</u>（保留） ・高大連携教育・事業に関する参加者からの評価等のデータを数値で示すことができれば、記載していただきたい。（保留） ・SSH、SGH 校への支援の実績が掲載または資料作成できると良い。（教員に個別に依頼がされているため、取りまとめ部署がなく、実績が把握できていないか。） ・高大連携事業の実施実績（開催日時、内容、参加者数等）を引き続き、資料として提示できるようにしていただきたい。 ・スーパーグローバルハイスクールの支援状況が不明。</p>

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

		<p>4-②-4 初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。</p> <p><入学試験委員会></p>	<p>4-②-4-1 (4-②-4-1-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部局ごとに取組の進捗はさまざまであるが、全学としての取組は年度計画に沿って具体的に進められている。 入試広報活動数、評価調査結果等、具体的な成果を記載願いたい。 進捗率 0%の部局が見受けられるが、問題なしと考えてよいか。 県内出身者の進学を促す方策について策定されているか。 本学が実施した高大接続事業等が大学教育・生活への移行に役立ったことが検証結果として、年度毎に蓄積され、資料として提示することができるという。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画に沿った取組がなされている。 当該計画のアウトカムである「<u>アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保した</u>」をどのように示せばいいかなど、その検証方法を検討いただきたい。 「新入生を対象に、大学教育・生活への移行に高大接続が役立ったか検証する」という計画に関して、検証結果の具体的なデータがあれば、記載していただきたい。(保留) 進捗率 0%の部局については、今後取り組みを進めていただきたい。(保留) 初年次教育の実施状況の記載がないので、実績を記載していただきたい。 初年次教育の実施状況、高大接続事業等の実施状況、入試広報活動等の実績、県内出身者の進学を促す方策の策定・実施状況、アドミッション・ポリシーに沿った多様な入学者の受入れ状況（検証結果等）を毎年度、資料として提示していただきたい。
--	--	--	----------------------------------	--	--

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【研究】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (中間)	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (年度末)
<p><中期目標 1> 国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。</p>	<p>1-① 本邦初の分子イメージング部門を擁し、世界最先端画像医学研究拠点の一つである高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。これらにより、生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・具体の年度計画に沿って研究が進められており、関係する K P I も相応の値と思われる。 ・すべての項目について、概ね順調に推移している。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該目標では「国際・国内研究拠点の形成を目指し」となっており、当該計画でも“拠点が形成できた”ことを示すエビデンスを検討いただきたい。第 2 期でも同様な目標になっていたと思うが、第 3 期における更なる拠点形成が示せるようにしていただきたい。 ・文科省提出年度計画では「学会発表数も増加」をうたっているが、具体の K P I には挙げられていない。しかしながら、この数値もモニターしなければならない。 ・すべての項目について、十分な取り組みがなされている。 ・20%以上増加に向けての進捗状況の良否が記載からは判断できない。（保留）</p>
	<p>1-①-1 (目標を実現するための推進方策) 高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。 <高エネルギー医学研究センター></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3 1-①-1-4 1-①-1-5 1-①-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・具体の予定された取組に沿った研究が進められており、一部成果もあがっている。 ・臨床各科、子どものこころの発達研究センターと共同で研究に取り組み、一定の成果を挙げており、率にして 50～60%の進捗がみられたと記載されていた。 ・例えば、1-①-1-3 では、「オキシトシン受容体描出プローブの開発のための基礎検討を行った」と記されているが、「行う」→「行った」という記述ではシンプルに過ぎるかもしれません。せめて、「成果を〇〇（学会等）において報告した。」等の具体的に確認できる表現を盛り込んでもらったほうが検証が容易になって助かる。 ・研究は順調に取り組んでいるようであるが、評価指標が開発実績となっているので、開発できていることが必要。進捗はどうか？ ・プロトコル数を評価指標としているものがあるが、数的な記載がない。 ・年度計画が、「取り組む」「目指す」であり、年度ごとのゴールが明確でないため評価しにくい。 ・取組を進めていることや、成果が記載されている取組もある。しかし、進捗率の妥当性が、進捗状況の記載から</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・具体の取組内容に沿った研究が進められており、一部成果もあがっている。なお、当初挙げた取り組み内容以外のものにも拡大することが望まれる（高エネ、子供以外の関連領域での研究成果もフォローしていただきたい）。 ・1-①-1-4、-5 について、取り組みは進んでいるが、具体的な成果も記載いただきたい。 ・他機関との連携が大きなポイントとされるが、特に本学の特徴でもある「医工教連携研究活動」について、アピールできるような成果を期待したい（具体的に、連携研究が進められているのか明らかでない）。 ・個々の成果については学会発表に加え、論文発表、大型グラントの獲得についても記載するとよりわかりやすい。 ・「着手した」「行っている」「検証中である」「開始した」「実施することとした」等の表現では検証が難しい。にもかかわらず、進捗率 100%の記載となっているが、これで良いのか判断できないものも見られた。 ・年度毎の評価は数値をクリアするものではないため、評価は難しいが、着実に成果があがっている部分があるた</p>

			は判断できない。	<p>め全体での進捗は進んでいると判断できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画どおりの取組がなされている。なお、進捗状況 (実績) が順調かどうかは記載からは判断できない。(保留) 目標の実現という点では問題ないと思われるが、例えば“積極的”であったかどうかをどう判断するのか等、細かく指摘できる場所も存在する。こうした点もカバーするためにも、それぞれの論文件数やその評価 (IF や被引用、受賞の有無等) についての記述も付加していくための手順を考えていくべき。
1-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第2期より20%以上増加させる。 <高エネルギー医学研究センター>	1-①-2-1 1-①-2-2 1-①-2-3 1-①-2-4 1-①-2-5	(検証結果) 保留	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である	
		(コメント)	(コメント)	
		<ul style="list-style-type: none"> それぞれの評価指標に関するモニタリングが行われており、成果が明確に示されている。それぞれのKPIは相応な値となっているものと思われる。 受賞実績として、「研究助成」採択があげられているが、受賞実績に該当するのか明らかでない(とりあえず、一覧としてまとめ、最終的に取捨選択することになるのではないか)。 <u>目標達成に向けて、今回の成果がどの程度寄与するかなどを記載願いたい。</u> <u>当該計画では「医工教連携研究活動」もキーワードとなっており、それらの実績(研究数、活動数など)を記載願いたい。</u> 2019年に開催される国際学会「Brain/Brain PET 2019」の準備が進み、国際シンポジウムも開催している。また共同研究の取り組みとその成果、学術論文掲載、学術賞の受賞について進捗がみられた。論文発表と被引用数のモニタリングがなされている。また、学長のリーダーシップによる予算配分や文科省からの機能強化経費により画像医学研究分野の予算配分が増加した。 第2期より20%以上増加させる目標の、年度ごとの目標数値を明記し、それとの比較が必要。 1-①-2-1に記載の内容は、国際シンポジウム(国際ワークショップ)の開催数とは関係の無い内容に見える。 1-①-2-3については、大学全体の第3期の英語論文掲載数の目標値が390編、H28年度実績が56件のため、H29~H33は毎年度67件の掲載が必要となる。現状高エネと子どものところで24件ということで、他センターの状況が分からないものの、順調とは思われる。一方で、論文の被引用数については、大学全体の第3期の英 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのKPIについて、具体的な数値が挙げられているが、<u>20%増の目標に向かってどの程度進捗しているのか(進んでいるのか、遅れているのか)を年度末には記載いただきたい。</u> 1-①-2-2については、共同件数だけではなく、どのような成果(論文や学会発表など)があがっているかもフォローしていただきたい。 1-①-2-3について、論文数と被引用回数が直接のKPIであるが、top10%論文、nature indexなど外部からの評価が高い論文もフォローしていただきたい。 1-①-2-4について、どこまでを受賞とするのか、改めて定義を確認願いたい(研究助成は該当しないと思われる)。 大変優れた進捗状況であり、進捗率100%の達成も申し分なく、本学を代表する研究成果が上がっている。共同研究の取組も大きく進展している。評価指標も十分明らかであるが、現行の総合DBの不具合の修正も完了しており、次回からは<u>第二期との比較</u>をお願いしたい。 “第2期より20%以上増加させる”という計画に対し、第二期に比べどの程度増加(減少)しているのか、読み取れず、判断しにくい。(保留) 「第2期中期目標期間における重点研究分野への配分実績額と比較し、1年当りに換算すると78.49%(66,333千円⇒118,400千円)増加している。」という表現があるが、このような具体的な第二期に比較する数値があると、評価し易い。(保留) 各取組みにおける、進捗状況が記載されているが進捗状況の成果としての捉え方に統一性が無いため、最終的な検証結果の判断はつきかねると思います。また、20%以 	

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

				<p>語論文掲載数の目標値が 2378 件、H28 年度実績が 41 件である。目標値を考えると、H28～29 では 790 件以上の被引用数が必要となる。現状高エネと子どものところで H28～29 の被引用件数は 54 件であり、進捗が非常に遅れている状況にあるようにも見える。被引用数は論文公表から時間が経過するにつれて増加するため、現状で進捗の良否を判断するのは難しいかもしれないが、研究推進課と連携するなどして、第 2 期中期目標期間中の被引用数の毎年度の増加傾向と比較し、進捗を確かめる必要があるのではないかと。現状の情報だけでは進捗の良否の判断が難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-①-2-4 については、1 件受賞していれば、進捗率は「100%」と言って良いのではないかと。2 件目に挙げている「2017 年度 特定研究助成」は受賞に該当しないのではないかと。 	<p>上の進捗が分かるような様式の形態にする必要があるのではないのでしょうか。（保留）</p> <p>（判断の難しい例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1-①-2-2 共同研究の実施件数の伸び率は各年度の新規分の合計数が対象となる。 ○1-①-2-3 英語論文数、論文の被引用数の第二期との比較が出来ない。 ○1-①-2-4 研究助成の採択、学内の優秀論文賞受賞は対象ではないのでは。 <ul style="list-style-type: none"> 計画どおりモニタリングがなされている。なお、進捗状況（実績）が順調かどうかは記載からは判断できない。（保留） 目標は到達しているが、受賞実績については受賞とする判断基準を明確にしておく必要がある。
	<p>1-② 我が国唯一で世界的にも優れた高出力遠赤外光源ジャイロトロンの研究開発実績を踏まえ、公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップの主催等を通して、新しい学術研究としての遠赤外分光・計測研究、遠赤外領域の先端科学研究および高出力遠赤外技術開発研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。 ＜遠赤外領域開発研究センター＞</p>		<p>（検証結果）進捗状況が良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体の年度計画に沿って取組が進められており、人材の採用など目に見える成果があがっている。 関係する K P I も相応な値と思われ、被引用回数を除き、達成が十分期待できる。 <p>以上のことから、「進捗良好」とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての項目について、概ね順調に推移している。 	<p>（検証結果）進捗状況が良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係する K P I も相応な値と思われ、被引用回数を除き、達成が十分期待できる。 当該目標では「国際・国内研究拠点の形成を目指し」となっており、当該計画でも“<u>拠点が形成できた</u>”ことを示すエビデンスを検討いただきたい。第 2 期でも同様な目標になっていたと思うが、<u>第 3 期における更なる拠点形成が示せるようにしていただきたい。</u> 論文被引用数以外は進捗状況が良好であり、論文被引用数は今後の動向を見ていく必要がある。 被引用数以外は良好と思われる。 	
	<p>1-②-1 （目標を実現するための推進方策） 公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップを開催する。 ＜遠赤外領域開発研究センター＞</p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5 1-②-1-6</p>	<p>（検証結果）進捗状況が良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> クロスアポイント制度による研究者の雇用など、年度計画に沿った取組が順調に進捗しており、明らかな成果があがっている。 国際・国内共同研究が多数推進され、外国人教員の雇用、若手研究者の海外招聘、先端的融合プログラムの実施等、順調に実績を挙げている。また、学長のリーダーシ 	<p>（検証結果）進捗状況が良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体の年度計画に沿った、様々な取り組みが進んでいる。特に、クロスアポイントメント制度によって外国人研究者が雇用され、教育活動にも寄与している。今後、これら研究者が中心となった具体的な研究成果（論文等）を期待する。 1-②-1-1 について、共同研究の成果もモニター願いたい 	

			<p>ップによる予算配分や文科省からの機能強化経費により遠赤外領域開発研究分野の予算配分が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画、評価指標が実施できている ・進捗状況の記載からは、進捗率の妥当性が判断できない部分もあるものの、概ね順調に取組を進めていることはうかがえる。 	<p>(アウトカムとなる)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-②-1-3 について、具体的に何名の若手研究員が雇用できたのか、記載願いたい。 ・中間評価に加え、更なる成果が順調に上がっている。 ・些末なことであるが、1-②-1-6 について、中間で進捗率 80%であったものが、年末に 0%というのは理解に苦しむ。後期に進捗がなければ、せいぜい半分の 40%でもよいのではないか? ・1-②-1-6 が進捗率 0%となっている理由がわからない。 ・クロスアポイント制度による教員の雇用について、その教員による教育研究への波及効果とともに記されており、明らかな成果があがっている。
	<p>1-②-2 (中期計画に記載の評価指標) 学術誌への英語論文掲載数を第 2 期より 20%以上増加させる。 <遠赤外領域開発研究センター></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの評価指標に関するモニタリングが行われており、成果が明確に示されている。それぞれの K P I は相応な値となっているものと思われる。 ・論文数に関しては当該年度目標値の 4 割となっており、後半の成果を期待したい。 ・年度の進捗が分かりやすい記載となっている。 ・学術論文、共同研究ともに順調に推移し、遠赤センター 斎藤教授が日本赤外線学会から「業績賞」を授与された。 ・記載のあるものもあるが、第 2 期より 20%以上増加させる目標の、年度ごとの目標数値を明記し、それとの比較が必要。 ・1-②-2-1 の論文の被引用数について、「単純な年度毎の被引用数では評価できない」との記載があるが、研究推進課と連携するなどして、第 2 期中期目標期間中の被引用数の毎年度の増加傾向と比較し、進捗を確かめる必要があるのではないか。現状の情報だけでは進捗の良否の判断が難しい。 ・1-②-2-2 において、「昨年度以上の実績が見込める」とあるが、第 2 期中期目標期間との比較を記載願いたい。また、「見込める」根拠もお示しいただきたい。 ・1-②-2-3 については、進捗率は「100%」と書いていいのではないか。 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-②-2-1 について、論文数と被引用回数が直接の K P I であるが、top10%論文、nature index など外部からの評価が高い論文もフォローしていただきたい。 ・第二期に比べて英語論文数、被引用回数の増加が順調に推移している。 ・各取組において、示されている数値から進捗状況は良好と思われる。ただし論文被引用数は今後の進捗を精査していく必要がある。 ・1-②-2-1 の被引用数については、現段階で判断は難しいものの、2017 年は 1 件とのことであり、順調とは言えない。(進捗不十分) ・具体的取組と成果が混ざってしまっている点、記述については改めて整理が必要であるが、成果は十分あがっている。

<p>1-③ 「安全と共生」を基本として平成 21 年 4 月に設置された附属国際原子力工学研究所を中心に、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップの開催等を通して、軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。 <附属国際原子力工学研究所></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	
		<p>(コメント) ・詳細に取組内容、成果が記載されており、また進捗率も具体的なものであり、進捗の検証が容易なものとなっている。 ・具体の年度計画に沿って取組が進められており、K P I として当該年度目標値に達しているものもあるなど、被引用回数を除き、達成が十分期待できる以上のことから、「進捗良好」とした。 ・概ね順調に推移しているが、一部の項目について記載内容に不足がみられた。</p>	<p>(コメント) ・当該目標では「国際・国内研究拠点の形成を目指し」となっており、当該計画でも“拠点が形成できた”ことを示すエビデンスを検討いただきたい。第 2 期でも同様な目標になっていたと思うが、第 3 期における更なる拠点形成が示せるようにしていただきたい。 ・当該計画に挙げた「公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣」について、具体的な進捗状況を記載願いたい。また、当該計画で具体的に示された「軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減」については、それぞれの具体的な研究成果が提示できるよう配慮願いたい。 ・取組内容の概要や評価指標に合わせて、全体をまとめた総括として文章を記述していただくと、より分かりやすい。研究者毎に箇条書きとなっているが、それぞれの全体の進捗状況の位置付けや強弱がわかりにくく、各取組により具体的に何が明らかとなったのかの記述が不足している。 ・発表業績の書き方について、タイトル、著者、ページ数まですべてを記載する必要はない。むしろ何を明らかにした業績かを記載するほうが重要ではないか。 ・論文被引用数以外は進捗状況が良好ではあるが、論文被引用数は達成が難しいかもしれない。</p>	
	<p>1-③-1 (目標を実現するための推進方策) 公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップを開催する。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2 1-③-1-3 1-③-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>
		<p>(コメント) ・年度計画に沿った研究が進められており、受賞、学会発表など成果があがっている。 ・1-③-1-4 に係る事後評価結果を記載願いたい。 ・大学や研究所との共同研究の実施され、大型の公募型研究費申請がなされている。一方、海外研究機関との研究者の相互派遣については記載がみられなかった。 ・研究は順調に取り組んでいると思われるが、評価指標が開発の成果や実績となっているので、開発できていることが必要。その進捗は判断しづらい？</p>	<p>(コメント) ・年度計画に沿った研究が進められており、論文発表、学会発表など成果があがっている。しかしながら、当該計画では「公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップを開催」としており、其々に対する具体的な成果（進捗状況）を記載願いたい。 ・年度計画に沿った研究が進められており、受賞、学会発表など成果があがっている。一方で、どのようなことが明らかになったのかの具体的記述が不足している。 ・1-③-1-4【成果】3. とは何か記載されていない。【論文「投稿」】は【論文「発表」】～いずれも推敲漏れ？</p>	

					<ul style="list-style-type: none"> 各取組に係る研究は概ね良好であり、成果も順調に進められている。 計画通り研究が進められている。
		<p>1-③-2 (中期計画に記載の評価指標) 国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第2期より20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-③-2-1 1-③-2-2 1-③-2-3 1-③-2-4 1-③-2-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれのKPIによる進捗状況が分かりやすく記載されている それぞれの評価指標に関するモニタリングが行われており、成果が明確に示されている。それぞれのKPIは相応な値となっているものと思われる。特に、共同研究数は目標値を超えており、また論文数も目標値に近いなど、進捗が良好である。 <u>今後も同様に記載願いたい。</u> 国際シンポジウム (ConFDeC2017) が実施された。また国内・国際共同研究数、英文論文数、受賞実績が順調に推移している。また、学長のリーダーシップによる予算配分や文科省からの機能強化経費により原子力安全研究分野の予算配分が増加した。 1-③-2-2 について、進捗率：120%という表現は、内容を鑑みるに、その気持としては非常によくわかるものの、管理をモニターする指標としてはあまり適切ではないのかもしれない。例えば、進捗率は100%を上限としておき、「〇〇については目標値の120%を実現する等、著しい進捗がみられた。」位の表現を入れてもらう方がよいのかもしれない。 1-③-2-1 について、進捗率が「50%」ということだが、後期にも国際会議の実施を予定しているということによいか。そうでなければ、大学全体で3期中の目標件数が6件のため、100%でもよいのではないか。 1-③-2-3 の論文の被引用数について、「今後、～被引用数の増加が見込まれる」との記載があるが、研究推進課と連携するなどして、第2期中期目標期間中の被引用数の毎年度の増加傾向と比較し、進捗を確かめる必要があるのではないか。現状の情報だけでは進捗の良否の判断が難しい。 1-③-2-4 について、大学全体で3期中の目標件数が12件のため、100%でもよいのではないか。 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-③-2-3 について、被引用回数が増加するようご努力願いたい。 進捗率の書き方に基準や厳密な決まりはないと思うが、1-③-2-1 は中間と年度末同じ文章で、それぞれ進捗率が50%、100%となっているのは不自然である。せめて「1年を通じて継続した」といった表現が入っていてもよいのでは。 目標値が記載されており、判断し易い。 各取組において、示されている数値から進捗状況は良好と思われる。ただし論文被引用数は今後の進捗を精査していく必要がある。 1-②-2-1 の被引用数については現段階で判断は難しいものの、その他は順調に推移している。 検証が容易なように詳細に記述されている。1-③-2-3 の被引用数については目標が総合計で、実績が差分で書かれているように思いますが、もしそうだとすると到達がわかりにくいので、統一した方がよい。

<p>1-④ 教師の学校内における職能成長を支える制度構築が求められる今日、全国に先駆け学校拠点方式の教職大学院を設置した実績を踏まえ、知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師を養成することを目指し、全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進して、福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。 <教育学研究科></p>		<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画に記載されている「高度化」、「組織化」、「ネットワーク化」の達成を示すことができる成果等（年度後半分も含め）を確認いただきたい。 ・概ね順調に推移しているが、一部の項目について記載内容に不足がみられた。 ・全体として、評価指標と取組内容尾伸び進捗状況の記述がそれぞれ対応して記述されていない部分が多いように思う。よって、検証結果を正確に判断することが困難だと思う。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該計画のアウトカムは「知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師の養成」であるが、そのような教師が養成できたとする具体的なエビデンスを検討願いたい。 ・文科省提出年度計画に記載されている「高度化」、「組織化」、「ネットワーク化」がどの程度進んだのか、その進捗状況が明らかでない ・優れた取組がある一方で、進捗状況に遅れが認められるものもみられる。 ・明らかに成果が指標を下回っているが、これは今後の進捗で改善されるのか。 ・1-④-2 について、概算要求 KPI で状況は確認しており、進捗が不十分なことは無いと認識しているが、本調書からは状況が読み取れず、保留とした。（保留） ・評価指標と取組内容および成果に関する記述が十分に対応させられていないと感じる部分が多くある。 	
	<p>1-④-1 (目標を実現するための推進方策)</p> <p>全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進する。 <教育学研究科></p>	<p>1-④-1-1 1-④-1-2 1-④-1-3 1-④-1-4 1-④-1-5 1-④-1-6 1-④-1-7 1-④-1-8 1-④-1-9</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調になされている、連携・拠点校数、連合大学院の設置など一部具体的な成果があがっている。 ・1-④-1-8 について、ラウンドテーブル開催数が 5 回以上となっているが、目標値（予定は 5 回のようだが）を達成できるのか。 ・教育研究所の研修との連携、教職大学院と附属学園との協同研究、ラウンドテーブルの開催数については高い進捗率がみられた。また「チーム学校」拠点および連携校の数については目標を達成している。一方、大学教員の附属学園での授業参観や、外国からの研修受け入れについての進捗率はまだ十分とは言えない。 ・1-④-1-1 は具体的に何を進めているのかが現行の記述では不明。1-④-1-3 は評価指標に関する記載がない。1-④-1-4 では、さらに取組内容と評価指標の関係が理解しにくい記述になっている。1-④-1-5 では、評価指標の「組織化」に対する取組内容の関係が理解しにくい記述になっている。これらは、進捗率が比較的高めに見積もられ 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に予定された取組がなされている。 ・1-④-1-4 について、参加率が目標値を下回っているが、今後の回復を期待したい。 ・1-④-1-4 については進捗率が 30%に留まっており、次年度以降の早急な取組が必要である。 ・1-④-1-7 については中間以降、新たな取組が行われていない。 ・評価指標としているものは達成しているが、H29 年度の具体の取り組みとした内容で、十分進捗していないのがみられた（記載上は進捗率 100%）。 ・順調に進んでいると思われるが、1-④-1-4 は、H28 年度の指標はクリアしているが、今年度の進捗率は今年度の指標を下回っているので十分な成果になっていない。 ・1-④-1-7 は実施する指標となっているが、検討の継続でとどまっている。 ・1-④-1-3、1-④-1-7 については、個別に確認した結果、進捗状況が良好と判断した。今後は当初から「評価指標」や「具体の取組」に対応して「進捗状況」を記載いただ

			<p>ているが、その根拠があいまいであるように感じる。逆に、1-④-1-9 等は研修実施が未だであってもその参加人選や準備などは進行しているはずであり、進捗率を低く見積もりすぎていると感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ調整中のものもあるが、おおよそは順調に進んでいると思われる。 	<p>きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ予定通りの取組を推進したと思われるが、いくつかの取組で、取組内容と成果が十分に区別されていなかったり、評価指標が示されていないなかったりするものがあるように思える。1-④-1-3 では今年度の取組で評価指標 60% は到達にどの程度前進したのかも記載が必要ではないか。1-④-1-5 では、「組織化を進める」ことと「協議をする」ことの関係性が理解しづらい。1-④-1-6 の記述は、「拠点および連携校数 のべ 69 校」という成果内容しか含んでいない（要は具体の取組内容が書かれていない）。また、1-④-1-4 では 40%以上参画に対し、30%程度の参加（この参画と参加の使いわけもよくわからない）という成果をもって進捗率を 30%とされているが低く見積もりすぎではないか。
	<p>1-④-2 （中期計画に記載の評価指標）</p> <p>福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。</p> <p><教育学研究科></p>	<p>1-④-2-1</p>	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標①の値を記載願いたい。 ・連合教職大学院の設置が承認され、準備が進んでいる。JICA の研修生受け入れが予定され、子どものこころの発達研究センターとの連携も継続している。 ・評価指標と取組内容の対応がとりづらく検証が困難であるように思う。 ・評価指標①はどのような状況か。 ・④の国内外ネットワークの拡大状況は。 ・1-④-2-1 について、評価指標の「管理職養成コースの設置と学校改革に取組む学校数」に関する記載が無い。 	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-④-1 にも記載されているが、改めて指標について具体的な進捗状況を記載願いたい。 ・評価指標に対応した記述となっていない。①、⑤に対する取り組みとその成果は？この記載内容で進捗率 100%と判断するに十分なのか不明である。（保留） ・各評価指標に対応する記載が不十分。（保留） ・評価指標①に関する記述が無いように思われる。 ・概算要求 KPI で状況は確認しており、進捗が不十分なことは無いと認識しているが、本調書からは状況が読み取れず、保留とした。（保留） ・評価指標①に対応した値の記述がないと判断できない。評価指標②から③についても、「組織化」や「一元化」がどの程度達成されたのかの明確な記載がないと判断が難しい。（保留）
<p><中期目標 2></p> <p>科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。</p>	<p>2-①</p> <p>医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。</p> <p><医学部・医学系研究科></p>		<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K P I を含め、成果が確認中であり、現時点で進捗は検証できない。<u>少なくとも年度末には K P I を記載願いたい。</u> ・様々な研究が順調に推進されている。年度末には具体的な数値をそろえて検証を行うことが検証を行うことが 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPI について、被引用回数以外は順調に推移している。今後、top10%論文などが輩出できるよう期待する。 ・K P I で示した「がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第 2 期中期目標期間より 20%以上増加」とともに、「学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等

				<p>可能であると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果について「確認作業中」ということなので判断は保留が妥当かと思う。 ・【成果】が確認作業中であり、評価できない。 ・進捗状況の記載からは、状況が分からない。進捗率が 20%～30%という数値のみで判断すると「不十分」とせざるを得ない。（進捗不十分） 	<p>を第 2 期中期目標期間よりも増加」の二つをフォローいただきたい（2-①-1-1 と 2-①-2-1 がそれに該当するの か）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗率については年度毎ではなく、第三期最終の達成目標を念頭に「きびしい」自己評価としている。 ・進捗率のとらえ方について判断方法が不明なため保留とする。（保留） ・「世界的な優れた研究」なのか、「先進的研究」なのかは調書から確認することは難しいが、全体的に進捗は概ね良好と思われる。 ・全体的に進捗率を再度確認して欲しい。（保留）
		<p>2-①-1 （目標を実現するための推進方策） がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進する。 <医学部・医学系研究科></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の記載からは、状況が分からない。進捗率の根拠も不明である。そのため、進捗率の数字のみから判断するしかなく、30%という数値からは「不十分である」と判断せざるを得ない。（進捗不十分） ・具体の予定された研究が実施されている。 ・基礎医学・臨床医学・看護学に関する研究が順調に推進されている。年度末までには松岡キャンパスの研究活動一覧が揃うために、より具体的内容について検証することが可能となる。 ・成果について「確認作業中」ということなので判断は保留が妥当かと思う。 ・【成果】が確認作業中であり、評価できない。 ・取組は順調に進行中であるが、指標の実績については、確認中とあるため保留とする。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここで記載された“進捗率”は目標値に対するものか、あるいは当該年度の進捗率が明らかでないが、其々の計画では成果があがっている。なお、それら成果の客観的な評価があればそれも記載願いたい。 ・進捗率については年度毎ではなく、第三期最終の達成目標を念頭に「きびしい」自己評価としている。 ・第二期に比べ、数値がかなり上昇しているのに、進捗率が 30%にとどまっていることの理由がよくわからない。 ・「先進的成果が上がった」「大型プロジェクト、受託研究・共同研究を遂行している」との記載があるが、より具体的な内容が欲しい。 ・研究実績等で、（中間）よりも、より具体的な成果があるのに、進捗率が 30%→30%と変化してないが、これで良いのか。 ・成果はそれぞれ上がっていると思いますが。進捗率 30%の根拠がよくわからないので保留としたい。（保留） ・進捗は順調だとは思われる。ただ、「世界的に優れた研究」や「先進的研究」については、何らかの客観的な指標を設けていただきたい。検証ができない。（保留） ・進捗率を再度確認して欲しい。 ・2-①-1-1 について、評価指標では「世界的に優れた」という表現で、【成果】の記述の中では「先進的な成果」と表現されている点、表現を統一するとともに、「世界的に優れた」という判断をした基準をあわせて示し、その基準をクリアした論文、学会発表、受託・共同研究等

					<p>の数を示して状況を分析、整理して【成果】項を記述して欲しい。(保留)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-①-1-2 について、評価指標は「先進的実績」なので、何をもって先進的と判断したのかを明示し、その基準をクリアした論文、学会発表、受託・共同研究等の数を示して状況を分析、整理する形で【成果】項が記述されないと検証が困難である。(保留) ・2-①-1-3 について、【成果】が数値で記されていないと検証が困難である。(保留) ・2-①-1-4 について、【成果】が数値で記されていない部分(論文数、学会発表数、共同研究数)があり、検証が困難である。SCOPE への採択などは研究推進の実績として高く評価できる。(保留)
2-①-2	<p>(中期計画に記載の評価指標)</p> <p>学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第2期よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第2期より 20%以上増加させる。</p> <p><医学部・医学系研究科></p>	<p>2-①-2-1</p> <p>2-①-2-2</p> <p>2-①-2-3</p> <p>2-①-2-4</p>	<p>(検証結果) 保留</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	
			<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の記載からは、状況が分からない。進捗率の根拠も不明である。そのため、進捗率の数字のみから判断するしかなく、20%という数値からは「不十分である」と判断せざるを得ない。(進捗不十分) ・具体的数値が得られていないために、判定を保留する。年度末の進捗状況の調査までにはデータを得ることが可能であると思われる。 ・成果について「確認作業中」ということなので判断は保留が妥当かと思う。 ・【成果】が確認作業中であり、評価できない。 ・モニタリング実施予定とのことで、情報がいないため保留とする。 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被引用回数以外は、順調に評価指標が増加している。なお、2-①-2-4 について受賞回数 35 (39) としているが、受賞としてどのようなものを算定しているのか明らかでない。定義はどのようになっているのか。 ・2-①-2-3 について、他機関との連携数はどうなっているのか記載願いたい。また、具体化件数と何を纏めるのか、定めていただきたい。 ・進捗率については年度毎ではなく、第三期最終の達成目標を念頭に「きびしい」自己評価としている。 ・「倍増した」という成果がありながら、進捗率が(中間)と変わらず、20%となっているが、これで良いのか。 ・着実に成果はそれぞれ上がっていると思いますが、進捗率 20%の根拠がよくわからないので保留としたい。(保留) ・2-①-2-2 の進捗が少し心配だが、その他は順調と思われる。 ・【成果】に記載されている数値で考えると、進捗率はもっと高くなると思われる。再度確認して欲しい。(保留) 	

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>2-② 前身の福井高等工業学校設置から 90 年以上の間、工学の幅広い分野で研究を遂行し、地域および我が国の産業力強化に貢献してきた歴史を踏まえ、工学分野の研究を強化し、工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化した繊維・機能性材料分野では第 2 期中期目標期間より 20%以上増加させる。この目標を達成するために、メリハリのある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等により、工学分野で優れた学術基盤研究・発展研究の推進、重点分野の育成を行う。</p> <p><工学部・工学研究科></p>		<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な成果である 2-②-2 が集計中であり、現時点では進捗を検証できない 文科省提出年度計画に記載されている「共同研究の届出制」について、関係する取組がなされたのか明らかでない。 様々な研究や取り組みが順調に推進されている。年度末には具体的な数値をそろえて検証を行うことが可能であると考えられる。 	<p>(検証結果) 保留</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な成果である 2-②-2 が記載されておらず、進捗の検証ができない（保留） 具体的な成果（数値）がまだ見えてきていない。（保留） 成果が見えないため現時点進捗を検証できないため。（保留） モニタリングができていない。（進捗不十分）
	<p>2-②-1 （目標を実現するための推進方策）</p> <p>メリハリある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等を行う。</p> <p><工学部・工学研究科></p>	<p>2-②-1-1</p> <p>2-②-1-2</p> <p>2-②-1-3</p> <p>2-②-1-4</p> <p>2-②-1-5</p>	<p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況が概ね良好である <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画に沿った取組がなされている。 <u>特に進捗率の高い取組については、具体的な成果を記載願いたい</u> 人事運用体制の一本化、共同研究の届出制による研究動向の迅速な把握、共同研究の成果発表への投稿料助成、ティータイム等について、順調に成果が挙げられている。 進捗率の低い 2-②-1-1 についても、実施計画や準備に問題はないことから、総合的にみて良好と判断していると思う。 年度計画が明確であり、進捗の状況が判断しやすい。 	<p>(検証結果)</p> <p>進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画に沿った取組がなされているが、具体的な成果があがっているのか定かでない。 2-②-1-5 について、ティータイムだけで異分野間の交流ができるのか、疑問である。 年度計画に沿った取組がなされている。 2-②-1-3 新たな研究プロジェクト申請の運用の具体例が記載されていない。もっと多くの取組がなされるべきではないのか。 2-②-1-5 教授のみならず、若手教員同士の異分野交流支援の仕組みは？ 「稼働している」「試行した」「開始した」といった表現が多い。何らかの成果が上がったといった記載が欲しい。 継続された取り組みを行い進捗率も伸びており、今後の進捗をも期待できる。 2-②-1-1 以外は進捗が順調と思われる。 年度取組については概ね十分に成果を出していると思われる。2-②-1-1 ももう少し進捗率を高く評価してもいいのではないか？

		<p>2-②-2 （中期計画に記載の評価指標） 工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第2期よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化する繊維・機能性材料分野では第2期より20%以上増加させる。 <工学部・工学研究科></p>	<p>2-②-2-1 2-②-2-2</p>	<p>（検証結果） 保留 （コメント） ・K P I が確認中であり、現時点で進捗は検証できない。 <u>少なくとも年度末にはK P I を記載願いたい。</u> ・総合 DB への入力の実施され、今後そこから抽出された数値をもとに進捗状況がモニタリングされ、検証される予定である。具体的数値が得られていないために、判定を保留する。年度末の進捗状況の調査までにはデータを取得することが可能であると思われる。 ・進捗の検証ではないのですが、関係する集計作業などは、より効率的にできるよう、総合データベース等ツールを十分に便利なものとして整備することが、大学当局として必要だと思う。 ・論文掲載のモニタリング結果がほしい。 ・モニタリングに向けての準備は整えているが、増加できているかは現状で不明であるため保留とする。 ・論文掲載数のモニタリングが開始しないと判断が難しい。</p>	<p>（検証結果） 保留 （コメント） ・論文数等が記載されておらず、進捗の検証ができない。 <u>もちろん、DB への入力状況にもよるが、毎年度の数値は把握いただきたい。</u>（保留） ・現行の総合 DB の不具合の修正も完了しており、次回からは<u>第二期との比較</u>をお願いしたい。（保留） ・目標とする数値に対する進捗状況が見えない。（保留） ・成果が現状見えていない、今後モニタリングされるため保留とする。（保留） ・モニタリングができていない。（進捗不十分） ・総合 DB が機能していないと読めばいいか？（保留）</p>
<p><中期目標 3> 社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。</p>	<p>3-①</p>	<p>福井方式として認知された産業活性化活動を進めてきた産学官連携本部を中心に、民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築し、地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進し、特許活用率および県内企業との共同研究割合を第2期中期目標期間よりも増加させる。 <産学官連携本部></p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・K P I 自体は目標値達成に必ずしも十分なものとなっていないが、3-①-1 による取組成果から鑑みると、K P I の向上も十分期待される。 ・すべての項目について、概ね順調に推移している。 ・体制整備を完了し、具体的な活動に取り組み、成果をあげつつある。</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である （コメント） ・文科省提出年度計画に記載した具体的な取組が具体的に実施されたのか明らかでない。 ・当該計画のアウトプット・アウトカムは「民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みの構築」、「地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出の推進」であるが、これらの達成を示す具体的なエビデンスを検討いただきたい。 ・当該目標の計画は当該計画一つであり、「本学の特色を生かした研究成果の社会への還元」をアピールできる具体的な成果を期待する。 ・順調に成果を出しているのでは。</p>	

	<p>3-①-1 （目標を実現するための推進方策） 民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築する。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-1-1 3-①-1-2 3-①-1-3 3-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組（3-①-1-1～4）それぞれにあげられた様々な取組がなされ、整備事業の採択、コーディネーターの委嘱、実績数など、成果があがっている。 ・ 文部科学省平成 29 年度地域産学官連携科学技術振興事業補助金地域イノベーションシステム整備事業 地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに採択された。また福井大学の研究に関する秘密情報管理規程を整備中である。知財出願件数も順調に推移している。また福井銀行行員 7 名を福井大学産学官連携コーディネーターとして委嘱し、新たな取り組みを行っている。 ・ URA や技術移転推進、設備共用等の諸活動を円滑に推進する体制を整備し、地域産学官連携の枠組みであるふくいオープンイノベーション推進機構との密接な連携による研究成果の具体的な社会提供に貢献していると思う。今後、成果の社会提供について、より定量的な見える化をしていけるよう努めることが重要になってくると思う。 ・ 評価指標に関する数字の記載があるが、年度計画の取組の進捗状況の記載が乏しい。 ・ 取組を進めていることはうかがえるものの、評価指標や平成 29 年度の計画の進捗状況が分からないため、進捗状況の評価が難しい。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度計画に沿った取組がなされており、地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに採択される等成果があがっている。なお、特許出願数、外部資金獲得支援件数、共同研究件数など定量的な成果が記載されているが、その数値は進捗として妥当なものかどうか記載願いたい。 ・ 多くの取組について、順調に推移している。 ・ 成果として地域イノベーション・エコシステム形成プログラムの採択、推進や機能強化としての地元銀行との学金連携、また知財の出願等の実績や計測支援部の技術相談等の件数が示されており、成果があがっている。ただし、その成果の目標値が示されていないと思われ判断しがたいが良好な数字と思われる。 ・ 種々の取組を実施されていることが分かるが、個々の「評価指標」や「具体の取組」の状況で不明点もある。
	<p>3-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 特許活用率および県内企業との共同研究割合を第 2 期よりも増加させる。 <産学官連携本部></p>	<p>3-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が不十分である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術相談件数が昨年度より大幅に減少。共同研究数も伸び悩んでいるようだ。（進捗不十分） ・ 技術相談の数、地域企業共同研究数の目標達成が可能か。（進捗不十分） ・ 地域との共同研究割合が 25.9%程度であり、目標の 50%程度を考えると、達成が厳しい状況に見える。（進捗不十分） ・ KPI から鑑みると、目標値達成に必ずしも十分な値とはなっていないが、3-①-1 の推進による成果を期待したい。 ・ 産学官コーディネータ 3 名の技術相談件数、地域企業共同研究件数が順調に推移している。特許活用率については記載がみられない。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内企業との共同研究割合は目標値を達成しているが、特許活用率のデータが記載されておらず、進捗を検証できない。また、3-①-1-4 とは数値が異なっているが、どちらが正しいのか明らかでない。（保留） ・ 技術相談件数は【戦略 3】②に掲げられた 300 件をクリアしている。 ・ 共同研究割合の向上、技術相談件数ともに指標の目標値を達成していることから、良好な進捗状況と判断する。 ・ 企業への訪問を積極的に行うなど、目標達成に向けた努力が見られる。共同研究件数については、契約単位の変更による変化と、それ以外による変化を分けると、後者に伸びが見られるのか気になる。

				<p>・特許活用率に関する記述は、年度ごとの集計でないと正確には議論できないものの、途中経過を確認するためには上半期での値と算出に必要な根拠データを算出できるよう工夫が必要と考える。共同研究数は、現状ですすでに前年同月の値を上回る等、計画の進捗に問題はないと思う。地域企業との共同研究件契約数も現状ですすでに前年値に達する見込みが立っていますが、一方で、地域外を含めた総数にも伸びがみられていることで割合としては、前年同月比ではほぼ同等となっているので、目標達成のためには今後 10 件程度以上の地域企業との共同研究契約を得る必要があると思われるが、そのためには CD や URA、産学官連携本部教員だけではなく、その他の教職員を起点とする多様な分野で広がりのある共同研究の企画、推進支援が必要になっていくと思う。</p>	
<p><中期目標 4> 研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。</p>	<p>4-①</p>	<p>国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期中期目標期間よりも増加させる。 <研究推進委員会></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K P I 自体は確認中であり進捗を検証することはできないが、4-①-1 について年度計画に沿った取組がなされており、一部実績もあがっている。 ・文科省提出年度計画について、クロスアポイントメント制度の実績（遠赤）があるのではないかと。また、「共同研究への支援」による成果である研究論文数以外に、研究件数、関係者からの好評など多角的にこの支援の成果を示せるよう配慮いただきたい。 ・すべての項目について、概ね順調に推移している。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-①-2 について K P I の記載がないため、進捗は検証できないが、4-①-1 について様々な取組みがなされている。（保留） ・当該計画のアウトカムは「国際的な共同研究および研究者交流の推進」、「新たな学問領域の創生や社会的な課題解決」であり、其々の成果を記載願いたい。特に、前者について、国際的な共同研究および研究者交流の状況（向上度を含め）をフォロー願いたい。（保留） ・全体的に PDCA サイクルが回っていない。（進捗不十分）
		<p>4-①-1 （目標を実現するための推進方策） 国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築する。 <研究推進委員会></p>	<p>4-①-1-1 4-①-1-2 4-①-1-3 4-①-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組がなされており、一部実績もあがっている。 ・4-①-1-1、-2、-4 では「検証・見直し」があげられているが、それらは具体的になされているのか（一部は実施されているが）。その結果等を記載願いたい ・それぞれの取組による実績値が記載されているが、前年度比など、向上具合を記載願いたい。 ・内外の大学・研究所との共同研究が遂行されている。ライフサイエンスイノベーションセンターでは公募採択型研究費の募集を行い、学部を超えた連携体制の構築が 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に沿った取組がなされている。しかしながら、当該計画のアウトカムは「国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制の構築」であり、第 2 期に比べ、どのくらい連携体制が構築されたのかを示すことができるエビデンスを検討いただきたい。 ・4-①-1-3 について、中間で進捗率 60%であったものが、年末に 0%というのは理解に苦しむ。交際交流事業を 11 件申請し 2 件採択されたのであれば、やや増加でもよいのではないかと？ ・具体の取り組みにおいて、「好評を得ている」「貢献出来

				<p>順調に推移している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部、年度計画にある検証と見直しは今後となるが、取組は順調に進んでいる。 取組を進めていることはうかがえるものの、4-①-1-1については、平成 29 年度の計画、4-①-1-2 については評価指標の一部と平成 29 年度の計画、4-①-1-3 については評価指標、4-①-1-4 については評価指標に対して、進捗状況が記載されておらず、判断が難しい。 	<p>ようになった」等の記述があるが、この表現では評価しにくく、具体的な内容が欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価指標と進捗状況に記された内容が、一致していないように見えるところがあった（4-①-1-3, -4）。 4-①-1-3 及び 4-①-1-4 については進捗状況の記載が無いため判断が難しいので保留とする。（保留） 4-①-1-2～4-①-1-4 について、個別にも確認したものの、「検証」が行われている様子が伺えない。（進捗不十分） 計画は予定通り実施されている。4-①-1-1 について、取組に対して「好評」を得ている旨の記述があるが、いずれそのエビデンスを問われると思われるので先手を打ってその工夫をしておくことも必要と思われる。 4-①-1-3 は「拾い上げ」「声掛け」のアクションを実施することが評価指標なので、採択数などが 0 件であっても、進捗はしていると思われる。この点考慮して進捗率の値を見直すべきと思う。 4-①-1-4 は支援体制の「高度化」を評価指標としていることから、値で表現しにくいところであるが、例えば参加研修会数、延べ参加人数等を使って表現を工夫してみるといいのでは？
		<p>4-①-2 （中期計画に記載の評価指標） 国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間の共著論文等の数を第 2 期よりも増加させる。 <研究推進委員会></p>	<p>4-①-2-1 4-①-2-2 4-①-2-3</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> K P I が確認中であり、現時点で進捗は検証できない。<u>少なくとも年度末には K P I を記載願いたい。</u> 総合 DB への項目追加が実施されたが、具体的な数値が得られていないために、判定を保留する。年度末の進捗状況の調査までにはデータを得ることが可能であると思われる。 本質的には目標達成に向けた努力が継続されていると思われる、関係者の取組については概ね良好に進行していると考えていいと思います。ただ、評価をするためのツールであるはずの DB システムの方の問題で、評価を効率的に行えていないことは、問題としてはかなり大きいと思う。 モニタリングがあまり進んでいない モニタリングができていないため、保留。 論文掲載数のモニタリングが開始しないと判断が難しい。 	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合 DB にも問題があるかと思うが、<u>現状を把握するためにその他の方法でデータ収集を行ってほしい。</u>（保留） 現行の総合 DB の不具合の修正も完了しており、次回からは<u>第二期との比較</u>をお願いしたい。（保留） 具体的な数値が出てきておらず、評価できない（4-①-2-3）。（保留） データ入力の後、モニタリングをされると思われるため今回は判定を保留する。（保留） モニタリングが行われていない。（進捗不十分） 4-①-2-1 および 4-①-2-2 については、年度末進捗状況の記述内容が中間時点のものと同じになっている。これをもとに判断すると、中間時点と年度末の進捗率が異なっていることの説明がつかない。記述内容を再チェックするか、2つの進捗率の値を統一する必要がある。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

<p>4-② リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等により、研究力を強化し、研究活動を効果的・効率的に推進する。 <新産学連携・研究推進組織></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K P I 自体は昨年度同期に比べておおむね低下しているが、良好に進捗している 4-②-1 の取組によって、向上することを期待する。 ・文科省提出年度計画にあげられた「学内競争的研究経費の確保」は達成されているのか、<u>具体的な数値を示してほしい。</u> ・すべての項目について、概ね順調に推移している。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得額・件数は昨年度に比べ減少しているが、それに向けた様々な取組みがなされており、次年度の回復を期待したい。 ・<u>当該目標のアウトカムは「研究活動の高度化および効率化」であり、それが達成されたことを示すエビデンスを検討いただきたい。</u> ・各評価指標に対する取組みは順調であり成果が上がっていると思われる。ただし数値的に低下している指標については分析と今後の方策が望まれる。 ・全体的に PDCA サイクルが回っていない。「検証」がされていない。(進捗不十分)
	<p>4-②-1 (目標を実現するための推進方策) リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等を行う。 <新産学連携・研究推進組織></p>	<p>4-②-1-1 4-②-1-2 4-②-1-3 4-②-1-4</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・<u>4-②-1-2～4 については、「検証と見直し行い、実行に移す」としているが、具体的な検証・見直し結果の概要も記載願いたい。</u> ・地域産業戦略と連携した共同研究を推進させるよう、研究マネジメント機能の強化が図られている。また学内競争的研究経費の確保と戦略的配分を行っている。 ・検証と見直しは今後も継続して実施する必要があるが、となるが、取組は順調に進んでいる。 ・平成 29 年度の計画にある、妥当性評価 (4-②-1-1)、活動内容の検証と見直し (4-②-1-2)、参加実績の検証と見直し (4-②-1-4) について記載がなく、判断が難しい。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-②-1-1 について (4-②-2-2 と関連するが)、URA 等の体制が整備され、様々な活動が行われているが、従事者数の妥当性評価がなされていない。 ・4-②-1-2 について、体制の強化が進められているが、当該年度計画で予定された「戦略及び活動内容の検証」がなされていない。 ・4-②-1-3 について、学内資金の戦略的配分がなされているが、その成果をフォロー願いたい。 ・4-②-1-4 について、当該年度計画では参加実績の検証と見直しをしようとしているが、その結果が記載されていない。 <p>上記のように、計画では「検証及び見直し」を進めるとしており (本年度はその成果は記載されていないが)、今後とも継続していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗率の書き方に基準や厳密な決まりはないと思うが、4-②-1-1、4-②-1-2 は中間と年度末同じ文章で、それぞれ進捗率が 100% に増えているのであれば、せめて「1 年を通じて継続した」といった表現が入っていてもよいのでは。 ・4-②-1-1 妥当性の評価はどの文章が該当するのかわかりにくい。 ・4-②-1-3 において、評価指標とされている項目の一つについて、記述がないにも関わらず、進捗率が 100% とな

					<p>っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別にも確認したが、「検証」が行われている様子が伺えない。（進捗不十分） ・4-②-2-1 および 4-②-2-2 については、年度末進捗状況の記述内容が中間時点のものと同じになっている。これをもとに判断すると、中間時点と年度末の進捗率が異なっていることの説明がつかない。記述内容を再チェックするか、2つの進捗率の値を統一する必要がある。指標内の「～の強化を図るため、～を実行に移す」という記述に対しては、「実行に移した」ものが取組であり、「図れた」ものが本質的には成果であるので、整理し記述する工夫をして欲しい。「検証」、「見直し」についての記述も欲しい。
	4-②-2 （中期計画に記載の評価指標） — ＜新産学連携・研究推進組織＞	4-②-2-1 4-②-2-2	<p>（検証結果）進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-②-2-1 K P I 自体は前年 9 月に比して共同研究数以外は低値となっている。しかしながら、4-②-1 の取組が進んでおり、後半の回復を期待したい。（進捗不十分） ・4-②-2-2 人材数に関しては、これは向上したのかどうか明らかでない。<u>その点を記載願いたい。</u>以上、K P I から鑑み、「進捗不十分」とした。 ・適切にモニタリングが実施されている。 ・前年に比べて、外部資金の獲得状況が低いものがある。 ・適正な人材数の評価が必要と思われる。 ・数値をモニタリングできている。しかし、平成 29 年度の計画にある「動向を把握」まで行うのであれば、数値の増減の原因分析や、今後の対応の必要性の有無の判断や、対応が必要な場合の方策の検討に資するよう、データの詳細分析を行い、その結果も記載していただきたい。 	<p>（検証結果）進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-②-2-1 について、外部研究資金の獲得額、件数とも前年に比べ減少している。外部研究資金の獲得増に向けた取組を進めていただきたい。 ・4-②-2-2 について、配置人材数が当該計画の遂行に適正かどうか、客観的な指標で検証することを検討いただきたい。 ・人数の記載がみられるが、評価指標に対する成果をどのようにモニタリングしたのかが記載されていない。むしろ、していないのであれば、「不十分」とせざるを得ない。 ・対前年度比の数値が評価指標とされ、その結果がマイナスの結果が一部に出ているにも関わらず、進捗率 100% となっている。 ・年度毎に外部研究資金の受入件数、受入金額に増減はあるため、検討材料として活用するためモニタリングを随時行うことが必要であるが、動向把握にとどまらず、分析結果も記載する必要があるのでは。 ・モニタリングはされている。 ・数値をモニタリングについては、迅速に行えている。増減に対する対策を全学で検討するためにも IR 分析等の結果も共有できるように準備しておいて欲しい。 	
<中期目標 5> 研究水準の向	5-① IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化して、先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行		<p>（検証結果）進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果）進捗状況が概ね良好である</p>	

上を図るため、適切な評価を実施する。	うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <新産学連携・研究推進組織>	(コメント) ・目標である「研究水準の向上」を具体的に示す指標等を検討いただきたい ・すべての項目について、概ね順調に推移している。 ・活動を通して実績・情報を蓄積し、システムの最適化を図っていく持続的な取組が必要だと思う。	(コメント) ・当該目標では「適切な評価を実施する」としており、具体的な評価がどのようになされ、その結果がどのようにフィードバックされているかを示す必要がある。このためのエビデンスの収集をお願いしたい。 ・評価指標に基づく分析・評価をどのように行うのか、つまりデータを何に利用するのかを明らかにすることが検討課題である。 ・今後は収集したデータの管理、分析が必要となるため。	
	5-①-1 (目標を実現するための推進方策) IR を用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化する。 <新産学連携・研究推進組織>	5-①-1-1 5-①-1-2 5-①-1-3 5-①-1-4	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・具体の取組が詳細に記載されており、進捗の検証が容易である。 ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・適切に実施されている。従来の研究活動に関するデータ分析がなされているが、現在遂行している研究の有効性・効率性(定義がよくわかりませんが)の分析をどう行うべきかが検討課題であると考えられる。 ・それぞれの取組が順調に進んでいると思われる。	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・それぞれの取組が順調に進んでいると思われる。 ・5-①-1-2 について、当該計画では評価軸を設定しているが、具体的に設定できたのか明らかでない。 ・順調に推移しているが、評価指標に基づく分析・評価についてはこれからである。 ・5-①-1-1 ですでに IR 室が設置されているにもかかわらず、H29 の具体の取り組みが「IR 室を設置し、……」となっている。 ・具体の取組の記載方法で、毎年度集計する数値的な指標に関しては、経年変化、今後の予測が簡易となるように入力項目を設定しておくことが必要と思われる。 ・取組内容は具体的に記述されており、かつ経過や成果も進捗の検証が容易にできる記述となっている。
	5-①-2 (中期計画に記載の評価指標) 先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 <新産学連携・研究推進組織>	5-①-2-1	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・ <u>人的支援実績</u> を記載願いたい。 ・適切に実施されている。学長のリーダーシップによる予算配分や文科省からの機能強化経費により重点研究分野の予算配分が増加した。学長裁量経費による学内競争的研究経費支援制度により、新たに KPI 等への貢献等を配慮した戦略的配分を実施されている。 ・人的支援についての戦略的資源配分の検討が必要と思われる。	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・研究 IR として詳細な分析がなされている。今後は、それに基づき、具体的な研究資源の戦略的配分を実施していただきたい。それに関連し、「先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援」状況について経時的にモニターし、戦略的な配分がなされていることのエビデンスを収集願いたい(5-①-1-3にも該当)。 ・順調に推移しているが、評価指標に基づく分析・評価についてはこれからである。 ・研究分野への財政的に、戦略的な研究資源配分が適切に実施されている。 ・具体的な配分状況、成果の回収、今後への展望なども概略をまとめて記し、経営陣が判断に活用できるようにしておく必要がある。

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【社会貢献】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (中間)	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (年度末)
<p><中期目標 1> 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。</p>	<p>1-① 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い、卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立し、ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・今年度前半では K P I は目標値に比べて低値になっており、後半の向上を期待したい。そのためには、活性化方策が実施されなければならないが、今年度前半では必ずしも十分な対応がなされていない。 (進捗不十分) ・文科省提出年度計画では「教員評価を活用することによって活性化する」としているが、その効果をどのように検証するのか検討いただきたい。(進捗不十分) ・COC 推進機構が「地(知)の拠点整備事業」を含む地域・社会貢献事業を一元的に管理する体制が整備され、ふくい COC+事業推進協議会、ふくいオープンイノベーション推進機構等を通じた地域・産業界との連携体制が構築された。この体制にもとで、県内 5 大学による地域志向科目の共同開講や単位互換制度が順調に実施されるとともに、ふくい地域創生士の認定方法が整備され、29 年度末に認定が行われることが決定している。また、29 年 9 月に実施した外部評価では、COC ならびに COC+事業による取組が高く評価された。さらに、平成 30 年 2 月にはアドバイザーボードが実施され、事業推進協議会等で意見が報告されることが決定している。本目標の計画が全体的に順調に推移する中で唯一の不安材料は、重要な評価指標である地域貢献に参画する教員の割合が計画を大きく下回っている点にある。これについては、これは新総合データベースの機能不足に起因する面が多いと思われるが、今後確実に改善することが急務である。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画のアウトカムの 1 つは「卒業生の地域定着を推進」であり、具体的な数値を記載願いたい(その数値で十分なのか、目標値を達成できているかなど)。 ・「県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い」に対するアウトカムを具体的に設定いただきたい。あわせてそれに関するデータの収集を進めていただきたい。 ・「自治体および地域産業界との連携を強化する」に対するエビデンスは「連携」であり、その状況はどのようになっているのか明らかでない。 ・文科省提出年度計画では「教員評価を活用することによって活性化する」としているが、その効果をどのように検証するのか検討いただきたい。 ・総合 D B が機能していなかったこともあり、集計もれが発生しているのかもしれないが、数値目標に到達しておらず、問題である。(進捗不十分) ・COC 事業に関連する最大の評価指標である地域貢献活動に参加する教員の割合は 91.5%と目標をクリアしており順調に進捗していることが確認された。ただし、上記の確認は別の資料によるものログフレームへの記述を確認できなかった。また、総合データベースの整備など、確実に登録・把握・記録するとともに、学外からの問い合わせに迅速に対処できる総合データベースの機能強化が急務である。 ・COC 推進機構が「地(知)の拠点整備事業」を含む地域・社会貢献事業を一元的に管理する体制が整備され、ふくい COC+事業推進協議会、ふくいオープンイノベーション推進機構等を通じた地域・産業界との連携体制が構築されたことは計画通りと評価できる。 ・外部評価委員会とアドバイザーボード等による評価が行われていることを確認したが、収集した意見および改善事項の記述が必要。 ・過去 5 年間の累計の教員の貢献率が 90.65%の実績</p>

				<p>があり、平成 29 年度単独の貢献率が 81.4%と高値となっているため、当中期目標の全体を表す指標としては、順調に推移していると判断できる。</p> <p>・「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業選定委員会」による、中間評価結果が平成 30 年 2 月に公表され、ふくい COC+事業の取組が、「S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」評価を受けた(42 事業中、S 評価は 5 事業)。このことにより、当取組みは十分目標を達成している。</p>
	<p>1-①-1 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内 5 大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い卒業生の地域定着を推進するために、COC 推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成 28 年度末までに確立する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-1-1 1-①-1-2 1-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合DBの見直しによって集計の支障があることは十分理解できるが、参加教員の割合が 7.6%となっており、目標値に達していない。平成 25 年度からの実績では 91.15%と目標値を達成しているが、これは逆に本年度の実績が必ずしも十分でないことを反映しているのではないかと。本年度後半の向上を期待したい。(進捗不十分) 1-①-1-2 について、当該年度計画では、表彰制度の整備やインセンティブの付与による活性化があげられているが、相当する取組がなされているのか明らかでない。教員評価の活用だけでなく、具体的な活性化方策の推進をお願いしたい。(進捗不十分) COC 推進機構が「地(知)の拠点整備事業」を含む地域・社会貢献事業を一元的に管理する体制が整備され、ふくい COC+事業推進協議会、ふくいオープンイノベーション推進機構等を通じた地域・産業界との連携体制が構築された。 しかしながら、地域貢献活動に参加する教員の割合は目標を大きく下回っており、上記のように検証した。これは新総合データベースの機能不足に起因する面が多いと思われるが、今後確実に改善することが急務である。(進捗不十分) 総合データベースについては、更に改良を進める必要がある。特に、蓄積したデータを有効に活用できる仕組みを構築が必要である。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-①-1-1 について、COC 推進体制から COC+推進体制に移行しているのではないかと。また、COC+終了後の取組の展開(予算を含め)について、具体的に検討いただきたい。 1-①-1-2 について、KPI は目標値を達成しており、この点に関して進捗は良好である。しかしながら、総合データベースについて、それでは網羅できない社会貢献活動もあるのではないかと。もともと、<u>教員の社会貢献活動への寄与は高く、それをさらに向上させる(KPI として) ためには、きめ細かい調査が必要になる。</u>さらに、今まで以上に社会貢献状況を向上させる具体的な取組は検討されているのか明らかでない。 1-①-1-3 について、「連携体制を平成 29 年度末までに構築する」としているが、具体的な連携体制の構築状況が明らかでない。また、<u>「連携が強化された」ことに対するエビデンスはどのようなものがあるか、具体的なアウトカムが示せるように検討願いたい。</u> 総合DBの運用が不十分である結果、エクセルデータや紙媒体による資料をもとに算出される結果となったが、H29 年度分の全教員に対する地域貢献活動に参加する教員の割合: 81.46%という結果では、目標値の 90%に到達していない。(進捗不十分) <p>総合DBが機能しなかったことによる集計漏れのためだけなのか、参加教員の割合が減少したため</p>

					<p>かを確認する必要がある。(進捗不十分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-①-1-1: COC 推進機構および COC 推進室が整備され、地域連携活動を一元的に管理する体制が整備できたことは評価できる。今後、福井県および地域産業界と連携した共同研究の推進ならびに COC+事業終了後の体制の早期構築を進めるべく、産学連携・地域イノベーション推進機構ならびに地域創生推進本部(仮称)等の着実な整備が望まれる。 1-①-1-2: 29 年単年度あたり地域貢献活動に参加する教員の割合は 91.5%であり、目標の 90%を達成できていることを確認した。しかしながら上記の集計は担当者の手作業に依存していたこと、ならびに長期不在教員などを除いた数値であることなどの課題が残されている。今後、教員の地域・社会貢献活動を確実に登録・把握・記録するとともに、学外からの問い合わせに迅速に対処できる総合データベースの機能強化と兼業・委嘱等の管理システムの構築が急務である。 過去 5 年間の累計の教員の貢献率が 90.65%の実績があり、平成 29 年度単独の貢献率が 81.4%と高値となっているため、当中期目標の全体を表す指標としては、順調に推移していると判断できる。 当該年度実施した、教員評価をHPにより公開しており、教員の活動の活性化に寄与するものである。
		<p>1-①-2 ふくい COC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員会等による取組の検証ならびに改善をすることになっているが、具体的取組ではそれがなされているのか明らかでない。(進捗不十分) 具体的な検証結果や改善事例等を記載願いたい。 外部評価が実施され、COC ならびに COC+事業について、補助終了後の継続体制についての助言が提言されたものの、事業自体は高く評価された。また、アドバイザーボードは 30 年 2 月 27 日の「ふくい地域創生士」の授与式後に実施されることも決定しており、外部からの意見・提言を収集することは着実に進められていることが確認できたが、これらの提言を取組の改善につなげられるか注視する必要がある。 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員会等の検証状況(評価されたのか等)、およびそれに基づく改善状況の記載がなく、当該計画が進捗しているのか判断できない。具体的な検証結果や改善事例等を記載願いたい。 「ふくい地域創生士」が認定されているが、このこと自体は成果と思われるが、数値的にこれで十分なのか明らかでない。また、「ふくい地域創生士」と地元定着率との整合性は大きなアウトカムになるので解析いただきたい。 WGによる検証作業の結果、次年度開講予定数が増加となっていることから、学生の認知度、関心の増加がうかがえる。 1-①-2-1: 外部評価委員会とアドバイザーボード

				<p>・学部のコメントが無い。</p>	<p>等による評価が行われていることを確認したが、収集した意見および改善事項の記述が必要。また、ふくい地域創生士の認定証授与式後にアドバイザーボードを実施し、要望・意見収集したことも記述すべき、(意見を受けて 5 大学開放授業の新設などは行われているはず)。</p> <p>・「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業選定委員会」による、中間評価結果が平成 30 年 2 月に公表され、ふくい COC+事業の取組が、「S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」評価を受けた(42 事業中、S 評価は 5 事業)。このことにより、問う取組みは十分目標を達成している。</p>
	<p>1-②</p>	<p>地域志向と主体性の育成を重視した「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。</p> <p><COC 推進機構></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <p>・以下の記載したように、細分化された計画の内二つが「進捗状況が不十分である」である。取組の内容、それから期待される成果などが具体的に見えないものが多々ある。また、関係する K P I が示されないものが多く進捗を検証することができず、よって「進捗状況が不十分である」とした。(進捗不十分)</p> <p>・文科省提出年度計画にあげられた「アクティブラーニングの授業内容・授業形態を取り入れた科目を整備する」としているが、地域志向に関連したこのような科目の増加状況はいかがか。(進捗不十分)</p> <p>・COC+の教育プログラム開発委員会及び拡大教育プログラム開発委員会の下、学内の地域志向教育検討体制を平成 28 年度中に整備され、参加大学による開放講義双方向授業と単位の互換が着実に実施されていること、ふくい地域創生が 30 年 3 月までに輩出されることなど、COC+関連事業が着実に実施されていることが確認できた。また、地域の児童・生徒への先進的教育の提供ならびに地域住民への教育サービスの提供も実施されていることが確認でき、上記の判断とした。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>・当該計画の直接のアウトカムである「地域志向・実践系科目数を増加」、「相互開放と単位認定等を拡充」、「社会が求める高度専門職業人の養成」、「地域への定着を推進」に対する成果が記載されておらず、このため「進捗状況が不十分である」とした。<u>これらに対する具体的な成果を経時的に示していただきたい(向上度を含め)。(進捗不十分)</u></p> <p>・具体的数値の記載がないため、評価保留としました。(保留)</p> <p>・COC+の教育プログラム開発委員会及び拡大教育プログラム開発委員会の下、学内の地域志向教育検討体制を平成 28 年度に整備され機能している。</p> <p>・地域コア科目の全学生への必修化が行われ、確認できた。また地域志向科目とアクティブラーニング科目の強化が行われ、すべての入学生が地域志向科目を受講していることを確認した。ただし、アクティブラーニングについては科目数と履修者数の確認が不十分である。</p> <p>・COC+参加大学による開放講義双方向授業と単位の互換が着実に実施されていることが確認できた。</p> <p>・ふくい地域創生が計画を 1 年遡り、30 年度末に 50 名認定され、そのフォローアップが実施されている。</p> <p>・地域の児童・生徒への先進的教育の提供ならびに地域住民への教育サービスの提供も実施されている</p>	

	<p>1-②-1 地域志向と主体性の育成を重視した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させる。 <COC 推進機構></p>	<p>1-②-1-1 1-②-1-2 1-②-1-3 1-②-1-4 1-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの取組が「予定」、「検討」などに留まっており、当初設定した取組の目標が達成できるのか不透明である。(進捗不十分) それぞれの評価指標に関する記載がないため、進捗が検証できない。(進捗不十分) 進捗率が低い取組もあり(1-②-1-2~4)、今後の一層の推進が望まれる。(進捗不十分) 1-②-1-2 について、<u>資格取得者数の予想数を記載願いたい。</u> 1-②-1-3 では「大学開放状況」があげられているが、相当する取組はなされているのか。(進捗不十分) 中期計画では「<u>地域志向・実践系科目数を増加</u>」をあげているが、その状況を記載願いたい。 それぞれの取組に<u>関係する K P I について、現在の数値を記載願いたい。</u> 医学部関係の分に関しては具体的データの記載がないため評価不能 COC+の教育プログラム開発委員会及び拡大教育プログラム開発委員会の下、学内の地域志向教育検討体制が整備された。 地域コア科目の 2 科目 4 単位の必修化、地域志向科目および PBL 科目の重点化が進行し、受講学生の実績も期待通りであると判断できる。 地域の産業人材のキャリアアップならびにグローバル化対応プログラムについても計画に従って取り組んでいるが、設定している KPI の達成は今後の取組の加速化が必要と判断される。 学部のコメントが無い。 	<p>ことが確認でき、上記の判断とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップについては実数を確認できなかった。 各取り組みにおいて満足度調査等を実施しており、定性的評価及び定量的評価において高い水準を維持しており取組が進捗している。 <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画の K P I である「<u>地域志向・実践系科目数を増加</u>」は目標を達成できたのかなど、<u>どうなったのか明らかでない。</u>このため、進捗不十分とした。(進捗不十分) 1-②-1-1 について、「反映する仕組み」は設定できたのか、明らかでない。また、学生・地域のニーズが反映された具体的な例が示されていない。(進捗不十分) 1-②-1-2 について、ふくい地域創生士が認定できたことは評価されるが、認定者数は目標値等を達成できているのか、具体的な成果が明らかでない(福井県出身者の 5%以上?)。また認定者の満足度もエビデンスとなるので収集願いたい。このため、資格取得者に対するアンケートに代えてアドバイザーボードの意見聴取に変更した理由が定かでない(進捗不十分) 1-②-1-2 について、「<u>地域志向教育の浸透と改善</u>」で具体的に予定している取組がなされ、<u>一定の成果が出るよう進めていただきたい。</u>その際、<u>どのようなものが具体的なアウトカムになるのか、検討願いたい。</u>(進捗不十分) 1-②-1-3 について、AL が導入されているが、当該計画の「地域志向と主体性の育成を重視した」に対する達成のエビデンスをどのように示すのか検討願いたい(AL の導入によって地域志向についてどのような成果が具体的に出たのかなど)。(進捗不十分) 1-②-1-4 について、満足度の程度、受講者数は目標を上回っているのか明らかでない。(進捗不十分) 1-②-1-5 について、2 科目開講、参加者数は目標を上回っているのか明らかでない。(進捗不十分) アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた科目は、
--	--	--	---	---

					<p>29 科目 (文京 26/松岡 3 ?) で 7 割近くに達しており、全学で〇名学生在履修している (延人数) と、具体的数字が確認できないため評価不能。(保留)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のカリキュラムの関係もあり、医学部生の参加は物理的に困難であることを考慮した数値目標とその達成評価が必要である。(保留) ・1-②-1-1: 学内に COC+地域志向科目・認定制度部門 WG を設置したこと、WG から各学部に対して「ふくい地域創生士」の対象となる専門科目の選定や推薦方法の作成を依頼した結果、申し合わせが作成され、31 名のふくい地域創生の認定に繋がるなどの成果が得ている。 ・1-②-1-2: 地域コア科目 2 科目 4 単位を卒業要件したこと、COC+の計画を 1 年遡り、教育地域科学部 10 名、工学部 21 名が「ふくい地域創生士」に認定されたこと、証授与式終了後にアドバイザーボードを開始し、資格取得者からの意見収集が行われるなど、計画通りに遂行されていることが確認された。 ・1-②-1-3: すべての開講科目に対するアクティブラーニング要素の取り入れ状況に不明な点があり記述を希望する。 ・1-②-1-4: キャリアアッププログラムの受講者に対する満足度調査が実施され、高い回答率と満足度が得られ得ており、計画通り実施されている。 ・1-②-1-5: 学外講師を迎え、海外ビジネス人材育成を目的とした「国際戦略とオープンイノベーション」科目の 4 コマの講義が行われていることを確認した。 ・アオッサに設置した大学連携センターにて、県内の 4 年制 5 大学 (福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学) の連携による共通科目の授業を開講している。実践恐竜学や、まちづくり論、白川文字学、ふくいを知る・見る・考えるなど、主に福井県の特徴的な産業、歴史、文化に関する地域を志向した科目を中心とした、全 38 科目の共通教育・専門教育のプログラムとなっており、他大学の教員が担当する幅広い分野の共通教育を受講できる環境が整えられている。異なる大学、学部、学科の学生約 1、500 人が交流しながら受講しており、本学にとっても共通教育の充実及び
--	--	--	--	--	--

		<p>1-②-2 地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-②-2-1 1-②-2-2 1-②-2-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-②-2-1 について、「全員の受講」をあげているが、現在の受講状況が記載されていないので進捗は不明であるが、進捗率 50%とは 50%の学生が受講していることを示しているのか。(進捗不十分) 1-②-2-2 について、開講数、開講予定数が記載されているが、これはサテライトキャンパス授業に相当するのか。また、<u>開放科目受講者数・単位取得者数について具体的な数値を示してほしい。</u>(進捗不十分) 1-②-2-3 について、定着者数の調査は行われているのか明らかでない。<u>その数値を記載願いたい。</u>また、定着者数の向上に向けた具体的な取組はなされているのか。(進捗不十分) 医学部関係の分に関しては具体的データの記載がないため評価不能 地域志向科目の必修化と PBL 科目を含む重点化、ならびに F スクエアによる開放講義や双方向授業が着実に実施されている。平成 28 年度の開放科目受講者を対象としたアンケートを行った。これを受けて F スクエアでの 5 大学開放科目の内容を一部変更し拡充するとともに、COC+参加大学すべてによる双方向授業が開始された。これらの開放科目の受講者数ならびに単位互換も計画通り推移する見通しが得られている。 キャリアセンターを中心に各学部や COC 推進室が連動し、自治体および産業界が協働し、学生の地域定着を増進させることを目的としたインターンシップや企業説明会を実施している。インターンシップに参加することを含めた「ふくい地域創生士」の要件ならびに申請・認定手順が決定され、平成 30 年 3 月に認定が行われることが決定している。以上から、地域社会の求める高度専門職業人の教育システムが構築されつつあり、地域への定着に向けた環境整備が進んでいると判断できる。 学部のコメントが無い。 	<p>学生の多面的で幅広い視野の醸成、学習意欲の向上に繋がっている。</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-②-2-1 について、「<u>地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充</u>」としているが、<u>具体的にどのような拡充状況か記載いただきたい。</u>また、<u>本年度の科目数と受講者数は目標値を達成できているのか明らかでない。</u> 1-②-2-2 について、「平成 30 年度末までに大学連携システムが構築される」としているが、構築状況はいかがか。 1-②-2-3 について、インターンシップの状況 (向上度を含め) を具体的に示していただきたい。 開放科目数の増加、受講者週の増加により進捗状況は全体として良好といえる。 インターンシップにより県内定着率が増加するのかは、今後どのようにデータをとるかを考慮する必要がある。年度評価ではその効果を解析するのは困難である。また、景気の影響を受けてしまい、1 年生を対象としたプレインターンシップの効果をみるのは難しいのでは。 1-②-2-1 ; 地域コア科目 2 科目 4 単位が必修化され、すべての学生が地域志向科目を受講している。 1-②-2-2 : F スクエアで 38 科目が開講され、受講者は昨年の 531 名から 768 名に増加した。また、COC+参加大学すべてが双方向授業を受け持つなど、計画通りに進捗している。 1-②-2-3 : 「インターンシップに積極的な企業合同説明会」の開催ならびに「有償型のインターンシップ」の準備など、インターンシップ参加者数の増加と定着の促進策が行われていることは確認できた。しかしながら、プレインターンシップ参加者数、インターンシップ参加・単位取得者数、参加者の定着率などは記載されておらず評価できない。 本学から他大学の開放科目を含めれば 768 名が履修しており、全体の半数以上を占めており、サテライトキャンパスの活用をとおして、地域志向の担い手となる人材育成や地域の活性化に十分寄与してい
--	--	--	--	--	---

				る。 ・本年度、本学から 31 名を「ふくい地域創生士」の日程を行った（5 大学では、50 名）。
1-②-3	グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げる。 ＜地域貢献推進センター＞	1-②-3-1	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・具体的な取組が進められており、高い満足度など成果があがっている。 ・SSH、SGH に係る取組はなされているのか明らかでない。 ・ <u>a-c)に示された延べ人数などの具体的な数値を記載願いたい。</u> ・医学部関係の分に関しては具体的なデータの記載がないため評価不能 ・GSC では、インテンシブコースならびにアドバンストコースともに、予定を上回る参加者が実習や先端的生命医科学研究を行っており、GSC 全国受講生発表会や海外でのラボ研修なども予定されていること、公開講座、「ひらめき☆ときめきサイエンス」採択プログラムならびに「福井大学きてみてフェア」などで、地域の児童・生徒に先進的教育を提供していること、受講生等へのアンケートが実施され、次年度に反映させる予定であるなどを確認した。 ・これらの先進的教育を受けた優れた人材を、福井大学に入学させる取組も検討する必要もあるのではないかとと思われる。	(検証結果) 進捗状況が良好である (コメント) ・具体的な取組が進められており、高い満足度など成果があがっている。 ・ <u>a-c)に示された延べ人数などの具体的な数値を記載願いたい。</u> 経時的に向上しているかななどを明示していただきたい。また、この取組みのアウトカムの 1 つは受講生の満足度であり、それを見やすい資料になるよう、質問項目の共通化など、検討いただきたい。 ・当該計画のアウトカムは「次世代を担う人材創出」であり、受講者の進学状況もエビデンスとなる。 ・医学部関係の分に関しては具体的なデータの記載がないため評価不能。 ・1-②-3-1 : GSC については計画通り進捗していることが確認された。 ・児童生徒に先進的教育を提供する目標については、評価指標欄に具体的な数値の記入が必要であり、担当者に対応をお願いしたい。 ・県内高校生を対象とした高大連携探究プロジェクトが実施され昨年度の約 2 倍の 207 名の参加があったことを確認した。COC+担当としては、高大連携プロジェクト参加が、福井大学を志望する動機づけとなるような企画もお願いしたい。
1-②-4	地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 ＜地域貢献推進センター＞	1-②-4-1 1-②-4-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・1-②-4-1 について、公開講座や市民開放プログラムの受講者数等は、昨年度実績に比べ増加・減少はあるものの、継続的に実施されている。後半での向上を期待したい。 ・ <u>受講者の満足度調査結果の概要を記載願いたい。</u> ・1-②-4-2 について、医学部と産学官連携本部の取組み以外すべて進捗率が 0%であるが、他部局では関係の取組が実施されているか明らかでない。 ・医学部におけるキャリアアップの取組は精力的にな	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・1-②-4-1 について、開放プログラムや公開講座が継続的に開催されているが、満足度調査における目標値は達成できているのか明らかでない。 ・1-②-4-2 について、様々な取組みが順調になされている。なお、 <u>該当する K P I の状況はどうか（プログラム数は増加したのか、満足度は向上したのか等）。</u> ・当該計画では「地域住民との協働的学習・活動を通して」としているが、それに対するエビデンスを検

				<p>されているが、<u>受講者数や満足度の向上など、具体的なKPIの状況を記載願いたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習、キャリアアップ教育はここに記載された以外にもいろいろ実施されているのではないか。そのあたりも取り纏め願いたい。 ・医学部関係に関しては概ね計画どおりに進捗している。医学部医学科2年生に対する緊急被爆医療に関する教育講演の実施により、本学医学部医学科学生がどの程度、被爆医療に関わる意識を涵養することができたかの評価がほしい。それにより2年生を対象とすることの妥当性の検証が必要ではないか。 ・引き続き多くの生涯学習市民開放プログラム等が開講されているが、受講者の高齢化や伸び悩みも認められる。 ・県立大学が開放科目の受講料を大幅に下げたことなども影響があると思われ、生涯学習に対する大学としての方向性を定めることも必要と思われる。 ・学部のコメントが無い。 	<p>願いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域を支える人材の創出」について、どの程度創出できたのかを示すデータはあるのか。 ・目標について、満足度が27年度末と比較して現状維持または5%向上となっているが満足度の具体的な数値が記載されていない。開講口座数やのべ参加数が減少していることから、満足度、参加者数の点などから、質、量ともに目標を達成しているとはいいがたい。（進捗不十分） ・県立大学の聴講料の値下げにより参加者数が影響を受けるというのであれば、その差額に見合うだけの講義内容を提供できていないとも言える。（進捗不十分） ・医学部関係に関しては概ね計画どおりに進捗している。但し、在宅におけるチーム医療と他職種連携実践教育の実践 についての記載において、塩野義製薬株式会社との共催は必要か疑問です。産学連携という意味でとらえてもらえれば良いのですが、医療関係の講演・研究会で、製薬会社の共催となると、ほとんど製薬会社の宣伝的内容と思われしまい、かえって大学が中心となった活動として評価されないのではと危惧します。（進捗不十分） ・1-②-4-1：生涯学習については受講者の高齢化や特定の方が受講している傾向があることに加え、県立大学が聴講料を値下げした影響もあり受講者数は停滞している。生涯学習に対する福井大学の対応方法については検討の時期が来ているように思われる。 ・1-②-4-2：医療系分野におけるキャリアアップ教育が非常に積極的に行われ、地域の医療人材の継続的な濃緑向上に寄与していることが確認できた。また、教師については講習受講が義務づけられ、本学が教員のキャリアアップを主導していると思われる。これらに対し、地域の産業人材のキャリアアップ教育については記述が少なく肯定的な評価は難しい。
--	--	--	--	--	--

<p>1-③ 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元するとともに、地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。さらに地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させるとともに、福井大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 <COC 推進機構></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>
		<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画にあがっている「重点化した分野の教育研究状況の検証、それに基づく定借・改善」の実績を示すことができるのか。(進捗不十分) ・「10 のWGにおいて具体的な内容を検討する」としているが、相当する取組がなされていないが、今年度後半で実施するのか明らかでない。(進捗不十分) ・記者発表や記事の投げ込みなどで情報発信に努めていること、大学 HP を見直し、「附属施設」カテゴリ、産学官連携本部のバナー等を追加し、各センターの HP へのアクセスを容易にするなどの努力が認められるが、その成果を量的に計る HP アクセス回数などの集計も実施すべきである。 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省提出年度計画にあがっている「重点化した分野の教育研究状況の検証、それに基づく改善」の実績を示すことができるのか。 ・当該計画の具体的なアウトカムを設定し、それに合わせたデータの収集を進めていただきたい ・数値目標の記載がなく、達成度を評価出来ない項目もありますが、具体的な取り組み内容が記載されており、全体として概ね良好と思われます。 ・HP のアクセス状況の把握・集計はできておらず中間評価からの進展がなく改善が必要である。(進捗不十分) ・「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業選定委員会」による、中間評価結果が平成 30 年 2 月に公表され、ふくい COC+事業の取組が、「S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」評価を受けた（42 事業中、S 評価は 5 事業）。このことにより、問う取組みは十分目標を達成している。
	<p>1-③-1 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元する。 <広報センター></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>
	<p>1-③-1-1 1-③-1-2</p>	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-③-1-1 について、様々な広報活動が精力的に実施されている。しかしながら、その成果は「ニュースとして報道機関に取り上げてもらう」となっており、<u>本年前期でどの程度取り上げられたのかの実数を記載願いたい。</u> ・1-③-1-2 について、「a)の完成後速やかに」としているが、a)は完成できたのか明らかでない。また、<u>進捗度 100%としているが、その具体的な成果を示してほしい。</u> ・本学の活動状況を HP 掲載、記者発表、記者レクチャー、福井県教育記者クラブの投げ込みなどが多様な媒体・方法で発信していることは認められるが、HP の閲覧数やアクセス数などの集計も行って行く必要があると思われる。 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-③-1-1 について、様々な広報活動が精力的に実施されている。今後は「社会に還元できた」とする具体的なエビデンスを検討いただきたい ・1-③-1-2 について、「a)の完成後速やかに」としているが、a)は完成できたのか明らかでない。また、<u>進捗度 100%としているが、その具体的な成果を示してほしい。</u> ・<u>広く社会への情報発信、還元は第 2 期でもうたっている取組であり、第 3 期ではそれに比べ向上したことを示せるようなデータ収集が望まれる</u> ・HP の改修によりアクセス性が本当に向上したのか、利用者からの評価が不明です。アクセス数のカウントができていないのであれば、利用者を対象としたアンケートなどで評価できませんか。 ・医学部附属病院の特異な治療がわかる本の出版が受

					<p>診や紹介患者数に与えた影響がわかるとよい。 また、本の販売実績など、具体的な影響がわかる数字が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-③-1-1：システムを利用者数が前年度+10%とするという指標に対する記述がなく評価できない。 HP の現在の閲覧者数、閲覧ページ、月ごとの集計などができる機能を設けるべきである。(進捗不十分) 1-③-1-2：評価指標の一つとして「自治体との連携事業数ならびに自治体関連の審議会への派遣教員数の維持」をあげているが、基準数との比較が行われておらず評価できない。(進捗不十分)
		<p>1-③-2 地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。 <COC 推進機構></p>	<p>1-③-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 審議会等への派遣教員数、事業数が記載されているが、目標値達成に十分なのかどうか明らかでない。 <u>例えば、前年度比、目標値への達成度など、具体的なエビデンスを記載願いたい。</u>(進捗不十分) ここでは「体制が有効であるか」を具体的な取組としているが、どのように検証するのか明らかでない。(進捗不十分) 医学部関係の分に関しては具体的データの記載がないため評価不能 <u>医学部から毎年提出しているシーズに対しどの程度のマッチングが行われたかの具体的な数値が評価する上で必要</u> 福井県内自治体との連携事業数および審議会等への派遣教員数が高い水準を維持していることは評価できるが、それによってもたらされた効果・実績を強調していく工夫が期待される。 学部のコメントが無い。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な取組みによって具体的な成果があがっている。K P I としては「連携事業数、派遣教員数の維持」があげられているが、その達成状況はいかがか。一方、K P I は第 2 期に比べ同水準としているが、第 3 期では第 2 期に比べ数値は同じだが、より多くの成果があがったとしてアウトカムを出していただきたい。 具体的な「地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチング」に関する成果は上がっているのか明らかでない。 連携事業数や派遣教員数が記載されているが、数値目標との比較がないため、十分かどうかの検証ができない。(保留) 意見交換を行ったとう記載のみであり、意見交換の結果、問題点があったのかどうかなどがわからず、判定不可の内容である。(保留) 1-③-2-1：評価指標の一つとして「自治体との連携事業数ならびに自治体関連の審議会への派遣教員数の維持」をあげているが、基準数との比較が行われておらず評価できない。また、FRESCO については順調であることを確認した。 過去 5 年間の累計の教員の貢献率が 90.65%の実績があり、平成 29 年度単独の貢献率が 81.4%と高値となっているため、当中期目標の全体を表す指標としては、順調に推移していると判断できる。

<p>1-③-3 地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させる。 <COC 推進機構></p>	<p>1-③-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-③-3-1-1～4 を取りまとめたもの (1-③-3-1) では、F R E S C Oのみが取り上げられており、また進捗率 0%となっている。それぞれの部局では様々な取組みが進められているが、取りまとめ部署によって全学としての取りまとめがなされていない。(進捗不十分) 細分化された中期計画では重点分野における教育・研究を進展させるとしており、取りまとめとしては各部局のものを重点分野に整理分類する必要がある。 1-③-3-1-1, 2 について、教育学部、医学部では関係する取組が精力的に行われており、一部成果があがっており、更なる成果が期待できる。(進捗不十分) 1-③-3-1-3, 4 は中期計画 1-②に含まれるものではないか。また評価指標 b)は不適當ではないか。(進捗不十分) 評価指標に関して、向上しているかが示せるよう記載が望まれる。 緊急被ばく医療総合シミュレーション基礎コースによる多職種医療人のキャリアアップ教育、福井県教育総合研究所との教職員の相互派遣による共同体制の確立、CST 養成プログラムの開講と、養成した CST による実践的現職教員支援、など地域に求められる専門人材のキャリアアップ教育で貢献していることが認められる。 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-③-3-1-1～4 を取りまとめたもの (1-③-3-1) では、F R E S C Oのみが取り上げられており、また進捗率 0%となっている。それぞれの部局では様々な取組みが進められているが、<u>取りまとめ部署によって全学としての取りまとめがなされていない</u>。(進捗不十分) 当該計画では「<u>重点分野の教育・研究を進展</u>」をうたっているが、<u>そのアウトカムを具体的に検討いただきたい</u> (何が示せれば、進展したとするのか)。(進捗不十分) コア教員による成果はどうか、記載いただきたい。(進捗不十分) 【子どものこころの諸問題への包括的対応 (県)】の記載で、福井県のご寄附により は、福井県の寄付により福井県教育庁からの依頼に応じて、松崎秀夫教授がは、福井県教育庁からの依頼に応じて、脳機能発達研究部門教授がとすべきではないでしょうか。他の部分の記載では特定の教官名がでてきませんが、ここの記載にのみ個人名が記載されており違和感があります。 1-③-3-1 : 29 年単年度あたり地域貢献活動に参加する教員の割合は 91.5%であり、目標の 90%を達成できていることを確認しているが、ログフレーム表には記入がない。 福井県の教育委員会や学校との協働による教師のキャリアアップ教育については、多くの評価指標があげられ、それぞれ地道な成果をあげていることは評価できる。しかし、評価項目が多すぎる印象であり簡潔な評価指標に整理すべきである。
<p>1-③-4 福井大学と地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 <COC 推進機構></p>	<p>1-③-4-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 九つあげられた具体の予定された取組の内、実際にいくつ進められているのか、現在開始されていないものは本年後半から開始するのか明らかでない。(進捗不十分) 本年度では参加大学との連携数は一つであるが、今後連携数を増やす方策はあるのか。(進捗不十分) 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画では「それぞれの強みを活かした特色人材育成」、「地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献」をあげているが、具体的なアウトカムを検討いただきたい。特に、「雇用創出」のエビデンスもお考えいただきたい。 当該計画では「共同研究を強化する」としているが、

				<ul style="list-style-type: none"> ・福井地産商品の開発と地産品を活用した休憩施設でのサービス・商品開発等の提案を行う共同研究を締結するなど、産学官による連携拡大、地域活性効果に関する研究が緒に就いているが今後の成果に期待したい。 ・COC+事業の特色人材育成部会の連携授業として 6 次産業商品の開発などの活動実績の報告会の開催と実施報告書配布などの実績が確認できた。 	<p>具体的な共同研究数は向上しているのか、目標値を達成しているのか、明らかでない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本アイデアは、“福井発ビジネスプランコンテスト”（平成 29 年 2 月）にてグランプリを獲得している。との記載は、この記載ないような実際の成果は平成 28 年度の業績とみなされてしまうのではないのでしょうか。 ・1-③-4-1：COC+事業として特色分野を指定した連携大学との共同研究を促しているが、日本酒プロジェクトを除き実態が伴わないようであり、改善が必要である。（進捗不十分） ・「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業選定委員会」による、中間評価結果が平成 30 年 2 月に公表され、ふくい COC+事業の取組が、「S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」評価を受けた（42 事業中、S 評価は 5 事業）。このことにより、問う取組みは十分目標を達成している。 ・平成 29 年度から COC+事業に新たに福井医療大学を協力大学として加盟し、連携を拡大した。 ・特色人材育成部会の取り組みとして、学生に日本酒を製造から商品化までを行い、独自ブランドの日本酒や、減塩へしこの発売を行い、その都度記者発表を行い、メディアを通しての情報発信も積極的に行った。
<p><中期目標 2> 地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上並びに産業の発展に繋がるイノベーション</p>	<p>2-①</p>	<p>三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8,000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。そのため、第 3 期中期目標期間中に、教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30%以上、実践的活動に関わる教員を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。学校教育課程においては、教員養成機能を重視した組織改革を進め、第 3 期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。</p> <p><教育学部></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の細分化された中期計画について、目標値への到達など、成果があがる取組みがなされている。しかしながら、文科省提出年度計画に対応する具体的な成果が出るよう配慮願いたい。 ・本学が福井県の教員の再教育・キャリアアップに高い貢献を果たしていることは確認できたが、卒業生・修了生の教員就職率の設定目標に対する実績は低く、何らかの見直しも必要と判断される。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p>

<p>ン創出を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献する。</p>	<p>2-①-1 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全 8,000 人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。 ＜教育学部＞</p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3 2-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調に行われており、すでに目標値に達している ・ KPI もあるなど、進捗は良好である。 ・ 教員免許更新講習については、福井県内教員の更新講習対象者の 45% を超える講習を担当し、当初の目標がクリアされていること、学校マネジメントコースによる管理職教諭の育成についても、現場の実践に即して大学教員と院生が協働する体制が拡充するなど、福井県の教員のキャリアアップ教育に着実に貢献していることを確認した。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調に行われており、すでに目標値に達しているものもある。 ・ 2-①-1-2 について、年度計画で設定した年度計画の目標値には一部到達していないものが、来年度の見込みはいかがか ・ 2-①-1-3 について、開発関与数は 4 件を上回っているのか ・ 当該計画では「福井県全 8,000 人の教員の資質向上など」としているが、それを達成できたする具体的なエビデンスを検討いただきたい ・ 2-①-1-1：更新講習対象者の約 40% の講習を担当するという目標に対し、50% を超え着実に進捗していることを確認。 ・ 2-①-1-2：学卒で教員就職率 70%，義務教育教員の占有率 45%，教職大学院修了者の概ね 100% 採用という 3 大目標に対し、それぞれ 57.1%，47.7%，76.9% の実績であり、高い目標に対し健闘していると評価したい。 ・ 2-①-1-3：評価指標の欄ではプログラム数をあげているが実績欄は参加者数をあげており対応が必要。 ・ 2-①-1-4：拠点・連携校数について目標を超え順調な進捗を確認した。
	<p>2-①-2 教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を 30% 以上、実践的活動に関わる教員を 60% 以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。 ＜教育学部＞</p>	<p>2-①-2-1</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p>
			<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>関係する評価指標である教員の確保率、活動回数の実績を記載願いたい。</u> ・ 「現場実践 6 割タスクフォース」を実行するいくつかの試みが実施されているようであるが、その集計を行い KPI として見える化を行うべきである。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>当該計画では「学校現場で指導経験のある教員を 30% 以上、実践的活動に関わる教員を 60% 以上確保し」を目的としており、その達成状況を記載願いたい。</u> ・ 2-①-2-1：教員養成系の指導経験者を 30% 以上に対応する数値、ならびに 6 割タスクフォースで作成した教員の定義と成果の記述をお願いしたい。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>2-①-3 教員養成機能を重視した組織改革を進め、第3期中期目標期間中も引き続き教員就職率 70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率 55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね 100%を維持する。 <教育学部></p>	<p>2-①-3-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ 具体の予定された取組が順調に行われており、目標達成が期待できる。 ・ 本学卒業・修了者の教員採用実績については目標に遠く及ばず中期計画の見直しも必要と判断される。 (進捗不十分)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ 2-①-1-2 に対応しており、一部目標値を達成していない。今後の改善を期待したい。 ・ このシートの 2-①-3 の評価項目はログフレームの 2-①-1 で記述されており整理が必要。</p>
	<p>2-② 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。加えて関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 <医学部></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・ 具体の取組内容、成果等が詳細に記載されており、進捗の検証が容易である ・ 以下に記載するように、年度計画に沿った取組が順調になされており、目標値の達成など、成果があがっている ・ 確認であるが、文科省提出年度計画に記載した具体的な項目は大よそ達成できたと考えてよいのか。達成できていないものがあれば、後半での達成を期待する。<u>特に、数値が記載されているものについては、それが達成されているか確認願いたい</u> ・ 福井県内派遣の辞退率など今後、目標達成がより困難となる要因がある。(進捗不十分) ・ ICT ネットワークに関して進捗が不十分であり現在の進捗状況では3期の当初予定の達成が困難であることが危惧される。講演会の集計方法の整備やふくいメディカルネットの利用促進会の開催などが行われているが、その成果が数値目標に反映されているか否かの検証が不十分である。(進捗不十分)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・ 年度計画に沿った取組が順調になされており、目標値の達成など、成果があがっている ・ 文科省提出年度計画に記載した具体的な項目は達成できているのか確認願いたい ・ 卒前 I P E 実習の成果に関しては、医学生の参加が悪く問題である。看護学生の分を中心として記載とその成果を記載する方法にしないと、達成度が低い印象をあたえる。 ・ 奨学金及び修学金受給辞退者の増加を防ぐ対策の効果の証拠がないと、辞退者数が多い印象のみ受ける。 ・ 新たなセンシング型見守りセンサーの事業の進捗状況が問題である。一方、クラウド型救急医療連携システムは順調に展開していることから、2-②全体としては概ね良好といえる。</p>
	<p>2-②-1 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを 20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。 <医学部></p>	<p>2-②-1-1 2-②-1-2 2-②-1-3 2-②-1-4 2-②-1-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・ 具体の予定された取組が順調に実施されている。また、すでに目標値に達している(高い満足度も含め)ものあり、進捗状況は良好である。 ・ 多くの取組の進捗率は 100%となっているが、本年後半でも更なる取組の推進を期待したい。 ・ 2-②-1-2 について、辞退率が高いが、何か対応策はあるのか。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント) ・ 具体の予定された取組が順調に実施されている。また、すでに目標値に達している(高い満足度も含め)ものあり、進捗状況は良好である。 ・ 2-②-1-3 について、目標値である「取組みを 20%増」の達成状況はいかがか ・ <u>当該計画の具体的なアウトカムは何か、検討いただきたい</u></p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・初期研修終了後の福井県内派遣の辞退率が 27.3%と高い。辞退することが可能であるとの情報が下の学年に伝わるとさらに辞退率が増加することが危惧される。辞退者を防ぐ具体的対策の検討が必要である。(進捗不十分) ・自治体等との連携事業として実施した講演会の集計方法を整備したとなっているが、整備したことにより把握できている講演会の実施件数の増加が示されていない。(進捗不十分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒前 IPE としての講義受講者数に対し、卒前 IPE 実習への医学科学生の参加者数が非常に少なく、医学科に対する卒前 IPE が十分に行われているとは言いがたい。 ・卒後 IPE の内容は、【在宅におけるチーム医療と他職種連携実践教育の実践】の部分の記載の単なる繰り返しになっており、項目にあわせた記載の整理が必要。 ・奨学金及び修学金受給辞退率が 27.3%と高率であったことへの対応策が記載されているが、以後の辞退者が減少しているという根拠が示されていない。 ・上記以外の項目については、進捗状況は良好といえる。
2-②-2	さらに、ICT ネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。 ＜医学部＞	2-②-2-1 2-②-2-2	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調に実施されている。 ・2-②-2-1 について、今回予備導入試験を 2 回行っているが、目標値 19 回以上の実施に向けて、取組を進めてほしい。 ・2-②-2-2 について、進捗率が 100%となっているが、更なる取組の推進を期待したい。 ・地域の救急医療体制向上に関する成果は概ね順調といえるが、サ高住でのデータ収集 2 回しか実施されおらず、解析を行うにたるデータが得られのかが不明である。そのため、警報アルゴリズムの作成にはほど遠い進捗状況と言える。(進捗不十分) 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-②-2-1,-2 とも良好に進捗している。 ・2-②-2-1 について、実証試験回数が延べ 19 回以上としているが、実際に実施できた実証試験回数が不明である。アルゴリズムの模索段階が続いているのであれば、進捗状況としては問題ありとせざるえない。(進捗不十分) ・2-②-2-2 については進捗状況は良好といえる。(進捗不十分)
2-②-3	関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 ＜医学部＞	2-②-3-1	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調に実施されており、当初予定の多くが達成されている。 ・今後、細分化した当該計画の目に見える成果を提示できるよう、配慮いただきたい。 ・ふくいメディカルネットの利用促進会を予定回数実施していることは評価されるが、その結果閲覧患者数が何%増加したのかの評価が必要。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な KPI である「ふくいメディカルネット」の利用状況を記載いただきたい。 ・当該計画のアウトカムである「地域医療の向上に貢献」をどのようなエビデンスで明示するのか検討願いたい。 ・ふくいメディカルネット利用促進会の開催による効果がどうであったかの具体的な成果の記載が必要です。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

<p>2-③ 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。さらに、知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出に繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 ＜産学官連携本部＞</p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>
		<p>(コメント) ・文科省提出年度計画に対して具体的な成果が提示できるよう配慮いただきたい ・地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携による推進体制が整備され、様々な協働の取組や交流会が行われていることは確認できるが、共同研究の実績がやや低調であり、研究成果の発信にも工夫が必要と判断される。</p>	<p>(コメント) ・文科省提出年度計画に対して具体的な成果が提示できるよう配慮いただきたい。 ・当該計画のアウトカムの1つは「持続的な技術移転や共同研究成果の創出」であり、第2期に比べて向上していることを示すデータの収集を検討願いたい。 ・それぞれ取組による成果に対応する評価指標が初めに設定された評価指標の達成に向けて順調に進捗していることを示すデータも記載いただきたい。 ・地域に貢献する大学という立場からは、地域の複数企業・団体が参加する共同研究の数、ならびに県内企業との共同研究件数という大きな評価指標が目標に達していないことが懸念される。(進捗不十分) ・COC+事業における6つの特色分野の大学間連携研究も成果も顕著とはいえず、COC+と産学官連携本部との連携強化が、二つの項目の評価指標の押し上げに繋がる可能性もあり検討して頂きたい。(進捗不十分)</p>
<p>2-③-1 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成 29 年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。 ＜産学官連携本部＞</p>	<p>2-③-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>
		<p>(コメント) ・予定された“<u>具体的な取組</u>”について、<u>イベント参加1回/月、クロスアポイントメント人員1名/年以上、など具体的な予定値があげられているものについて、現時点での状況を記載願いたい。</u> ・FUNTEC フォーラムをはじめ、経済同友会や各種工業組合等と多くの交流機会を設けていることが確認できたが、<u>その成果としての共同研究の件数や成果についても明確にすべきである。</u> ・機福井県工業技術センターとのクロスアポイントが着実に実施されていることが確認できた。</p>	<p>(コメント) ・様々な取組みがなされており、今後は「社会への情報発信」の成果をどのように示すか検討いただきたい。 ・2-③-1-1：地域の複数企業、団体が参加する共同研究の件数の記述が必要。</p>
<p>2-③-2 知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出につなげ、活力ある地域</p>	<p>2-③-2-1 2-③-2-2 2-③-2-3 2-③-2-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p>
		<p>(コメント) ・2-③-2-1、2-③-2-2、2-③-2-3について、予定されている目標値を達成しているものもあり、順調に進捗</p>	<p>(コメント) ・様々な取組みがなされており、予定されている目標値を達成しているものもあり、順調に進捗してい</p>

	<p>社会の形成に貢献する。 <産学官連携本部></p>		<p>している。 ・金融機関との連携による「産学官金連携コーディネータ制度」が計画通り運用されていることを確認した。 ・KPI の達成状況を見ると、地域との共同件数 75/90 件程度、共同研究を行う教員数：不明/108 人程度、オープン R&D ファシリティ利用回数 10 回/年 50 回以上であり、年度末に向けて加速が必要と判断される。</p>	<p>る。なお、これらの数値が最終的な評価指標達成に向けてどのような状況にあるかも記載願いたい。 ・2-③-2-1：県内企業との共同研究の実績の記述が必要。ふくいオープンイノベーション推進機構などが有効に作用することを期待したい。2-③-2-2、2-③-2-3 などの他の評価指は概ね目標を達成していることを確認した。ただし、その数字自体の意味は小さく、共同研究数、外部資金獲得、特許・論文数、社会人 Dr の入学者など、真の成果に繋がる基礎的な指標であり、どのように実質化するかあるいは成果主義の検討も必要がある。</p>
<p>2-④ 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進するとともに、地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させるとともに、第 3 期中期目標期間を通じて全学的に自治体や企業、学校、諸団体との教育・研究の連携を推進し、連携授業および共同研究の連携先数を増加させる。 <国際地域学部></p>			<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・文科省提出年度計画であげている「総合的・学際的な研究の推進」について、どの程度進んでいるのか明らかでない。(進捗不十分) ・文科省提出年度計画であげている「共同研究の割合を 50%程度にする」について、目標値である 50%程度を達成いただきたい。(進捗不十分) ・進捗不十分、保留があることから、「進捗不十分」とした。(進捗不十分) ・国際地域学部による地域企業と連携した PBL 関連科目において、地域の課題解決型能動的学習が実施されていることが確認できるが、地域の非製造業との連携や地域社会のグローバル化などの課題に対応した連携や共同研究の実績はやや不明確である。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・文科省提出年度計画であげている「総合的・学際的な研究の推進」について、どの程度進んでいるのか(件数など)明らかでない。 ・当該計画では「第 3 期中期目標期間を通じて全学的に自治体や企業、学校、諸団体との教育・研究の連携を推進し、連携授業および共同研究の連携先数を増加させる」としているが、具体的な進捗状況はどうなっているのか記載願いたい。少なくとも「連携授業および共同研究の連携先数を増加」については経時的に増加していることを示さなければならない。 ・<u>文科省提出年度計画には共同研究の割合が K P I として示されているが、これは中期計画 2-③に該当するものではないか。当該計画の具体的な K P I、アウトカムを検討いただきたい。</u> ・自治体等との教育・研究の連携を推進し、共同研究の連携先数を増加という評価指標に対し、具体的な実績の記述が必要である。(進捗不十分) ・2-④については国際地域学部の評価項目として独立させた方が明確であると思う。(進捗不十分)</p>
	<p>2-④-1 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進する。 <国際地域学部></p>	<p>2-④-1-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・教育学部、産学官連携本部では年度計画に沿った取組がなされているが、主体となる国際地域学部で予定している学外との共同研究が実施されていない。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント) ・当該計画では「地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対する総合的・学際的な研究を推進」</p>

			<p>本年度後半にはぜひ共同研究に着手いただきたい。 （進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域企業共同研究件数は前半で目標値の 50% を達成しており、後半も同様な件数を期待したい。（進捗不十分） ・協力会運営委員会において福井経済同友会との意見交換を進め、非製造業企業との連携、共同・受託研究の可能性について協議し、現況や事例調査を実施し、活動方針の策定が進められていることを確認したが、共同研究の内、地域企業の割合が少ないことが懸念される。 ・国際地域学部においては、企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題を解決するような共同研究実績を増やす必要があると思われる。 	<p>としているが、関係する総合的・学際的な研究がどの程度実施されているかをしめす具体的なデータを記載願いたい。特に国際地域学部ではどの程度研究が進められているのか明らかでない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPI として共同研究の割合を上げているが、これは産学官に係わるもので、当該計画の KPI には該当しないと思われる。ここでは総合的・学際的な研究であり、産学連携で推進する共同研究とは性質が異なるのではないか。そこで、当該計画の KPI を改めて設定する必要がある。 ・国際地域学部所属の教員が主体となる共同研究や、地域連携の取組についての記述をお願いしたい。 ・国際地域学部においては、企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題を解決するような共同研究実績を増やす必要があると思われる。
2-④-2	地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。 ＜国際地域学部＞	2-④-2-1	<p>（検証結果） 保留</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係する学習が開始されているが、予定された具体の取組である「連携数の増加」、「連携事業等の延数」について、現時点でどのようになっているのか記載願いたい。 ・国際地域学部において、PBL 基礎 A、グローバルアプローチ、地域創生アプローチ等において、地域の課題解決型能動学習が着実に実施されていることを確認した。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際地域学部では地域と連携した課題解決型能動的学習を進めているが、その拡充状況を記載いただきたい。さらに、その学習の成果を具体的にお示しいただきたい（能力等の涵養状況など） ・課題探求プロジェクトが計画通り実施されていることを確認した。
2-④-3	国際地域学部では平成 28 年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させる。 ＜国際地域学部＞	2-④-3-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見聴取結果による具体的な改善が見えるようにしていただきたい。 ・課題探求プロジェクト参加企業を中心とした地域連携協議会が開催され、企業側から意見を収集できたことが確認された。平成 29 年度中に実施予定の第二回協議会では、アドバイザーボードとしての機能を明確にし、意見を着実に反映するよう努めて欲しい。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携協議会は年 2 回開催する予定か。そこで示された意見に基づく改善事例をあげていただきたい。 ・意見聴取結果による具体的な改善が見えるようにしていただきたい。

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【グローバル化】

中期目標	中期計画／細分化した中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント （中間）	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント （年度末）
<p><中期目標 1> 国際通用性の高い世界に開かれた大学に改革し、世界で活躍できる高度専門職業人を育成する。</p>	<p>1-① 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・国際地域学部を中心に海外協定校は良好に増加している。</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・協定校数はすでに目標値を達成している。</p>
	<p>1-①-1 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増やす。 <国際センター> <全学グローバル人材育成推進委員会></p>	<p>1-①-1-1 (1-①-1-1-1~4) 1-①-1-2 (1-①-1-2-1~3) 1-①-1-3 1-①-1-4</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・協定校数はすでに目標値を達成しており、更なる拡大が十分期待できる。今後、協定に基づく留学生交流数の向上を期待したい。 ・1-①-1-2 について、医学部では協定高を 1 校増やすこととなっているが、いかがか。 ・国際地域学部では新規の海外協定校数を計画以上に増やしている。他の部局ではほぼ計画通りの進捗である。 ・海外協定校数が、第 2 期中期目標期間末(H28.3)大学間協定 36 校、部局間協定 52 校、計 88 校であったが、H29.10.1 現在で 33 ヶ国・地域の計 134 校（大学間協定 68 校、部局間協定 66 校）となっている。</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が良好である</p> <p>（コメント） ・協定校数はすでに目標値を達成している。今後、協定に基づく留学生交流数の向上を期待したい。 ・1-①-1-4 について、文科省提出年度計画では「留学生同窓会組織ネットワークの拡大、連携強化」をあげているが、本年度の取組み・成果で十分なのか危惧される。 ・計画以上に良好に進捗している。 ・海外協定校数が、第 2 期中期目標期間末(H28.3)大学間協定 36 校、部局間協定 52 校、計 88 校であったが、H30.3.1 現在で 34 ヶ国・地域の計 146 校（大学間協定 78 校、部局間協定 68 校）となっている。</p>
	<p>1-② 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心として、外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備、ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築、ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充、外国語による情報発信の強化を推進し、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・細分化された中期計画の中には進捗に乏しいものもあるが、当該計画の K P I について、すでに基準値を超えており、これは進捗が良好な証左と言える。 ・文科省提出年度計画に「HP 上に協定校の詳細を載せる」となっているが、その実績を示してほしい。 ・受け入れ外国人留学生数は、昨年度に比べて良好に増加している。一方、GGJ が昨年度末で終了したことによる経済的支援の低下のために、派遣日本人学生が減少している。予算が無くても派遣留学生を確保する仕組みづくりが必要である。</p>	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント） ・当該計画の K P I について、すでに基準値を超えており、これは進捗が良好な証左と言える。しかしながら、今後、<u>交流を拡大するための予算確保を検討</u>いただきたい。その点で、<u>交換留学の拡大（イーブンな）</u>が望まれる。 ・文科省提出年度計画であげている具体的な取組それぞれに対する取組み・成果があるのか確認願いたい（例えば、前期中にパンフを配布する等）。 ・受け入れ外国人留学生数は、昨年度に比べて良好に増加しているが、一方で派遣日本人学生が減少している。少ない予算でも派遣留学生を確保するように継続した仕組みづくりが必要である。</p>

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (様式)

	<p>1-②-0 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心とした次の具体の取組により、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増やす。 <国際センター></p>	<p>1-②-0-1 (1-②-0-1-1~5) 1-②-0-2 1-②-0-3 1-②-0-4 1-②-0-5</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの部局では留学生の受入、送り出しをしているが、<u>全体として目標値に対してどのような実績値になっているか記載願いたい。</u> 1-②-0-1 について、予定であげられた「基金からの支援枠」はどのようになったのか、明らかでない。 1-②-0-1-5 について、本年度中に 36 科目の開講が可能かどうか明らかでない 1-②-0-2~4 について、<u>予定した取り組みが行われているが、その成果が目に見えるように提示できるよう配慮願いたい。</u> 昨年度に比べて、受け入れ外国人留学生数は増加しているが、海外派遣日本人学生数は減少している。GGJ が終了したために、経済的・人的支援を向上することは困難であるが、予算が無くても派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの仕組みづくりが必要である。 受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 175 名であったが、H29.10.1 現在で 208 名となっている。海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 206 名であったが、H29.10 月末現在で 135 名となっている。今後、春休みのプログラムに 100 名程度の学生の海外派遣が予定されている。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報について、留学希望者にとって必要な情報はないか、それに対応する情報発信(よりニーズに合った)を検討いただきたい。 1-②-0-5 について、日本語教育プログラムが整備され、それも一助となり受入留学生の拡大を期待したい。 昨年度に比べて、受け入れ外国人留学生数は増加しているが、海外派遣日本人学生数は減少している。低予算でも派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの継続した仕組みづくりが必要である。 受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 175 名であったが、H30.3 月末現在で 208 名となっている。海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末(H28.3) 206 名であったが、H30.3 月末現在で 256 名となっている。
	<p>1-②-1 外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備を行う。 <国際センター></p>	<p>1-②-1-1 (1-②-1-1-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回は工学部で行われたが、ツイニング・プログラムは今後どのように全学的に拡大するのか明らかでない。 細分化された当該計画の推進方策はツイニング・プログラムだけなのか、他の方策も必要ではないか。 昨年度に比べて、受け入れ外国人留学生数は増加しているが、海外派遣日本人学生数は減少している。GGJ が終了したために、経済的・人的支援を向上することは困難であるが、予算が無くても派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの仕組みづくりが必要である。 福井大学基金の一部を派遣・受け入れ留学生の奨学 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ツイニングプログラムは工学部のみで実施されているが、他の部局には拡大できないのか。 海外の日本語学校等との連携はどのようにしているのか。 昨年度に比べて、受け入れ外国人留学生数は増加しているが、低予算でも派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの継続した仕組みづくりが必要である。 学術交流協定校からの交換留学生に、福井大学基金を利用し奨学金の枠を設け、平成 30 年度後期の受入れ学生から給付を実施する予定である。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

			金枠として設け、給付額の設定を行っている。	
1-②-2 ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築を行う。 ＜カリキュラム・授業評価委員会＞	1-②-2-1	(検証結果)	進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
		(コメント)	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生向けとするとシラバス等の英語化が必要であるが、今後どのようにするのか具体的な方策は策定されているのか。 ・米国型 13 段階成績評価制度 (GPA), ナンバリング, CAP 制, カリキュラムツリーを整備し, 国際通用性を有する教育課程を編成している。 	(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・ナンバリングが実施されたことは進捗であるが、これは留学生にも役立つのか、検証願いたい。当該計画では「留学生に役立つ教務体制」としており、<u>役に立ったことを示すエビデンスが必要</u>である。
1-②-3 ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充を行う。 ＜国際地域学部＞	1-②-3-1	(検証結果)	進捗状況が不十分である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
		(コメント)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体の取組内容が記載されていない。本年後半で実際に交渉が開始できるのか危惧される。(進捗不十分) ・早急に目標達成のための具体的な計画を立てる必要がある。(進捗不十分) ・米国型 13 段階成績評価制度 (GPA), ナンバリング, CAP 制, カリキュラムツリーを整備し, 国際通用性を有する教育課程を編成している。 	(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・検討が開始されているが、当該中期計画では「ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充」をあげており、少なくとも平成 32 年までに一定の成果が出るよう配慮願いたい。 ・交渉状況は記述されているが、進捗と可能性が把握できないため、期間内にジョイントプログラムが始められるか不明。 ・候補先の海外大学との交流は実施しているところであるが、具体の取組内容が記載されていない。(進捗不十分)
1-②-4 外国語による情報発信の強化を推進する。 ＜広報センター＞	1-②-4-1	(検証結果)	進捗状況が概ね良好である	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である
	1-②-4-2	(コメント)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画の沿った取組が順調になされている。 ・今後は、外国語化による具体的な成果を示せるようにしてほしい。 ・平成 29 年 3 月末に作成した英文パンフレットの次期刊行に向けて、国際課でページ割りを済ませており、今年度も発行予定である。 	(コメント) <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画の沿った取組が順調になされている。なお、<u>当該計画のアウトカムである「情報発信強化によってどのような具体的な成果があがったのか」を示すことができる具体的なエビデンスを検討いただきたい。</u> ・昨年度からさらに内容を充実させ、平成 30 年 3 月末に、英文パンフレットを国際課と広報室にて共同し作成した。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (様式)

	<p>1-②-5 学生の国際交流を一層盛んにするために、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第 2 期中期目標期間末と比較して、それぞれ 15%増やす。 <国際センター></p>	<p>1-②-5-1~16</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の国際交流拡大に向けた取組みがそれぞれの部局で進められている。 1-②-5-16 が全学の現時点での実績値と思われるが、派遣数は基準値を大幅に超えており (15%以上?)、留学生数も増加している。今後、取組の更なる推進を通して、評価指標の向上が期待される。 昨年度に比べて、受け入れ外国人留学生数は増加しているが、海外派遣日本人学生数は減少している。GGJ が終了したために、経済的・人的支援を向上することは困難であるが、予算が無くても派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの仕組みづくりが必要である。 受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末 (H28.3) 175 名であったが、H29.10.1 現在で 208 名となっている。海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末 (H28.3) 206 名であったが、H29.10 月末現在で 135 名となっている。今後、春休みのプログラムに 100 名程度の学生の海外派遣が予定されている。 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画の K P I について、すでに基準値を超えており、これは進捗が良好な証左と言える。今後、これを維持・向上するための予算確保 (外部資金を含め) を検討いただきたい。 当該目標のアウトカムは「世界で活躍できる高度専門職業人を育成」であり、留学の拡大によってこの目標が達成できたとするエビデンスを検討いただきたい (どのような能力が涵養できたのか、関係者からの満足度など)。 予算が無くても派遣留学生を継続的に送り出すための単位付与のプログラムなどの仕組みづくりが必要である。 受入外国人留学生数は、第 2 期中期目標期間末 (H28.3) 175 名であったが、H30.3 月末現在で 208 名となっている。海外派遣日本人学生数は、第 2 期中期目標期間末 (H28.3) 206 名であったが、H30.3 月末現在で 256 名となっている。
	<p>1-③ 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用、現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数 (サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など) を第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増加させる。 <国際企画会議></p>		<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員のグローバル活動数の把握のために総合データベースに組み込むための準備は行っているが、本年度前期の活動数が把握できていないため、進捗が把握できていない。作業を急ぐ必要がある。(進捗不十分) 文科省提出年度計画では、「教員の意識を高める制度を活用して」、「強化するグローバル化活動を定めて重点的に支援」があげられているが、其々に相当する取組・成果はどうか。 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画の主要な K P I であるグローバル化活動数の整備、運用が進んでいないので、早急に対応願いたい。 文科省提出年度計画では、「教員の意識を高める制度を活用して」、「強化するグローバル化活動を定めて重点的に支援」があげられているが、其々に相当する取組・成果が進捗状況からは読み取りことができない。さらに、各学部で重点的に支援するとしているが、具体的な取組はなされているのか。 教員のグローバル活動数の把握のために総合データベースに組み込むためのアンケートを始めたが、現段階で 29 年度の活動数が把握できていないため、進捗が把握できない。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>1-③-1 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用を行う。 <人事会議></p>	<p>1-③-1-1 1-③-1-2 (1-③-1-2-1~5)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの部局では、当該計画の趣旨に沿った教員の採用がなされている。 <u>この採用数が多いのか、必ずしも十分でないか、それを示す客観的な指標（他大学との比較、従前の採用状況との比較など）の設定をお考えいただきたい。</u> 教員採用の際には、積極的に国際公募を行い、その結果、外国人の教員を雇用している。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの部局では、当該計画の趣旨に沿った教員の採用がなされている。しかしながら、<u>この採用数が多いのか、必ずしも十分でないか、それを示す客観的な指標（他大学との比較、従前の採用状況との比較など）の設定をお考えいただきたい。</u> 語学力を考慮した職員の採用状況はどうか 1-③-1-2 について、正規な国際公募（国内公募に準じる）によって採用された教員数はどうか。
	<p>1-③-2 現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を第2期中期目標期間末と比較して20%増やす。 <国際企画会議></p>	<p>1-③-2-1 (1-③-2-1-1~5) 1-③-2-2 (1-③-2-2-1~4) 1-③-2-3 (1-③-2-3-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-③-2-1 について、各部局で取組を進めるとしているが、殆どの部局の進捗率は0%となっている。このため、各部局での取り組みの実施が望まれる。 1-③-2-2 について、総合DBによる集計が予定されており、<u>実績値を記載願いたい。</u>なお、KPIとしては第2期末との比較となっており、第2期末のデータも総合DBから集計できるのか。 1-③-2-3 について、教員1名の派遣実績があがっている（昨年度からの継続、本年度新規はない）。しかしながら、具体の予定された取組では「制度改革を実施する」としているが、対応する取組はなされているのか。また、最終的に何名が派遣出来たら目標達成とするのか検討いただきたい。 教員のグローバル活動数の把握のために総合データベースに組み込むための準備は行っているが、本年度前期の活動数が把握できていないため、進捗が把握できていない。作業を急ぐ必要がある。 グローバル化活動の定義づけは、H28年度に完了し、H27及びH28年度の活動数については、データ収集をしている。H29年度以降は、総合DBに移行する予定であり、関係部署と協議を行っているところである。 	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-③-2-2 について、当該計画では「<u>グローバル化活動数を第2期に比べ向上させる</u>」としているが、<u>相当する具体的なKPIを設定し、第2期にさかのぼってデータ収集をしなければならない。</u>早急な対応をお願いしたい。また、向上していない場合、それを向上させる方策も検討する必要がある 1-③-2-3 について、サバティカル派遣教員は本年度は1名であるが、もちろん様々な事情もあるかとは思いますが、今後の目標値はどのようになっているのか。 教員のグローバル活動数の把握のために総合データベースに組み込むためのアンケートを始めたが、現段階で29年度の活動数が把握できていないため、進捗が把握できない。 教員のグローバル化活動数の把握のために、総合データベース（DB）に入力する準備は行っており、DBの改修が終わり次第、全教員へ入力案内を行う予定である。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (様式)

	<p>1-④ 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築し、さらに大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組に沿って、計画が進捗している。
	<p>1-④-1 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築する。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-④-1-1</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組に沿って、計画が進捗している。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組に沿って、計画が進捗している。 ・ 当該計画では「原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成 31 年度までに構築する」としているが、「講師派遣などの相互協力」が盛んに行われることを示すエビデンスをお願いしたい。 ・ 当該計画のアウトカムには受講者の満足度があるが、能力の涵養状況も含め、その点もフォロー願いたい。
	<p>1-④-2 大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 <附属国際原子力工学研究所></p>	<p>1-④-2-1</p> <p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価指標として、派遣人数、受入外国人数を設定しているが、目標値の設定を検討いただきたい。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価指標として、派遣人数、受入外国人数を設定しているが (具体的な成果が出ているが)、<u>目標値、達成度、向上度を記載願いたい。</u> ・ 当該計画で記載した「英語で提供する原子力人材育成国際プログラム」は確立したのか、その成果の一つとして受講者の満足度があるが、能力の涵養状況も含め、そのフォローをお願いしたい。
<p><中期目標 2> 地域のグローバル化を牽引する核となる大学になる。</p>	<p>2-① 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業の実施、留学生の地域交流活動数の増加 (第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増)、さらに、グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 <国際企画会議></p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>文科省提出年度計画で記載された取組について、定量的な成果が提示できるようにしていただきたい。</u> 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該計画では「<u>地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。</u>」としており、そのアウトカムを設定し、それに関するエビデンスの収集を進めていただきたい。 ・ <u>当該目標では「核となる大学になる。」としているが、その達成をどのように明示するのか、エビデンスを検討いただきたい。</u>

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (様式)

	<p>2-①-1 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業を実施する。 <国際センター> <ライフサイエンスイノベーションセンター></p>	<p>2-①-1-1 2-①-1-2 2-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-①-1-1 について、順調に取組が推進されている。 ・2-①-1-2 について、<u>取組数・参加者数、協力者数など、評価指標を具体的に記載願いたい。</u> ・2-①-1-3 について、<u>SGHプログラムの支援実績(支援数)を記載願いたい。</u> ・平成 29 年度 GSC のインテンシブコースは、予定数 55 名のところ、合格基準を満たした 69 名(高校 1 年生 53 名、高校 2 年生 16 名)が参加している。アドバンストコースには、14 名が 5 つの研究室(ラボ)に配属され、先端的生命医科学研究を行っている。参加している教員は 13 名(指導者とメンター)である。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・2-①-1-1 について、順調に取組が推進されている。グローバルサイエンスキャンパス事業の終了後、どのようにこの活動を継続するのか検討願いたい。 ・2-①-1-2 について、取組数・参加者数、協力者数、向上度など、評価指標を具体的に記載願いたい。さらに、受講者の満足度なども調査願いたい。 ・2-①-1-3 について、支援した成果を示してほしい ・<u>当該計画では「教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善」をあげているが、その成果をどのように明示できるか、検討いただきたい。</u></p>
	<p>2-①-2 留学生の地域交流活動数の増加 (第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増) <国際センター></p>	<p>2-①-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・イベント数、参加者数は昨年度実績の概ね半数に及んでおり、本年度後半に取組をさらに進め、KPI の向上を図っていただきたい。 ・<u>20%増達成に向けて、現状はどのようなレベルに達しているかを記載願いたい。</u> ・従来、福井県と福井市の 2 団体を中心に進められてきた国際地域交流活動に、更に複数の周辺市町の公立及び民間交流団体を加え交流地域の範囲拡大に努めており、それに伴い留学生を派遣する地域交流活動の種類も増えてきている。 ・H27 及び H28 年度の活動数については、データ収集をしている。H29 年度以降は、総合 DB に移行する予定であり、関係部署と協議を行っているところである。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・ここでの KPI である「留学生の地域交流活動数」は具体的にイベント数なのか、参加者数なのか、どちらでしょうか。昨年度比が両方で大きく異なるが、「第 2 期中期目標期間末と比較して 20%増」は達成できるのでしょうか。また、地域貢献の相手先の評価を検証願いたい(成果のエビデンスとなる)。 ・従来、福井県と福井市の 2 団体を中心に進められてきた国際地域交流活動に、複数の周辺市町の公立及び民間交流団体を加え交流地域の範囲拡大に努めており、それに伴い留学生を派遣する地域交流活動の種類も増えてきている。</p>
	<p>2-①-3 グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 <地域貢献推進センター></p>	<p>2-①-3-1 2-①-3-2 2-①-3-3 (2-①-3-3-1~4)</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・当該計画の主要目的にも相当する、具体の予定された取組 2-①-3-1 は実施されておらず、早急な実施が望まれる。このために、進捗を不十分とした。(進捗不十分) ・2-①-3-3 について、異文化交流の機会は設定できた</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント) ・<u>当該計画の主要目的にも相当する、具体の予定された取組 2-①-3-1 は実施されておらず、早急な実施が望まれる。</u>このために、進捗を不十分とした。(進捗不十分) ・「グローバル化社会における学び直しの場の創出と提</p>

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

			<p>のか。また、英語科目に対する受講者の評価はどうか。（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者の満足度の向上など、グローバル化に寄与した具体的な成果が示せるよう配慮いただきたい。（進捗不十分） ・2-①-3-1「COC 事業等と連携して、国際通用性を高めるための 社会人の学び直しの公開講座カリキュラムを開始する。」については進捗がない。この点について、方針を決める必要がある。 	<p>供」に対する成果の一つが関係者の満足度、受講者の増加、プログラム数の増加等であり、これら成果を明示できるように準備願いたい。（進捗不十分）</p>	
2-②	<p>海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップや、外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。</p> <p><国際企画会議></p>		<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細分化された計画 2-②-2 について、「留学生を支援する人材育成プログラムの構築と実施」することとしているが、本年度実施の取組がその達成に直接寄与するものか明らかでない。（進捗不十分） ・「<u>地元企業との連携</u>」がキーワードになっており、その点からの実績を記載願いたい。 ・文科省提出年度計画で示された「開始する二つのプログラム」のうちの一つは 2-②-1-2 のものなのか。誇値のプログラムは本年後半に開始されるのか。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献</u>」に関するエビデンスも検討願いたい。（進捗不十分） ・細分化した計画に一部「進捗不十分」があるため、進捗不十分とした。（進捗不十分） 	
	2-②-1	<p>海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。</p> <p><産学官連携本部></p>	2-②-1-1 2-②-1-2	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に沿って、学生の派遣がなされているが、<u>最終的に何名の派遣を予定しているのか（目標値に相当するが）</u>を記載願いたい。 ・2-②-1-1 について、「共同研究体制を整備する」としているが、具体的な整備が進んでいるのか。 ・<u>地元企業との連携としての実績を記載願いたい。</u> ・タイ王国の College of Asian Scholars と現地企業と本学の間で協定を結び、2017 年 10 月より 2 名の工学研究科大学院生をインターンシップに派遣した。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に沿って、学生の派遣がなされているが、<u>最終的に何名の派遣を予定しているのか（目標値に相当するが）</u>を記載願いたい。それに対して、どの程度達成できているか（それが多いのか少ないのか明らかでない）も記載願いたい。 ・派遣学生が十分な能力を身に付けたとするエビデンスを検証しなければならない。さらに、「<u>グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献</u>」に関するエビデンスも検討願いたい。
	2-②-2	<p>外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。</p> <p><国際センター></p>	2-②-2-1 (2-②-2-1-1~4) 2-②-2-2	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-②-2-1 について、「<u>さくらサイエンスプラン等の公募事業を継続的に獲得する</u>」とされているが、「新規申請無し」であり継続的な獲得がなされるのか明らかでない。（進捗不十分） 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-②-2-1 について、「<u>さくらサイエンスプラン等の公募事業を継続的に獲得する</u>」とされているが、さくらサイエンスプラン以外の支援は得られるのか。（進捗不十分）

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (様式)

				<ul style="list-style-type: none"> ・2-②-2-1 について、細分化された当該計画達成にふさわしい具体の取組か、その意義が不明確である:ここで挙げられている「人材育成プログラムの構築と実施」に寄与する取組となっているのか明らかでない。(進捗不十分) ・2-②-2-2 について、本年度の取組は評価指標に直接寄与するものなのか、また評価指標に係る取組みは今後なされるのか。(進捗不十分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該計画の「外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築」が具体的に達成できているのか明らかでない(進捗不十分)。 ・当該計画では「外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援」となっているが、具体的な成果は上がっているのか明らかでない(例えば、この取組みによって地元企業への就職者数が向上したとか)。(進捗不十分) ・福井県では、福井県、福井商工会議所、福井県国際交流協会及び地元銀行が主催し、県内の本学を含む3大学が協力して、外国人留学生向けに合同企業説明会を平成29年度から実施した。県内の海外展開に目を向け外国人留学生の採用に関心のある企業が、一堂に集結し、2年目となる平成30年度は、4月15日(日)午後を開催した。
--	--	--	--	--	--

<検証結果を示す記述>
 ・進捗状況が良好である
 ・進捗状況が概ね良好である（標準）
 ・進捗状況が不十分である
 ・保留

【業務運営】

中期目標	中期計画	関連する 具体の取組番号	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (中間)	平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント (年度末)
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標				
1 組織運営の改善に関する目標				
<p><中期目標 II-①> 本学の諸機能を強化するため、ガバナンス機能の強化、人事・給与制度の弾力化、学内資源の戦略的配分等を推進する。</p>	<p>II-①-1 学長のリーダーシップのもと、本学の教育・研究・医療・社会貢献等の機能を強化できるようガバナンス体制の点検、見直しを継続的に行うとともに、IR 体制を強化し、財務データの分析等により、戦略的・効果的な資源配分を行う。 <経営戦略課></p>	<p>II-①-1-1 II-①-1-2 II-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に、ここまでやれば当該年度計画が達成できたかを判断するのは難しいものではあるが、具体の予定された取組について様々な施策がなされている。 ・評価指標である重点配分について、ここで挙げてあるのは重点研究分野への配分に相当している（目標値を達成しているが）。しかしながら、文科省提出年度計画では「大学改革の推進や方策を実行できる予算」となっており、その意図するところは重点研究への配分だけに限らないのではないか、その点、今回の配分はその一部をカバーしているに過ぎないのではないか。 ・II-①-1-1 について、「ガバナンス機能の総点検」することになっているが、実際に総点検がなされたのか明らかでない。 ・II-①-1-1 について、進捗率 50% となっているが、最終的な達成目標をどのように想定し、今後、具体的にどのような取組予定があるのか不明。 ・II-①-1-2 について、内容的には、全学の評価指標の設定やその活用に注目すべきではないのか。 ・他大学調査の後、ある程度のスケジュール感が見えてくると思いますので、年度末進捗確認の際にお示しください。 ・II-①-1-3 の分析方法の仕組み作りについては、進捗率が 50% と言えるのか。遅れているのではないのか。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・II-①-1-3 について、「財務 IR」の基盤が整備されているが、次年度以降の運用を期待したい。 ・重点研究分野の戦略的な資源配分がなされているが本学の諸機能の強化の方策の一つであり、研究分野以外への戦略的配分はどのようになっているのか。また、文科省提出年度計画では「実質的な大学改革の推進や機能強化の方策を実行できる予算」となっているが、今回の重点研究分野への予算配分だけで良いのか。 ・II-①-1-1 について、年度計画では「ガバナンス機能の総点検」することになっているが、実際に総点検がなされたのか明らかでない。 ・II-①-1-1 の学内スペースチャージ制度について、<u>実質化に向けたスケジュール感を次回（平成 30 年度中間）の進捗状況入力の際にお示し願いたい。</u> ・ログフレームの仕組みが形骸化していないか。努力した結果であることは分かるが、「評価指標」や「具体の取組」と関係の無いことを「進捗状況」に記載しているケースが多すぎる。この原因の一つに、「評価指標」や「具体の取組」を見ずに「進捗状況」を入力できてしまうシステム上の設計があると考え。「進捗状況」の入力欄に、デフォルトで「評価指標」や「具体の取組」が表示されるようにして、それらの個々の事項の直下に、進捗状況を端的に入力する方式にするのがよいと思われる。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>II-①-2 女性、若手、外国人・国際経験のある教員を積極的に登用し、教育研究の活性化を図る。また、構築した年俸制適用教員に係る業績評価等について検証するとともに、年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与を促進する。なお、若手教員については、引き続き若手教員の雇用に関する計画に基づき、雇用拡大を推進し、若手教員の割合を平成 32 年度末までに医学部においては 16%以上、工学研究科においては 14%以上にそれぞれ向上させる。また、女性の管理職等の割合を平成 33 年 4 月 1 日までに役員 11.1%に、管理職 10.9%以上に向上させる。 <人事労務課></p>	<p>II-①-2-1 II-①-2-2 II-①-2-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> II-①-2-2、II-①-2-3 について、すでに目標値に達しており、進捗は良好である。今後は、この数値を維持し、更なる向上を目指してほしい。なお、若手教員の定義を確認してほしい（科研費申請に準じる？）。 II-①-2-1 について、他機関の勤務経験を有する教員数の増加をあげているが、<u>現状はどうか、どのように向上しているのか記載願いたい。</u>このため、進捗率は 100%とはいえない。 文科省提出年度計画に記載されている「年俸制教員 69 名」は達成できているのか記載願いたい。 年度計画における年俸制適用教員目標の 69 名の状況はどうか。 進捗率が 100%となっていますので、<u>他機関の勤務経験を有する教員数の増加について、増加したことを客観的に示す必要があります。</u> II-①-2-1 については、平成 29 年度の計画の「<u>他機関の勤務経験を有する教員数の増加を目指す</u>」に対する進捗状況も記載いただきたい。 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> II-①-2-1 について、他機関の勤務経験を有する教員数の増加をあげているが、<u>現状はどうか、どのように向上しているのか記載願いたい。</u>なお、クロスアポイントメント教員についても記載してはどうか。さらに、当該計画では、女性若手以外に外国人、国際経験のある教員の登用を進めることにしているが、実情はいかがか、登用数は増加しているのか示してほしい。 II-①-2-2 について、目標値は達成できているが、雇用拡大による具体的な成果を示すことができないか。 II-①-2-3 について、具体的な登用数をお示しいただきたい。 女性、若手等を登用拡大する具体的な方策は策定され実施されているのか、示してほしい。 当該計画では「<u>年俸制およびクロス・アポイントメント制度などの混合給与を促進する</u>」としているが、具体的な目標値はあるのか。 II-①-2-1 について、進捗が 90%となっているのは、他機関の勤務経験を有する教員数の採用が進まなかったことによるものか。そもそも、基準値と目標値が設定されていないので、年度計画に直接影響はしないものの、行動計画に掲げた以上、結果は示すべき。
<p>2 教育研究組織の見直しに関する目標</p>				
<p><中期目標 II-②> 本学の機能強化に繋がる教育研究組織の見直しを全学的視点から戦略的に推進する。</p>	<p>II-②-1 全学の機能強化や各分野のミッション等を踏まえ、教育研究等組織の見直しを行う。このうち、学部においては、全学的な視点から、第 3 期中期目標期間当初に地域創生に資する国際地域学部を創設する。大学院においては、平成 32 年度末までに教育学研究科を教職大学院に一本化し、実践型教員養成機能への質的転換を推進するとともに、工学研究科博士前期課程を改組し、学部一修士一貫教育を意識した教育課程を構築する。 <経営戦略課></p>	<p>II-②-1-1 II-②-1-2 II-②-1-3 II-②-1-4 II-②-1-5 II-②-1-6</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体の予定された取組が順調に進められており、連合大学院の設置など、成果があがっている。 II-②-1-6 について、内部質保証システムとも関連するものであり、本年後半には方向性を定めてほしい。 当該計画はもちろん組織の見直しであるが、見直した組織でどのような成果があがれば、見直しが有効であったとするのか、具体的な成果を検討いただきたい。 組織改組による機能強化の効果にも言及願いたい。 工学研究科博士前期課程の改組について、検討内容が不明 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 連合大学院の設置など、具体の予定された取組が順調に進められている。なお、大学院に関しては、計画に「平成 32 年度末までに」と記載しているので、その実現に向けた準備を進めていただきたい。 II-②-1-1 について、学部、大学院、センター等の評価結果に基づく組織の見直しや資源配分状況の進捗が 50%となっていることに対しての現状分析の記述が弱い。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

			<p>瞭であるので、年度末進捗確認の際にお示しください。</p> <p>・評価制度見直しについての検討内容が不明瞭です。課題を認識しているのであれば年度末進捗確認の際に記述ください。</p>	
3 事務等の効率化・合理化に関する目標				
<p><中期目標Ⅱ-③> 事務局改革と人づくりを進め、事務局機能を強化する。</p>	<p>Ⅱ-③-1 第2期中期目標期間に導入した経営品質活動の取組みについて、平成28年度に検証、31年度までに改善・改革を実施し、自主的・自律的な改善・改革活動に継続的に取り組む事務局づくりを推進する。 <総務課></p>	Ⅱ-③-1-1	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <p>・文科省提出年度計画に記載した「電子事務局の推進」に係る様々な施策が実施されており、その進捗は良好である。他方、「事務組織・分掌の見直し」に係る具体的な取組はなされているのか。特に、後者はPDCLAサイクル導入の成果ともなるものであり、このあたりの推進をお願いしたい。その場合、どの点が課題であり、それに対応するように事務組織・分掌の見直しを具体的にいったかを明確にしたい。</p> <p>・記載内容は、経営品質活動の検証結果に基づく改善・改革状況についてのもとの理解して良いか。</p> <p>・具体的な取組Ⅲ-②-1-2 ペーパーレス化による削減額 1、652 千円との整合性が取れていません。</p> <p>・<u>28年度に超過勤務申請機能と出退勤管理機能は整備されているので、今後何を導入していくのかを、年度末進捗確認の際にお示しください。</u></p> <p>・進捗状況に記載の内容が、平成29年度の計画である「PDCLAサイクルの仕組みを導入し、事務局改革に着手」することに対応するのかが明確には分からない。個別の取組を並べただけにも見えてしまうため、計画との対応を説明いただきたい。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <p>・様々な関連する取組が進められ、成果もあがっている。</p> <p>・<u>この取組みの成果として、コストの削減と業務の効率化があげられているが、具体的な数値としてその成果を明示できるようにしていただきたい。</u></p> <p>・当該計画では、平成31年度までに実施することとしているので、その時点で具体的な成果が明示できるよう配慮いただきたい。</p> <p>・Ⅱ-③-1-1について、内部統制システムの運用に関しては、一定の成果が出ていると判断するが、行動計画に「L（ラーニング）」があり、「振り返りと学習」がどう活かされたのかが不明である。</p>
	<p>Ⅱ-③-2 事務局職員の職務能力の開発・向上に引き続き取り組むとともに、高度な専門性を有する多様な人材の確保やグローバル化に対応できる職員を育成するために、隔年毎に、職階別研修（係長、中堅職員、契約・パート）と職務における専門能力の向上のためのスキル別研修を実施する。 <人事労務課></p>	Ⅱ-③-2-1 Ⅱ-③-2-2	<p>(検証結果) 進捗状況が不十分である</p> <p>(コメント)</p> <p>・両取組みとも進捗率は20%であり、進捗不十分とした。(進捗不十分)</p> <p>・Ⅱ-③-2-1について、本年度後半に過半の研修等が予定されており、それらの順当な実施が望まれる。これに関連し、難しいとは思いますが、研修を受けて職員の職務能力が向上したことを示すことができる具体的な成果を検討いただきたい。(進捗不十分)</p> <p>・Ⅱ-③-2-2について、成果として「職員のレベルアップ、業</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <p>・様々な研修が実施され、受講者等から好評を得ているが、受講者数の推移（増加しているのか）はいかがか。</p> <p>・スキル別研修を実施するとしているが、今回は「障害者雇用研修」だけなのか。様々なスキル別研修を実施しなくてもよいのか。</p> <p>・<u>当該計画のアウトカムは受講者の専門能力の向上であり、それをどのように検証するのか検討いた</u></p>

			<p>務の効率化が図られる」があげられているが、それを示す具体的なエビデンスを検討いただきたい。また、<u>情報交換の概要など、成果を具体的に記載願いたい。</u>（進捗不十分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門能力向上のためのスキル別研修が実施されていないようであり、進捗率も低い。（進捗不十分） ・実施されていない研修もありますので、<u>それらの検証や、 どういう風に改善を図ったのかを、年度末進捗確認の際にお示し願います。</u> ・既に完了している「<u>新任教員研修</u>」及び「<u>新規採用職員研修</u>」については、<u>受講者及び研修講師へのアンケート並びに点検及び検証を実施したのかどうか示してほしい。実施したのであればその結果も示してほしい。</u> 	<p><u>だきたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・II-③-2-2について、病院事務検討会の実施は、諸課題や好事例、好取組を共有する上で、大変意義のある取組である。成果については、職員のレベルアップや業務改善に向けた体制構築を何で確認されたのか。
<p>III 財務内容の改善に関する目標</p>				
<p>1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標</p>				
<p><中期目標III-①> 自己収入を増加させ 安定的な大学運営を 推進する。</p>	<p>III-①-1 教育研究診療活動等の充実・強化のため、必要な組織・体制の見直しを行い、自己収入を増加させて安定的な大学運営を推進する。特に、多様なステークホルダーを募金対象とする「福井大学基金」については、募金活動に関する取組みの強化を図り、寄附金を着実に増加させる。 <研究推進課></p>	<p>III-①-1-1 III-①-1-2 III-①-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組について、各部署で順調に施策がなされている。其々自己収入の増加に繋がる成果があがっており、進捗は良好とした。 ・III-①-1-2 について、「毎年度の目標達成」と記載されているが、<u>具体的な目標の値を示し、それを達成できているのか具体的に記載願いたい。</u> ・文科省提出年度計画において、「戦略の策定」があげられているが、具体的な戦略が記載できるよう検討いただきたい。さらに、III-①-1-2 について、「対象者別に」となっているが、対応する取組はなされているのか。 ・<u>現在欠員中の特命 URA の補充時期や戦略及び活動内容の見直し状況、育成プログラムへ参加した後の検証と見直しについて、不明瞭なため、年度末進捗確認の際にお示しください。</u> ・III-①-1-1 について、平成 29 年度の年度計画では「<u>従事者数の妥当性評価</u>」とあるため、<u>妥当性の評価についても記載をいただきたい。</u>また、「<u>研究支援専門人材の研修・育成プログラムへの参加実績の検証と見直し</u>」についても<u>記載をいただきたい。</u> ・III-①-1-2 について、概ね順調と思われるが、「高額寄附企業への顕彰として～冊子『保護者の皆様へ』に～紹介記事を掲載し、好評を得た」の部分については、この記載だけではどのような状況か分からない。<u>誰から好評を得たのか、</u> 	<p>(検証結果) 進捗状況が良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に沿った取組がなされ、成果があがっている。当該計画では自己収入を増加させるよう、必要な組織・体制の見直しをしようとしているが、具体的な取組（自己収入増加の観点から）はなされているのか。 ・III-①-1-1 について、平成 29 年度の年度計画では「<u>従事者数の妥当性評価</u>」とあるため、<u>妥当性の評価についても記載をいただきたい。</u>また、その成果である研究に係る資金の獲得は順調に増加しているかを記載願いたい。 ・III-①-1-2 について、「毎年度の目標達成」と記載されているが、<u>具体的な目標の値を示し、それを達成できているのか具体的に記載願いたい。</u>文科省提出年度計画では「<u>対象者別に戦略的な～</u>」と記載されているが、対応する取組はなされているのか。また、当該基金のベンチマーキングを行ってはいかがか（他大学と遜色ない？）。 ・III-①-1-1 について、外部資金獲得のための研究支援人材の確保や人材育成に関しては着実に進んでいることが見て取れる。<u>これらの取組によって、外部資金等の受け入れにどう影響したかについても次回（平成 30 年度中間）の進捗状況入力の際に分析いただきたい。</u>

			<p>また好評を得たと判断できる根拠は何か、また、それが寄附金の獲得増に結びつくものなのかどうかも記載いただきたい。</p> <p>・Ⅲ-①-1-3 については「進捗状況が良好である」と思われる。</p>	
2 経費の抑制に関する目標				
<p><中期目標Ⅲ-②> 効率的な法人運営を行うため、人件費改革や管理的経費等の削減により経費の抑制を推進する。</p>	<p>Ⅲ-②-1 IR 機能を強化して、財務情報を戦略的に分析し、経費を抑制するとともに経費抑制のための業務改善に取り組む。また、エネルギー経費や施設・設備の更新経費抑制に向けた戦略を策定し、実施する。 <財務課></p>	<p>Ⅲ-②-1-1 Ⅲ-②-1-2 Ⅲ-②-1-3 Ⅲ-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 保留</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-②-1-2、Ⅲ-②-1-3、Ⅲ-②-1-4 について、具体の予定された取組が各部署で順調に進められており、目標値を超えるものがあるなど、具体的な経費削減が得られている。 ・Ⅲ-②-1-1 について、文科省提出年度計画では「管理的経費の予算削減の前年度比△1.1%」となっているが、これは達成できるのか。<u>相当する削減額を記載願いたい。</u> ・それぞれ取組が進められているが、<u>Ⅲ-②-1-1 に係る人件費改革の状況が確認できない、進捗率 30% ほどのような状況になっているのか示されたい。</u> ・現在、「総人件費方針」の見直しに取りかかっているのか否かが分かりませんので、<u>年度末進捗確認の際にお示ください。</u> ・<u>ESCO 事業による省エネ化について、進捗率を入力ください。</u> ・具体の取組Ⅱ-③-1-1 ペーパーレスによる削減 695 千円との整合性が取れていません。 ・<u>後発医薬品数量シェア 70%以上と標記していますが、その根拠をお示し願います。</u> ・<u>Ⅲ-②-1-1 について、少なくとも平成 29 年度前期に見直しの必要があったのかどうかを記載していただきたい。</u>進捗率の 30%の根拠も不明である。見直しを行わなかったとしても、見直す必要が無かったのであれば 50%にすることも妥当と思われる。見直す必要があったのに見直しを行わなかったとすれば 0%とすることが適切と思われる。「30%」という数値をどのように積み上げたのかが分からないため、説明をいただきたい。 ・Ⅲ-②-1-2 について、財務分析方法の仕組み作りについては、かなり遅れているのではないか。「管理的経費削減に向けた取組状況」は順調に進んでいるようだが、それにしても全体で進捗率 50%というのは高すぎるのではないか。 ・<u>Ⅲ-②-1-3 について、進捗率が 0%とのことだが、そこまで進捗率が低い理由が記載からはうかがえない。なぜ 0%なの</u> 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-②-1-2、Ⅲ-②-1-3、Ⅲ-②-1-4 について、予定された取組が各部署で順調に進められており、目標値を超えるものがあるなど、経費削減がなされている。これに関連し、文科省提出年度計画では記載された「管理的経費の予算削減の前年度比△1.1%」、「エネルギー使用量比 12%以上削減」は達成できたのか。 ・当該計画のアウトカムは「経費の抑制」であるが、その目標値は予め設定されているのか。また、削減額が多いのか、少ないのか、客観的に評価はできないか（他機関とのベンチマーキングなど）。 ・Ⅲ-②-1-2 について、コスト意識の啓発が年度計画に挙げられているが、啓発できたことを示すエビデンスが必要である。 ・Ⅲ-②-1-1 について、総人件費抑制のためにポイント制の見直しを行っていることは理解できるが、未使用ポイントの還元額を引き下げたことは人件費抑制にはつながらない。また、年度計画では「人件費の抑制」を掲げるが、実際マネーベースで人件費が抑制されたかどうか分からない。 ・Ⅲ-②-1-4 については「進捗状況が良好である」と思われる。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

			<p>か記載をいただきたい。</p> <p>・Ⅲ-②-1-4 については「進捗状況が良好である」と思われる。</p>	
3 事務等の効率化・合理化に関する目標				
<p><中期目標Ⅲ-③> 教育研究等の質の向上等のため、流動資産および固定資産の有効活用を推進する。</p>	<p>Ⅲ-③-1 資金（運営費交付金、授業料等自己収入、産学連携等研究費、受託事業費、寄附金における資金）の運用計画に基づき、資金を元本割れがないよう安全かつより利息の高い運用商品や金融機関を選択し、運用する。 <財務課></p>	Ⅲ-③-1-1	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組がなされている。 ・ 運用額が多額でありながら利息が非常にわずかである一方で、附属病院は多額の借入を行っている。借入利率は預入利率よりも確実に高いため、運用に回すよりも借入額を減らして支払利息を抑えることで、運用したときに得られる受取利息より大きいリターンを得るという方法も検討の余地があるのではないか。 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組がなされている。 ・ できるならば、運用状況が他機関に比べて優れているのか等を示せるベンチマーキングなどはできないか。 ・ Ⅲ-③-1-1 の他大学との資金共同運用について、2 回目以降留保とあるが、1 回目はいつ行って、運用益はあったのか否か。
	<p>Ⅲ-③-2 全学的に施設の有効な活用を促進し、計画的な維持管理の継続的な点検・見直しを行い、教育・研究の環境改善等を行うとともに、大学が保有する固定資産（施設等）を教育研究に支障のない範囲で学外者に有償で貸付ける等の有効活用を行い、自己収入の増加に繋げる。 <施設企画課> <財務課></p>	Ⅲ-③-2-1 Ⅲ-③-2-2	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調になされ、省エネによる光熱費削減、自己収入の増加が得られる等、成果があがっている。 ・ Ⅲ-③-2-1 について、省エネ改修ではあるが、関係者の好評等の成果を示せるよう検討いただきたい。 ・ Ⅲ-③-2-2 について、文科省提出年度計画では「前年度以上の自己収入増を目標」としているが、<u>現状ではどの程度達成できているのか具体的に記載願いたい。</u> ・ 全体的には良好と考えられるが、Ⅲ-③-2-1 について、年度計画に「利用実態を把握し、スペースの有効活用を図る」とあるが、今年度は、実態把握までを予定されているということか。 ・ スペースチャージの取組について、進捗率を入力ください。 ・ 28 年度実績額の記載がありますが、今年度はどれくらいの水準を目指しているのでしょうか。 ・ <u>ふくい産学官共同拠点の利用料実績に関し、昨年度と比較し増加傾向であるのか否かを記述ください。</u> ・ Ⅲ-③-2-1 について、進捗率が 0%とのことだが、そこまで進捗率が低い理由が記載からはうかがえない。なぜ 0%なのか記載をいただきたい。また、<u>削減額が平成 28 年度実績のため、平成 29 年度の数値を記載いただきたい。</u> ・ Ⅲ-③-2-2 のうち研究推進課分について、平成 28 年度に記載している数値と異なる集計方法で数値が記載されてい 	<p>（検証結果） 進捗状況が概ね良好である</p> <p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>当該計画のアウトカムは「自己収入の増加」であるが、目標値は立てられているのか、さらにそれに対する達成度はどうか、記載いただきたい。</u> ・ Ⅲ-③-2-1 について、スペースの活用によって 6 プロジェクトが進んでいるが、成果をフォローいただきたい。 ・ 「教育・研究の環境改善等を行う」によって得られる具体的な成果（関係者の満足度など）を提示できるように配慮いただきたい。 ・ Ⅲ-③-2-2 について、学外利用率は向上しているが、<u>利用者数、講習回数、参加者等は向上しているのか、データを示していただきたい</u> ・ Ⅲ-③-2-2 について、施設利用促進のための取組は鋭意行われているが、「自己収入の増加」を掲げているので、前年度収入より上回っているのか、そうでないのかが分からない。 ・ 広報活動として「パノラマ写真の公開」を挙げられている。これ自体は良い取組と思われる。しかし、パノラマ写真を公開したのは 1 教室のみである。また、そもそも施設に関する写真や情報の公開が非常に限定的である。個別にも問合せたが、あえて（戦略的に）情報公開を限定的にしているわけでもなかった。経理課の広報活動については、

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

			る。経年変化を確認しやすいように、今後は可能な限り毎年度同じ基準で集計した数値を計上していただきたい。	「1 教室のパノラマ写真の公開」以外の取組の記載が無いため、「進捗が不十分」とした。目新しい施策も重要だが、まずは基本的な情報の充実に注力願いたい。研究推進課の取組については「進捗状況が良好」と考えられる。（進捗不十分）
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標				
1 評価の充実に係る目標				
＜中期目標IV-①＞ 教育研究等活動の活性化に資する適切な評価制度の構築を推進する。	IV-①-1 教育研究等活動の更なる活性化や大学運営の改善に資するため、平成 28 年度末までに全学的に IR 機能を整備し、業務の分析・評価体制を充実・強化する。さらに、分析結果を基にした資源配分を行う。 ＜経営戦略課＞	IV-①-1-1 IV-①-1-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・IV-①-1-2 について、中期計画では「分析結果を基にした予算配分を行う」としている。本年度は、財務状況を分析する仕組みの構築が進められているが、具体的な予算配分に活用できるものとして、予算配分などでの実績を示せるようにしていただきたい。 ・ <u>全学的データの収集法の検討について、記述が不十分です。</u> ・IV-①-1-2 の財務 IR については、進捗率が 50% と言えるのか。遅れているのではないか。	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・IV-①-1-1 について、中計の進捗管理システムが運用されたが、成果が示していない、前年度比がなくどの程度進捗したのか明らかでない、など不備な点が散見され、記載方法をさらにブラッシュアップする必要がある。 ・IV-①-1-2 について、財務状況を分析する仕組みの構築を来年度中に構築し、資源配分に活用いただきたい。 ・IV-①-1-1 について、収入増に向けたどのような方策の実施を検討しているのか、具体例を挙げてもらった方がイメージがし易い。
	IV-①-2 教育研究等の活性化に資するよう教職員の評価制度に基づく評価結果や優れた業績を人事評価上の処遇へ反映させるなど、一層の適正化を進める。 ＜人事労務課＞	IV-①-2-1 IV-①-2-2	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・人事評価への反映を含めて、教員評価が有効であったとするエビデンス（たとえば、教員からの好評）を収集するようお願いしたい。 ・職務評価を実施しているが、改善したことによる好評を示すことができないか。 ・中期計画で挙げた「一層の適正化」が達成できたとするエビデンスを検討願いたい。 ・IV-①-2-2 について、年度計画に「各部局における教員以外の職務評価制度に・・・」とあるが、取組状況としては事務局が挙げられているが、これは事務局だけという理解で良いのか確認したい。 ・教員評価結果を人事評価へ適切に反映させることの検討が成されているのか否かが不明瞭です。 ・ <u>職務評価制度の検証が行われたのか否かが分かりませんので、年度末進捗確認の際にお示しください。</u>	(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・当該計画で挙げた「一層の適正化」が達成できたとするエビデンスを検討願いたい。 ・IV-①-2-2 について、なぜ 29 年度に見直しを行う必要がないのかを記述願いたい。 ・IV-①-2-2 については、個別に状況を確認した結果、「概ね良好」と判断した。

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

			<ul style="list-style-type: none"> ・IV-①-2-2 について、平成 29 年度の計画に「職務評価制度を検証し」とある。平成 29 年度については、まだ検証を行っていないようだが、その段階で進捗率を 80%とするのは、高すぎるのではないか。 	
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標				
<p><中期目標IV-②> 国立大学法人として、教育研究等の成果や大学運営の状況を積極的に社会に発信する。</p>	<p>IV-②-1 本学の教育研究等活動の状況や地域における役割等について、大学ポートレート等を活用し積極的に社会に情報発信するとともに、外国語によるホームページの充実等により国際的な広報活動を展開する。 <広報室></p>	<p>IV-②-1-1 IV-②-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の予定された取組が順調になされている。 ・ IV-②-1-2 について、広報室を中心に精力的に取組がなされている。具体の予定された取組では大学WEBに関する取組が予定されているが、該当する取組がなされたのか明らかでない。文科省提出年度計画でも「中国語によるHPの開設」があげられている。これに関連し、国際的な広報活動の取組はなされているのか明らかでない。 ・ <u>IV-②-1-2 について、これら取組の成果のエビデンスとなるリリース件数など評価指標を示し、向上状況を記載願いたい。</u> ・ 年度計画に挙げられている「中国語によるホームページの開設」の状況が確認出来ない。 ・ <u>キャンパスイルミネーションに関し、職員のきめ細かなサポートと信頼関係が増していること具体例をお示ください。</u> ・ 様々な広報活動の取組はしっかり記述されていますが、「多言語の翻訳ページ」「英語版の各学部等紹介」「WEB サイトの管理・運営の整理」についての進捗が読み取れませんでした。 ・ IV-②-1-1 で「来年より英語版の開発を進めているとの連絡を受け、英語版への参加について検討を行っている」とあるが、中期計画では「大学ポートレート等を活用し～国際的な広報活動を展開する」とある。英語版大学ポートレートへは検討を行うまでもなく参加すべきものではないのか。 ・ IV-②-1-2 では、平成 29 年度の計画にある「大学 WEB サイト英語版を基に、多言語の翻訳ページの作成について検討する。」「大学 WEB サイト英語版の各学部紹介等の制作について検討する。」について記載がない。それにもかかわらず進捗状況が 100%というのは過大ではないか。中期計画にも「国際的な広報活動を展開する」とある一方で、進捗状況で国際的広報活動に関する記載は「欧文封筒」だけ 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ V-①-1-1 について、「大学ポートレートへの掲載情報の充実を図る」としているが、具体的にどのような見直しが行なわれ、充実できたのか明らかでない。 ・ ホームカミングデーやキャンパスイルミネーションは拡大されているが、これ以外学外ステークホルダーとの交流を進める企画はなされないのか。 ・ IV-②-1-2 について、様々な広報活動がなされている。当該計画では「国際的な広報活動を展開」としているが、外国語によるHPの充実以外の方策は検討されているのか。 ・ <u>広報活動については、学外者がどのような事項に関心を持つのか、関係者のニーズの洗い出しをする必要がある。</u>これに基づきどの点を強化するのか、方策を立てることができるのではないか。 ・ <u>広範な広報活動の結果、どのような成果が得られたのか（どのように還元されたのか）までをフォローしていただきたい（アウトカムになる）。</u> ・ 当該目標では「大学運営の状況も発信する」となっているが、具体的な発信はなされているのか明らかでない。 ・ IV-②-1-2 について、情報発信のための様々な取組が行われていることは評価できるが、中国語によるホームページの開設や、多言語の翻訳ページ、英語版の各学部紹介に関する検討状況に関しての記述がないため、お示し願いたい。 ・ IV-②-1-1 は「良好」と考えられる。IV-②-1-2 について、「具体の取組」に記載のある各事項の進捗状況が分からなかったため個別に確認し、「概ね良好」と判断した。今後「進捗状況」欄には、「具体の取組」の事項1つ1つの進捗状況が分かるように記載願いたい。

			であり、「国際的な広報活動」に限定すれば取組はむしろ遅れているのではないかと。また、 <u>評価指標の「リリース件数」、「記者説明会の実施件数」、「大学 WEB サイト（日・英）のアクセス件数」についても毎回記載してほしい。</u>	
V その他業務運営に関する重要目標				
1 施設設備の整備・活用等に関する目標				
<p><中期目標V-①> 施設設備面のマネジメントを強化し、教育研究等環境の改善充実を推進する。</p>	<p>V-①-1 教育研究等の環境改善を推進するため、キャンパスマスタープランについて、随時学内委員会で検討を行い、必要に応じ修正する。既存施設の状況については、施設整備計画を基に、毎年度点検・見直しを行うことで、省エネルギーを含めた維持管理および施設整備を推進する。また、既存施設の有効利用を進めるため、学長のリーダーシップ等により、スペースチャージ制度によるスペースの確保と再配分を一層推進し、教育研究活動の活性化を図る。 <施設企画課></p>	<p>V-①-1-1 V-①-1-2</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2取組がいずれも進捗状況が0%と自己評価している以上、「不十分である」とせざるを得ないが、なぜ0%か分からない。過小ではないか。また、<u>削減額が平成28年度実績のため、平成29年度の数値を記載いただきたい。(進捗不十分)</u> ・V-①-1-1について、キャンパスマスタープラン2018の策定が進められているが、その際、何が具現化され、何が課題として残ったのかなど、プラン2012の総括をお願いした。 ・V-①-1-2について、Ⅲ-③-2-1およびⅢ-②-1-3と同じ内容の具体の取組・成果が記載されている。もちろん、これらは連携していることが十分理解できるが、夫々の中期計画は異なる目標を達成する取組であることを意識した記載としてほしい。 ・何れも進捗率が0%になっているが、これは、例えば、V-①-1-1について、2018策定に向け、そのような状態にあると判断して良いのか。また、Ⅲ-③-2-1にも記載したが、年度計画に「利用実態を把握し、スペースの有効活用を図る」とあるが、今年度は、実態把握までを予定されているということか。 ・進捗率を入力ください。 ・<u>キャンパスマスタープラン2018の策定について、スケジュール感（今年度に完成するのか否か）を記述いただいた方がよいかと思います。</u> ・28年度実績額の記載がありますが、今年度はどれくらいの水準を目指しているのでしょうか。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・V-①-1-2について、Ⅲ-③-2-1およびⅢ-②-1-3と同じ内容の具体の取組・成果が記載されている。もちろん、これらは連携していることが十分理解できるが、夫々の中期計画は異なる目標を達成する取組であることを意識した記載としてほしい。 ・当該目標では「マネジメントを強化し」となっている、それに対応するものとして計画等では「学長のリーダーシップ等により」となっているが、具体が明らかでない。<u>第2期に比べて、マネジメントが強化されたことを示すエビデンスはあるのか。</u> ・V-①-1-2について、全学共同スペースはもともと確保されていたことであり、これまでに増して有効活用が計られたのか。
2 安全管理に関する目標				
<p><中期目標V-②> 学生および教職員の安全管理を強化するための取組を推進</p>	<p>V-②-1 学生の修学環境について、定期的な点検を行い必要な改善を実施するとともに、教職員相互による安全管理に関する自主的な点検・改善を推進し、教職員の安全管理に関する意識向上を図ることにより、法定の巡回点検による改善点の指摘事項を減少</p>	<p>V-②-1-1 V-②-1-2 V-②-1-3 V-②-1-4</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調になされている。 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調になされている。

<p>する。</p>	<p>させる。 <人事労務課> <教務課></p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「改善点の指摘事項の減少」がこの計画でのKPIとなっているが、その数値を記載願いたい。 ・V-②-1-1について、教職員の意識が向上したことを示すエビデンス（意識調査結果の向上など）の収集を検討していただきたい。また、講習会等の開催回数、参加人数の把握もお願いしたい。 ・V-②-1-2、V-②-1-3、V-②-1-4について、「学生満足度の高い」をうたっており、満足度の向上がKPIとなるので、その点を検討いただきたい。 ・文科省提出年度計画に記載された「意識調査結果を反映した研修等の内容」となっているが、具体的に反映されたものとなっているか確認願いたい。 ・講義室の突発的な故障等の対応について、具体例を記述ください。 ・課外活動施設や危機管理体制等の点検、学生生活アンケート要望に対する対策について、【成果】に記述した内容は【具体の取組】に記述する内容でありますので、年度末進捗確認の際に改めて【成果】を整理ください。 ・V-②-1-4について、【具体の取組】は実際に行ったことを記載しているのであれば、具体的に記載してほしい。例えば「～できることから対策を継続して行う」とあるが、どのような対策を継続して行っているのか記載していただきたい。もし【具体の取組】は「姿勢」を示すもので、実際に行ったことを【成果】に記載しているとすると、記載が不十分な印象を受ける（避難訓練は、危機管理体制の点検に該当するのか。「ゴミ箱等へのタバコのポイ捨てについて対策中」とあるが対策かなりの時間がかかっているのか。「対策を検討中」ということか。他にも何か行っていないのか。他に取組が無い場合、それは安全に関する要望がなかったからか。もしくは要望があるがまだ対応していないのか。などが気になる。）。少なくとも平成 29 年度の計画に記載した事項にしっかりと取り組んでいるのかどうか、第三者にもわかるように記載を願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・V-②-1-1について、「教職員全員の～」とされているが、現状の研修会等の参加状況ではこれに及ばないのではないか。さらに多数の教職員が参加できるように工夫が必要である；少なくとも参加人数、講習回数が増加していることを示していただきたい。 ・V-②-1-2、V-②-1-3、V-②-1-4について、教育の関する中期目標では「学生満足度の高い」をうたっており、満足度の向上がKPIとなるので、改修等への学生の満足度の検証を検討いただきたい。 ・当該計画では「法定の巡回点検による改善点の指摘事項の減少」がアウトカムであり、実際には点検事項の変更によって指摘事項が増加している。このあたり、評価指標としての整合性をどのようにするのか検討願いたい（今後減少すれば問題ないが）。 ・V-②-1-3、V-②-1-4について、危機管理体制の点検等を行うとしているが、具体的な取組はなされたのか明らかでない。 ・各所安全管理のための点検により改善が図られている。しかし、危機管理体制の点検に関しての記述がないため、改善されたのかどうか分からない。 ・危機管理体制の点検も実施をお願いしたい。
<p>3 法令遵守等に関する目標</p>				
<p><中期目標V-③> 法令遵守等を徹底するとともに、危機管理機能の強化を推進する。</p>	<p>V-③-1 監事の権限強化に伴い、サポート体制を充実させる。さらに、法令遵守（コンプライアンス）並びに公的研究費の不正使用防止のための教育や研究活動の不正行為防止のための研究倫理教育を着実に進め、教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表するなど、組織的に浸透させる。また、危機管理体制の強化のため、経営上のリスクマネジメント</p>	<p>V-③-1-1 V-③-1-2 V-③-1-3</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・「教職員の受講状況や理解度を把握し、教育の受講状況を部局ごとに公表する」について、具体的な状況を記載願いた 	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の予定された取組が順調になされている。 ・V-③-1-1について、監査指摘事項等のフィードバックがなされていることが見えるような資料の作

平成 29 年度進捗状況に対する IR 室コメント（様式）

	<p>トの観点から、定期的・継続的な点検を行う。 <監査室> <研究推進課></p>		<p>い。 ・V-③-1-2、V-③-1-3について、<u>教職員の該当する意識がどの程度向上したかがKPIであり、関連する調査の実施と調査結果の記載をお願いしたい。</u> ・内部統制システムの実質化について、【成果】に記述した内容は【具体の取組】に記述する内容でありますので、年度末進捗確認の際に改めて【成果】を整理ください。 ・V-③-1-1について、平成 29 年度の計画にある「<u>監事の権限強化によりどのような業務が増えたのか～洗い出す</u>」についても記載いただきたい。</p>	<p>成をお願いした。 ・V-③-1-2について、この度「内部統制システム」が再構築・運用されたが、その具体的な成果を示せるよう検討願いたい。 V-③-1-3について、関係する意識の向上度を検証いただきたい。 ・文科省提出年度計画では「優先的に取組むリスクに対するマニュアルを整備・見直しを行う」としているが、具体的な整備・見直しがなされたのか。 ・研究不正行為、研究費不正使用防止に関する情報収集は、どのようにして行ったのか記述願いたい。</p>
	<p>V-③-2 情報セキュリティの維持と強化に向け、利用者の意識向上と情報セキュリティ体制の充実強化を行う。 <学術情報課></p>	<p>V-③-2-1</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・進捗状況が 0%と自己評価している以上、「不十分である」とせざるを得ないが、なぜ 0%か分からない。過小ではないか。なお、平成 29 年度の計画にある「<u>必要なセキュリティ対策において優先順位を定める</u>」ことの進捗状況も記載をいただきたい。(進捗不十分) ・「利用者の意識向上割合」が一つのKPIであり、その継続的調査を検討いただきたい。 ・実施される関係セミナー等への参加状況など、継続的に把握願いたい。 ・「検討された施策」の経緯が読み取れませんでした。</p>	<p>(検証結果) 進捗状況が概ね良好である (コメント) ・「<u>利用者の意識向上</u>」が一つのKPIであり、その継続的調査をおこなう必要がある。当該計画のアウトカムは何か具体的に設定し、それを検証するデータ収集等を行わなければならない。 ・当該年度計画では「必要なセキュリティ対策において優先順位を定める」となっているが、具体の取組には事項が羅列してあり、優先度が明らかでない。 ・行うべきセキュリティ対策の優先順位はどうなったのか、進捗をお示し願いたい。</p>